

令和3年度
神戸大学附属図書館年次報告

令和4年9月

編集：神戸大学附属図書館評価委員会

* 附属図書館ホームページ掲載 *

<https://lib.kobe-u.ac.jp/about/facts/reports/>

刊行のご挨拶

附属図書館長 櫻井 徹

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は令和3年度も収束せず、第4波、第5波、第6波とさらに勢いを増しました。附属図書館は、本学の活動制限指針に沿いながら、学生や教職員の皆様への支援を可能な限り行ってきました。

図書館ガイダンス（オーダーメイドガイダンスを含む）や講習会、イベント等のオンライン化に加え、令和2年度から開始したチャットレファレンスも徐々に知られるようになり、チャット上で年間200件以上の利用者からの相談に対応しました。

オンラインによる資料提供も拡大し、電子ブックの大幅導入、辞書・文学全集等のデータベースの同時アクセス数増加を実現しました。

また、田嶋記念大学図書館振興財団の助成金を獲得し、医学分館の閲覧室の様様替え・デスク購入を行い、学修環境の向上を図っています。

研究支援としては、例年通りオープンアクセス推進WGメンバーにより著作権を調査し学術成果リポジトリ Kernel での公開を進めました。また、昨今、国から大学に求められているオープンサイエンスの知見を深めるため国立大学図書館協議会の地区助成事業として研修会「研究データポリシーの策定に向けて」を開催し、学外の職員にも貢献しました。

また、電子図書館事業により、「震災文庫」や「新聞記事文庫」等のデジタル化も推進しています。令和3年度に応募した科学研究費補助金（研究成果促進費）が採択されましたので、令和4年度はさらにデジタル化を加速することができる予定です。

令和4年度は、自然科学系図書館の改修、図書館システムのリプレイスも佳境となります。館長をはじめ附属図書館職員一同、よりよい図書館サービスを目指し、取り組んでまいります。

本報告書は、令和3年度に附属図書館が実施した幅広い事業を詳細にまとめたもので、各実績に関する自己評価に相当するものです。多くの方々に附属図書館の活動をご理解いただくとともに、今後の図書館運営について忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

令和3年度神戸大学附属図書館年次報告

刊行のご挨拶

<u>1. 本年度の取り組みの概要</u>	p. 1
---------------------------------	------

2. 学習・教育支援

(1) 開館サービス	p. 7
(2) 学生用資料整備	p. 10
(3) 資料提供サービスと利用促進	p. 11
(4) 図書館相互利用 (ILL) サービス	p. 17
(5) 学生との協働及び学生参加型の取組	p. 17
(6) 情報リテラシー教育の推進支援	p. 19

3. 学術研究支援

(1) 研究用資料の整備	p. 23
(2) 電子的情報基盤の整備	p. 26
(3) 蔵書目録データベースの整備	p. 30
(4) 資料の保存	p. 31

4. 社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス・展示会の開催	p. 32
(2) 震災文庫	p. 33
(3) 電子図書館システムによる情報発信	p. 35
(4) 機関リポジトリによる情報発信	p. 37
(5) 国際連携	p. 39

5. 管理運営等

(1) 図書館組織と運営	p. 39
(2) 事務組織と人事管理	p. 41
(3) 予算及び財務会計業務	p. 46
(4) 施設整備・システム整備	p. 48
(5) 図書館界での諸活動	p. 51

<付録>

付録 1	神戸大学附属図書館今後10年の運営方針について	p. 54
付録 2	達成度評価（第3期中期目標・中期計画・年度計画管理表より）	p. 57
付録 3	第3期数値結果実績	p. 59
付録 4	達成度評価の根拠資料 附属図書館開催イベント・セミナー等のアンケート結果	p. 60
付録 5	附属図書館に関する自己点検・評価結果、 及びそれを踏まえた対応措置	p. 73

基本統計表

付録 6	蔵書・受入等の現況（各館室別）	p. 79
付録 7	サービス業務の現況（各館室別）	p. 80
付録 8	電子的情報サービスの現況	p. 81
付録 9	図書館組織図・事務組織図	p. 82
付録 10	附属図書館諸会議（議題一覧、委員名簿）	p. 83
付録 11	附属図書館予算・決算表（運営経費、資料費）	p. 90
付録 12	附属図書館活動日誌	p. 92

1. 本年度の取り組みの概要

◆新型コロナウイルスへの対応 ―令和3事業年度に係る業務の実績より抜粋―

【教育体制】

- ・新型コロナウイルス感染症への対応を契機とした、オンラインによる資料提供促進のための電子ブックの充実が大学執行部から認められ、神戸大学基金新型コロナウイルス感染症対策緊急募金（学生）から電子ブック拡充経費として2,400千円配分され、計222件(シラバス掲載図書216件、参考図書6件)を購入した。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴い、また大学の活動制限指針の変化に応じて、開館時間の短縮や土日開館の中止、閲覧席数制限、滞在時間制限を実施。
- ・前年度に続き郵送による資料貸出を実施（R3年度3月末時点でのべ85件、264冊）。
- ・新型コロナウイルス感染症への対応の一環で、来館利用ができない学生のためのサービスとして、全国でもいち早く導入したチャットによる利用者相談受付は2年目となり、当初は大半が開館時間等基本的な質問だったが、本年度は専門的な利用方法や文献調査方法の問い合わせも含まれるようになり、有効なサービスとして定着したと見なされる（R3年度3月末時点でのべ208件）。
- ・全学共通科目「情報基礎」（1年次必修）の1コマ(90分)を、附属図書館各館室の職員で構成する「情報リテラシー教育支援ワーキンググループ」のメンバー12名が担当、前年度と同様オンデマンド型遠隔授業で実施。（前期後期計23回、2,650名受講）。
- ・初年次セミナーにおける図書館ツアー・ガイダンスを、7学部に対し対面18回、オンデマンド8回、オンライン(Zoom)4回の計30回実施、1,071名受講。
- ・前年度に続き、学生の読書支援のため、またオンラインで学生が参加できるイベントとして、「オンライン読書室」(Web会議で読書時間を共有して知的交流をはかる)を開催（9/6～10、のべ11名参加）、同時に今回新たに「あなたの本探します」リクエストを募集（6名より8件受付あり）。
- ・学生の多様なニーズを直接選書に反映させる学生選書ツアーは、昨年度に続き、オンラインで電子ブックを試読・選定してもらう電子ブックリクエストキャンペーンとして10/1～11/30で実施、80名参加、112件(805,633円分)購入。
- ・教員と連携して、国際コミュニケーションセンター学術交流研究部門主催で、総合・国際文化学図書館にて昼休みトークイベントを、「外国語授業のその先に」をテーマに全4回、今年度はZoomによる配信を併用して10/18～21に開催（Zoom接続と現地参加者合計132名）。
- ・シラバス型パスファインダー「KULiP」は本年度43件作成（累計80件）し、またセルフラーニング資料を累計32件登録。

【社会貢献】

- ・コロナ対応による入館制限のため、展示ホールでの資料展の開催は前年度同様実施せず、代替とし、HP上でのデジタル資料展「村上家文書の世界」を10/15より公開。
- ・一般市民への図書館開放や資料の館外貸出サービスは、コロナ対応に伴う学外者の入館利用停止中のため、前年度に続きサービス停止中。

◆学習・教育支援

(1) 開館サービス

前年度以降、新型コロナウイルス感染症流行下における入館制限等に対応した臨時休館や利用制限を行ったが、徐々に制限を緩和し、年間総入館者数は約 19.4 万人で前年度比 2.5 倍となった。前年度における入館者数の減少、および今年度の増加は、感染症の流行によって学習場所としての図書館の重要性が明らかになったといえる。また、非来館型のサービスの重要性が明らかになったことから、開館サービスのみではない図書館の利用指標の設定が今後の課題となった。

(2) 学生用資料整備

各館室の学生用資料整備は図書館予算から各館室に配分した経費と各館室のサービス対象部局から拠出された経費を合わせて実施されている。本年度の図書館予算は、各館室への配分比率を見直し前年度と同額の 40,000 千円とした。また、前年度に整備した学生用図書を選定評価を実施し、構成と利用の面で選定が適切に行われたことが確認された。

今後も厳しい予算状況が続くと見込まれるが、教育・学習活動の支援のため現行の予算規模の維持を目指すと共に、コンテンツへのアクセス可能性を担保・拡充するために冊子のみならず電子ブックを含めたリソース構築を目指す必要がある。

(3) 資料提供サービスと利用促進

学生への年間貸出総冊数は約 191 千冊で、前年度比約 2 倍となった。1 日あたり入館者数（同約 2.1 倍）であり、比例して増加したといえる。感染症流行対策としての利用制限を実施しつつも、資料提供サービスの面では図書館としての役割を一定程度維持できていたと評価できる。

来館が難しい学生を対象とした郵送貸出の実施の他、利用促進においても非来館型の取り組みを行い、電子ブックを利用した「仮想展示」やイベント「オンライン読書室」、対面とオンラインのハイブリッド形式での「トークイベント 2021『外国語授業のその先に』」を実施した。

(4) 図書館相互利用 (ILL) サービス

図書館相互利用 (ILL) について、前年度に比べ開館日数や入館者数が増加した影響もあり全体として複写・貸借ともに増加した。社会科学系図書館は、複写・貸借ともに全体の約半数を受け付けており、全学の中で ILL 受付の大きな部分を担っており、同館が人文・社会科学系の外国雑誌センター館としての責務を果たしていることがわかる。

(5) 学生との協働及び学生参加型の取組

「附属図書館学生チーム ULiCS (うりくす)」は本年度末時点で 20 名が参加し、計 7 回の定例会（オンラインと対面併用による）開催、団体誌『The ULiCS Times』の第 9 号～第 10 号の発行・公開等の活動を行った。また、発足後初となるトークイベント「ULiCS 座談会」を企画、実施した。2019 年にも行った神戸松蔭女子学院大学図書館サポーターとの交流会を今回は、オンラインでの実施を提案、開催。前年度は中止していた学生参加型のイベント読書会「まごまご読書倶楽部」もオンラインにて概ね毎月実施。メンバー同士の交流を目的に slack を使って「おすすめコンテンツチャンネル」を開設。また活動の可視化促進を目指し、学内学生団体 (KooBee) 発行サークル図鑑への掲載やツイッター広報の強化、ブックログを使ってのおすすめ本の紹介、ULiCS 文庫の開催にも取り組んだ。

(6) 情報リテラシー教育の推進支援

図書館員が 1 コマを担当する全学共通授業科目「情報基礎」は、本年度もオンデマンド型遠隔授業として開講され、23 クラス・2,650 人が受講した。また授業の理解度テストは、全ての設問で正解率

が8割以上となった。「情報基礎」と同じく必修科目である「初年次セミナー」では、対面での図書館ツアーのほか、オンラインでの図書館利用案内や、教材の提供等を行った。ガイダンスやオリエンテーションは、オンラインでも実施できるようになったこともあり、コロナ禍以前の実施件数に戻りつつある。またパスファインダー「KULiP」の運用と内容更新、チャットによるオンラインレファレンスを継続して行った。

◆学術研究支援

(1) 研究用資料の整備

第3期中期計画後半（令和元～3年度）の教育研究基盤資料整備費について、平成30年5月の部局長会議での承認に基づき、本年度は「教育研究基盤資料整備費」約3.63億円（決算ベース）が措置され、電子ジャーナル及びデータベースは平成28年度の契約規模を維持することができた。

第4期中期計画前半（令和4～6年度）の教育研究基盤資料整備費による整備方針について、令和2年10月8日の部局長会議において、上限4.1億円として承認を得た。

附属図書館運営経費は、本年度当初予算は約2.59億円で令和2年度より約0.04億円減（約1.6%減）となった。附属図書館図書資料費（学生用資料費・e-study資料費・震災文庫資料費・外国雑誌センター館経費）の確保が困難となっているが、本年度は令和2年度と同額の約0.72億円の予算を確保した。しかし資料本体の値上げ等により、全体の購入資料数は減少を続けている。

外国雑誌センター予算については、附属図書館予算の約1割を目標とし、0.26億円（令和2年度は0.27億円）を確保した。令和元年度にパッケージ購読を開始しタイトル契約数を増やしたことにより、EJ利用数やILL受付件数が増えた。このことから資料の利便性が向上したと推測できる。

(2) 電子的情報基盤の整備

本年度末における電子ジャーナル購読数は37,077タイトル、総ダウンロード数は教育研究基盤資料整備事業によるもので約140万件と、総体として非常によく利用されており、必須の教育研究基盤資料となっている。電子ジャーナル購読数は令和2年度の規模を維持している。

電子ジャーナルの価格上昇に加え、円安が顕著に進行している情勢であり、次期中期計画期間においては、転換契約の広がりを見込めつつも、基盤維持と経費のバランスを考慮した整備計画を立案・進行する必要があると考えられる。

(3) 蔵書目録データベースの整備

目録遡及入力の本年度実績は、特殊資料（和漢古書、洋古書、マイクロ資料など）と研究室からの返納図書、製本雑誌等を合わせ約8,236冊で、全蔵書数約378万冊のうち約329万冊（約87%）がOPAC（オンライン目録）で検索できるようになった。特に和古書は、国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業のデータベース構築にあたり目録データ作成が不可欠なため、重点的に入力を行っている。

(4) 資料の保存

前年度に実施した意向調査、同じく前年度に更新した「実務指針」に基づき資料の除籍を実施し書庫狭隘化の課題解決に取り組んだ。今後は改修中の自然科学系図書館の増築部分に共同利用書庫が新設され、附属図書館全体における体系的な資料整備が進むことが期待される。また、突発的な空調機の故障や豪雨に伴う雨漏りなどに備え、資料保存の適切な環境整備になお一層努めていく必要がある。

◆社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス・展示会の開催

前年度に続き本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴い学外者の入館は原則不可となり、社会に開かれた図書館としての役割を十分に果たすことが難しい年となった。総合・国際文化学図書館と海事科学分館において一般市民への貸出サービスを実施しているが、令和2年3月以降、原則不可となり前年度に続き貸出冊数は0冊となった。

資料展についても、展示ホールでの開催は中止とし、代替として前年度に続きデジタル資料展を公開した。所蔵資料・古文書の紹介、また地域の歴史、それも一般にはあまり知られていない事柄の紹介としても、意義はあると評価する。今後もデジタル資料展での実施も含め、ウィズコロナの状況下で可能な形態で取組んでいきたい。

(2) 震災文庫

前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事前予約制（学内者のみ）での利用に制限したため、来館者数は低調だった。所蔵資料総数は6万2千件を超え、震災文庫データベースへの本年度のデータ入力は2,427件、レコード総数は30万4千件を超えた。また、サンテレビジョンから寄贈を受けた阪神・淡路大震災当日の動画98件をデジタルアーカイブで公開した。資料収集の他には、デジタルコンテンツへのクリエイティブコモンズライセンスの適用を進める等、コンテンツの利活用促進のための取り組みをおこなった。

(3) 電子図書館システムによる情報発信

平成11年より「震災関係資料」、「経済関係資料」、「学内研究成果」を3本柱に「神戸大学電子図書館システム」によるデジタルアーカイブ構築を行っている。「経済関係資料」では、電子図書館事業経費、学内ワークスタディ事業、学生アルバイト雇用、館内職員の内製作業により「新聞記事文庫」の電子化公開を進め、当電子化事業で対象と定めた戦前の全記事約35万6千件のインデックスデータ作成を完了した。そのほか、国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業による電子化・画像公開や、「若林家文書」の電子化公開準備など、コンテンツの拡充を進めている。さらに本年度は、令和4年9月のシステム改修におけるデジタルアーカイブの利便性向上を目指し、IIIFやJPCOARスキーマへの対応準備をすすめた。今後は、メタデータの二次利用条件の明確化および外部連携のさらなる拡大、電子化画像の保存体制の改善が課題である。

(4) 機関リポジトリによる情報発信

平成18年度に稼働を始めた「神戸大学学術成果リポジトリ (Kernel)」は、本年度は1,728件のコンテンツが新規登録され、総コンテンツ数は34,466件に達し、順調にコンテンツ数をのばしている。前年度に引き続いて設置したオープンアクセス推進WGでは、主な取組として、KUIDに登録された論文情報3,173件の出版社の著作権調査を実施し、公開可能なもののうち186件について著者へ登録依頼し、68件を登録した。そのほか、令和4年9月のシステム改修におけるJPCOARスキーマへの対応準備や、メタデータオープン化の検討など、根本的な運用の見直しも進めることができた。今後は、「神戸大学オープンアクセス方針」を含めたオープンアクセス・オープンサイエンスに関する周知・広報活動の拡大や、研究データ公開体制の検討を進めていきたい。

(5) 国際連携

本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、海外渡航および海外からの来日が著しく制限されており、国立大学図書館協会海外派遣事業（短期）への応募は見送ることとなった。海外渡航が可能となる場合に向けて、海外派遣には予算の確保が不可欠であり、今後も外部資金の獲得などを積極

的に行っていく必要がある。

◆管理運営等

(1) 図書館組織と運営

令和3年3月、任期満了により富山明男館長（工学研究科教授）が退任し、4月より部局長経験者である櫻井徹館長（国際文化学術研究科教授）が就任した。館長の交替に伴い、副館長3名が交替した。4月30日に館長・副館長・分館長懇談会を開催し、新たな役割分担を決めた。附属図書館運営委員会はメール回議1回を含む5回開催した。第4期中期計画前半（令和4～6年度）の教育研究基盤資料整備費による整備方針については、令和2年10月8日の部局長会議において、上限4.1億円として承認を得ている。このことにより令和6年度まで教育研究基盤資料の安定した提供が可能である。情報サービス課連絡会議にて各館室の状況を把握し、神戸大学活動制限指針に応じた図書館の開館やサービスの方針を周知徹底することで新型コロナウイルス感染拡大防止に対応した。研究開発室については、電子化部会と教育研究支援部会がそれぞれ、室員の教員より意見・助言を得ることができ、設置目的のとおり高度な図書館サービスの実現に寄与している。

(2) 事務組織と人事管理

7月時点で、附属図書館事務部は2課2グループ11係、定員46名、非常勤職員32名の78名であった。経済経営研究所図書係に定員3名、大学文書史料室に定員2名、非常勤職員2名を配置している。大学文書史料室の再雇用職員1名の増員配置は、令和3年度より恒久的な増員配置として承認された。事務組織改編により電子図書館係と情報システム係は電子情報グループの各担当となり、あらたに震災文庫担当（社会科学系図書館配置）が設置された。自然科学系グループと医学グループは各館の情報サービス係となった。本年度も感染症拡大防止のため多くの研修が対面からWebに変更となるなか、学外のWeb研修に積極的に職員が参加した。係横断的な業務や課題解決のためのワーキンググループについては、具体的な業務目的を負ったものに絞って設置し、いずれも活発に活動し成果をあげている。アウトソーシングについては、時間外開館及び土・日開館業務の外部委託を、昨年度に続き新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴い縮小した。なお次年度については、予算の縮減と委託経費の上昇により外部委託は維持困難と判断し、学生アルバイトと非常勤職員（パート）による実施に変更することになっている。業務改善は、継続検討となった課題に新規事項も加え、引き続き取り組んでいく。

(3) 予算及び財務会計業務

經常運営費・經常事業費の当初予算総額は259,099千円で、前年度の263,135千円から4,036千円の減となった。新型コロナウイルス感染症の影響により光熱水料や時間外開館経費が減少したが、その予算残により、各館室でのWeb会議対応のためのパソコン機器の整備や、老朽化した防犯カメラを更新することができた。また自然科学系図書館の改修について、移転費や施設整備費や集密書架新設等の経費が予算措置され、準備や移転作業を実施できた。次年度も引き続き自然科学系図書館の改修を、確保した予算内で実施する。また時間外開館の実施においては、可能な限りの規模の維持と必要な経費の確保は今後も大きな課題である。

(4) 施設整備・システム整備

学修支援機能の強化を目的としたLC設置と、資料収容力強化を目的とした増床のための自然科学系図書館の施設改修を、本年度と次年度の2年間で実施する。次年度も引き続きこの実施が図書館での大きな課題となる。社会科学系図書館管理棟の外壁について、タイルが剥落する危険性があるため、

建物老朽化対策経費等により改修工事を実施中で、次年度に完成予定である。附属図書館長裁量経費により、老朽化した防犯カメラを総合・国際文化学図書館、人間科学図書館、医学分館、海事科学分館の4館で更新することができた。医学分館においては、田嶋記念大学図書館振興財団助成金により、キャレルデスク6台と大型本用書架1台を購入し、設備整備を実施した。

システムについては、学内予算措置により、入退館管理システムの更新を、総合・国際文化学図書館、人間科学図書館、海事科学分館の3館で実施することができた。令和4年9月に予定される図書館システムのリプレイスにつき、入札を経てベンダーが決定した(日本電気株式会社)。サーバ機器類のクラウドホスティングサービス利用、デジタルアーカイブ機能の標準化、施設予約機能の実装による非対面サービスの充実などが現行システムからの大きな変更点である。引き続き各所と連絡を取り合い、スムーズなサービスインを目指す必要がある。

(5) 図書館界での諸活動

本年度は国立大学図書館協会近畿地区助成事業の実施担当として研修会を開催し、報告者としても1名が携わった。兵庫県大学図書館協議会では引き続き会長館、事務局として協議会の運営にあたった。国立情報学研究所の1部会の委員を務め、JPCOARでも1作業部会員を務めた。国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター拠点連携委員会の委員を務めた。他機関・団体等が開催する1件の研修に、担当者等として1名が携わった。他機関との連携は参加する職員自身の資質向上にもつながるものであり、今後も推進が期待される。

2. 学習・教育支援

(1) 開館サービス

≪開館状況≫

本年度は前年度に続き「新型コロナウイルス感染拡大防止のための神戸大学の活動制限指針」のレベル（「授業」および「学生の入構」）に対応し、開館時間は下表のとおりであった。

期間	活動制限指針 レベル	開館時間	学生の利用制限
4/1～4/5	レベル1	月～金 9:00-17:00 (社会科学系図書館は月～土 9:00-17:00)	許可不要 サポート館限定なし 閲覧室利用可(滞在 2 時間まで、席数制限、私語禁止)
4/9～4/25	レベル1	月～金 9:00-17:00 (社会科学系図書館は月～金 9:00-19:00、土 10:00-19:00)	同上(滞在時間制限なし)
4/26～5/25	レベル1	同上	同上(滞在 2 時間まで)
5/26～7/13	レベル1	同上 (7/1 より医学分館は月～金 9:00-19:00)	
7/14～9/30	レベル1	同上	同上(滞在時間制限なし) ※医学分館のみ制限 2 時間(8/30～9/30)
10/1～1/17	レベル1	月～金 9:00-17:00 (社会科学系図書館は月～金 9:00-19:00、土 10:00-19:00、医学分館は月～金 9:00-19:00)	12/17～ 同時入館者数と席数を見直し
1/18～	レベル1	同上	変更なし

※保健科学図書室は 4/12～リニューアルオープン

※次の通り、臨時休館があった。

自然科学系図書館 8/9 休日の授業実施日、台風による暴風警報発令のため 11 時で臨時休館

保健科学図書室 8/11～12 職員のワクチン接種のため

人間科学図書館 3/9～10 入退館管理システム設置作業のため

※自然科学系図書館は改修工事のため、次の開館となった。

12/1～休館、1/5～臨時窓口・資料コーナー開設、令和 5 年 4 月上旬(予定)リニューアルオープン

- ・ 学外者の入館は令和 2 年 3 月以降、原則不可としている。
- ・ 祝日授業日開館は自然科学系図書館のみで実施（台風による暴風警報発令のため 11 時で閉館、試験期特別開館、医学分館での 24 時間開館は実施できなかった。）
- ・ 前々年度から試行していた図書館利用証（学生証）の代わりに、スマートフォン上に表示させた利用者バーコードを読み取らせて入館ゲートを通過する「スマホ入館」を 10 月 1 日より正式導入した（経済経営研究所図書館及び医学分館を除く）。

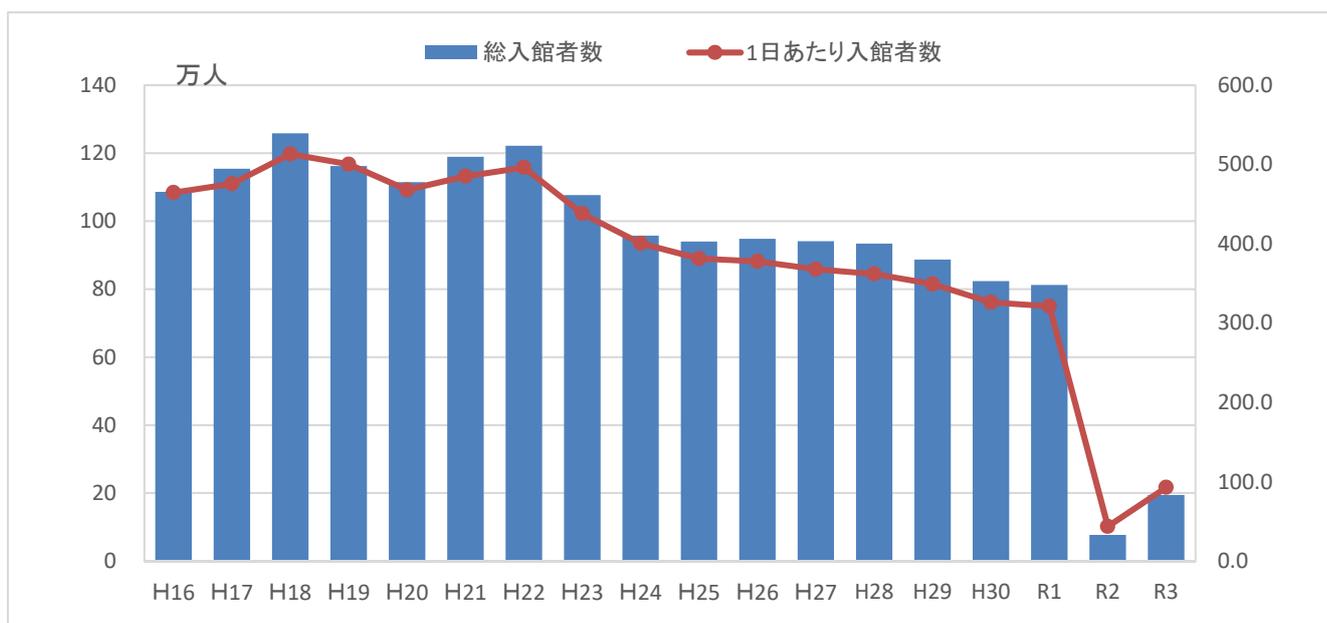
《入館状況》

＜入館者数経年推移＞

平成 16 年度以降の年間総入館者数及び 1 日あたりの入館者数の経年推移を次に掲げる。

改修工事（平成 20 年度総合・国際、平成 25 年度社会系）及び入退館管理システム導入（平成 23・24 年度）があった年に入館者数が減少している。平成 26 年度以降についても緩やかに減少傾向であった。前年度においては感染症対策による休館、開館時間短縮、学生の入構制限などを反映し、前々年度の 1 割程度に利用が減少したが、令和 3 年度では開館日数が増えたこともあり、入館者数は前年度の約 2.5 倍となった。

＜入館者数の推移＞



＜全館入館者数＞

	年間のべ開館日数	年間総入館者数	1日あたり入館者数
R3/R2	1.2	2.5	2.1
R2 年度	1,759	76,659	43.6
R3 年度	2,088	193,979	92.9

- 表は、令和 3 年度的全館入館者数を令和 2 年度と比較したものである。

＜通常開館＞

平日（時間内）1 日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
R3/R2	1.9	2.9	1.8	2.0	1.7	1.2	2.7	4.5	2.3	2.1
R2 年度	77.0	56.2	84.7	62.0	34.6	3.1	34.2	11.8	17.5	43.0
R3 年度	145.0	160.2	155.2	122.3	60.3	3.8	90.9	52.5	40.4	90.2

- 表は 1 日あたりの入館者数について、令和 3 年度（後期以降の平日 17:00 まで）と令和 2 年度（平日 17:00 まで）とを比較したものである。

- ・ 全体として前年度比約 2 倍となっているが館によってばらつきがあり、保健科学図書室は令和 2 年度の改修工事による臨時休館の影響もあり約 4.5 倍となった。

<夜間開館>

平日夜間（17:00～）時間帯の 1 日あたりの入館者数（社会系のみ）

	社会系
R3/R2	1.7
R2 年度	10.2
R3 年度	16.9

- ・ 前年度比 1.7%であり、平日時間内の利用（社会系 2.9%）と比べて低い数字となった。
- ・ 医学分館では令和 2 年度では 5 日間実施したのみであったため比較を行わない。他館では 1 日も実施していない。

<土曜（・日祝）開館>

土曜（・日祝）の 1 日あたりの入館者数（社会系のみ）

	社会系
R3/R2	2.5
R2 年度	42.2
R3 年度	105.5

- ・ 休日開館は、社会科学系図書館においてのみ年間を通じて 48 日間、行われた。前年度（同館の土日祝開館）との比較を行った。
- ・ 前年度比 2.5 倍であり、同館の平日利用の前年度比が 2.9 倍であったことので、近い割合で利用者が増えていたことがわかる。

<祝日授業日開館、試験期特別開館>

- ・ 自然科学系図書館（8/9、台風による暴風警報発令のため 11 時で臨時休館）、医学分館（1/4）で実施。

<24 時間開館>

- ・ 医学分館で、医学部・医学研究科・保健学研究科・附属病院所属者を主対象として平成 9 年から実施しているが令和 2 年 4 月 8 日以降新型コロナウイルス感染症対応のため休止中。

◆評価と課題

本年度の年間のべ開館日数が前年度比 1.2 倍となったこともあり、年間総入館者数は 193,979 人で 2.5 倍、また 1 日あたり入館者数は 2.1 倍となった。平成 26 年度以降、入館者数は緩やかな減少傾向となっているが、前々年度以降、感染拡大防止に係る臨時休館、利用制限を行ったため、例年と同じ基準で動向を把握することはできなかった。

この入館者数減には、閲覧席の使用を著しく制限したため、自習のための図書館利用ができなかったことも反映していると考えられる。別項「(3) 資料提供サービスと利用促進」で見ると、貸出数の減少は入館者数の減少ほどではなく、これまでの入館者の利用目的として資料貸出の他に個人学習の需要が高かったことが、感染症流行下の統計に反映されたと考えられる。

また、電子媒体（特に電子ジャーナル）への出版形態変化などを反映し、従来から附属図書館の入館

者数、貸出数は低減傾向にあったが、コロナ禍によって一気に非来館型のサービスの重要性が明らかになったといえる。このことから、開館サービスのみではない利用指標の設定が今後の課題といえよう。

(2) 学生用資料整備

館室別の蔵書数、受入図書冊数、資料費総額等は別添基本統計の通りである。

<資料費予算と重点整備>

- 各館室の学生用資料の整備は、図書館予算（図書館セグメント）から各館室に配分した経費と、各館室のサービス対象部局から拠出された経費（部局セグメント）を合わせて実施することとなっている。
- 令和3年度の図書館予算は40,000千円、前年度と同額を維持したが各館室への配分比率の見直しを行ったため減額となる館室が生じた。このため令和3年度に限り用途を特定した重点配分を別途行った。重点配分は計1,500千円。（電子書籍の試験導入：総合300千円・自然1,000千円、改組に伴うシラバス整備：海事300千円）
- 新型コロナウイルス感染症への対応を契機とした、オンラインによる資料提供促進のための電子ブックの充実が大学執行部から認められ、神戸大学基金新型コロナウイルス感染症対策緊急募金（学生）から電子ブック拡充経費として2,400千円配分され、計222件（シラバス掲載図書216件、参考図書6件）を購入した。
- 平成28年度よりE-Study事業費は独立した予算項目とした。令和3年度は予算ベースで前年度から1.3%増の4,664千円である。令和2年度に新型コロナウイルス感染拡大防止措置のため購読コンテンツのアクセス数追加を行ったが、利用実績等から令和3年度は従来水準に戻している。
- 平成18年度より震災文庫資料費（400千円）は独立した予算項目となっている。
- 平成16年度より実施している装備付納品を、引き続き総合・国際文化学図書館（689冊）、社会科学系図書館（885冊）、自然科学系図書館（674冊）、人間科学図書館（402冊）において実施し省力化・合理化を進めた。なお保健科学図書室については、購入点数も少なく省力化があまり見込めないことから平成29年度から装備付納品を中止した。

<各館室の整備状況>

R3受入	総合	国際	社会	自然	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
図書冊数	1,773	328	2,248	1,143	403	476	62	564	379	949	8,325
雑誌種数	68	8	14	118	15	62	0	131	61	81	558

- 各館室では配分された資料費をもとに関係部局のシラバス掲載図書の購入をはじめ参考図書、授業関連図書等の資料整備を行った。

<選書体制と収集方針>

- 平成16年度に「学生用資料整備計画大綱」（附属図書館運営委員会決定）に基づき各館室図書委員会にて学生用図書資料の範囲、選定体制・方法等の整備計画の策定を行った。
- 総合図書館では「総合図書館学生用資料整備計画」を策定するとともに学生用資料整備を推進するため「総合図書館資料選定委員会」（構成委員は職員）を立ち上げて具体的な選書スケジュール、選書手順などについて検討し、資料整備を進めた。
- また、総合図書館では、学生の声を資料選定に反映させるための試みとして、「学生選書ツアー」（学生が図書館に置いてほしい図書を、書店の店頭で直接手にとって内容を確認しながら選定するとい

うもの)を平成22年度より実施している。令和3年度は前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止措置としてオンラインによる電子ブック選書を実施した。実施期間は10/1～11/30、期間中は5分の試読が可能となる。参加は80名、重点配分によるもの含め計112件を購入した。学生が必要とする資料の一層の充実を図るため、今後も、こうした取組を継続する方針である。

＜選書評価＞

- 平成18年度から、前年度に整備した学生用図書について、利用状況の分析等による収集資料の評価を開始し、平成21年度からは、各館室とも共通したフォーマットによる選定評価を行っている。本年度末には、令和2年度に整備した学生用図書の選定評価を実施し、構成と利用の面で選定が適切に行われたことが確認された。(令和3年度第4回附属図書館運営委員会で報告)

＜電子ブックの整備と利用結果＞

- 学術和書を中心に電子ブックを提供するMaruzen eBook Libraryの購入数(雑誌はタイトル数)と利用状況を下に示す。従来から購入タイトル数は増加傾向にあったが新型コロナウイルス感染症の流行をうけ令和2年度以降、購入数を大幅に増加させている。令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策緊急募金による学生支援としてシラバス掲載図書(216タイトル)および参考図書(6タイトル)をMaruzen eBook Libraryにて購入した。利用数の増加も極めて顕著である。

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
購入数	55	176	95	249	209	593	839
利用数	117	366	921	1,765	3,005	15,171	33,133

利用数には電子ブックリクエストキャンペーンの試読含む

◆評価と課題

平成26年度以降、学生用資料費も減額が続いていたが、本年度は前年度と同額を維持した。今後も厳しい予算状況が続くと見込まれるが、教育・学習活動の支援のため予算規模の維持が望まれる。新型コロナウイルス感染症に関しては行動制限の緩和も人口に膾炙しようとする現状ではあるが、令和4年度も4月時点で附属図書館サービスには一定の制限がある。電子ブックの活発な利用状況を踏まえ、冊子と電子媒体双方、予算と利用実態に応じて整備をすすめていくべきと考える。

(3) 資料提供サービスと利用促進

貸出及びデリバリーサービス(=図書配送)冊数等の詳細は、＜付録＞基本統計表のとおりである。相互利用サービスについては、2(4)に後述する。

《貸出サービス》

本年度は前年度に続き、入館制限への対応および感染症流行対策として、以下の非来館型サービスを行った。

- ウェブでの延長回数を無制限に
平成26年10月より、対面による貸出の延長回数を無制限としているが、前年度から感染症対策の一環として、ウェブサイトの「アカウントサービス」からの延長も無制限とした。

・ 郵送貸出

入構制限などの影響で来館が難しい学生（学部生、院生）を対象に、郵送による資料貸出を年間を通して実施した。

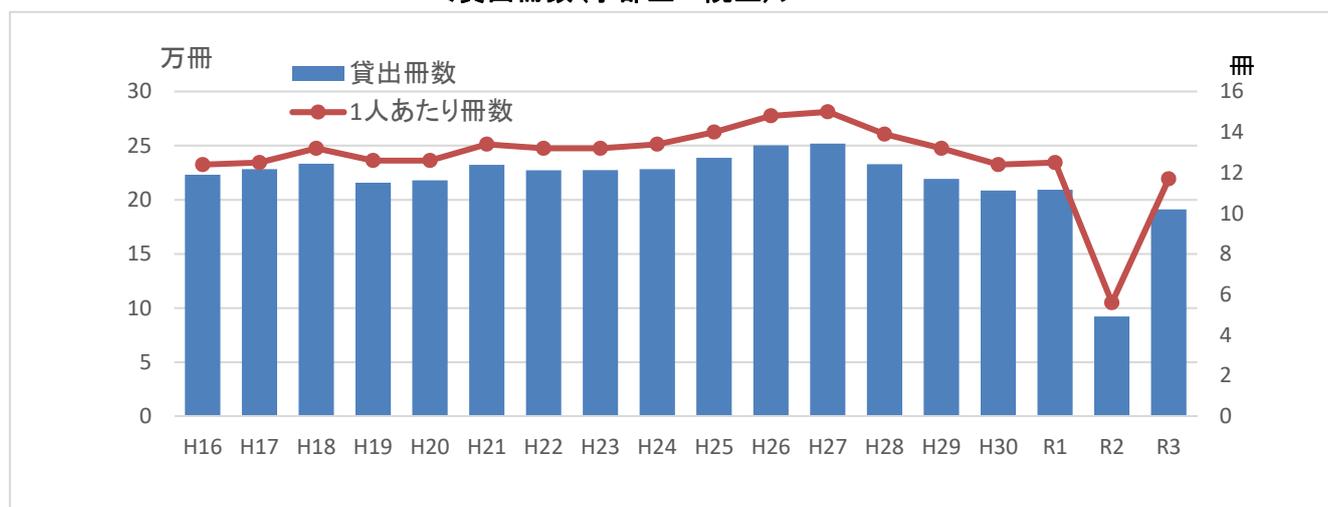
< 郵送貸出数 >

	R2		R3	
	件数	冊数	件数	冊数
総合・国際	77	476	18	44
社会系	58	189	33	115
自然系	23	76	4	13
人文	83	243	9	20
人間	45	197	7	21
研究所	0	0	1	1
医学	15	29	1	5
保健	7	24	8	35
海事	6	16	4	10
計	314	1,250	85	264

・ 開館日数が増えたこともあり、前年度の約 2 割程度の冊数となった。

< 貸出冊数（学部生・院生）経年推移 >

< 貸出冊数(学部生・院生) >



平成 16～令和 3 年度の経年推移を上に掲げた。

- ・ 本年度の貸出冊数は 191,040 冊であり、前年度比約 2 倍となった。
- ・ 学生 1 人当たりの貸出冊数は 11.7 冊（前年度：5.6 冊）であった。
- ・ 学部生の貸出数は 110,064 冊、1 人あたりの貸出冊数は 9.5 冊（前年度比約 2.2 倍）、大学院生の貸出数は 80,976 冊、1 人あたりの貸出冊数は 17.1 冊（同約 1.9 倍）であった。

< 館室別学部生・院生貸出冊数 >

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
R3/R2	2.13	2.35	1.63	1.73	2.04	3.03	2.52	2.35	2.27	2.07
R2	23,357	21,378	15,358	10,521	10,069	294	2,594	3,764	4,834	92,169
R3	49,808	50,225	25,005	18,243	20,539	890	6,525	8,831	10,974	191,040

- ・ 館室別の貸出数を前年度と比較した結果、前年度比にばらつきがみられたが概ね 2 倍前後となっている。

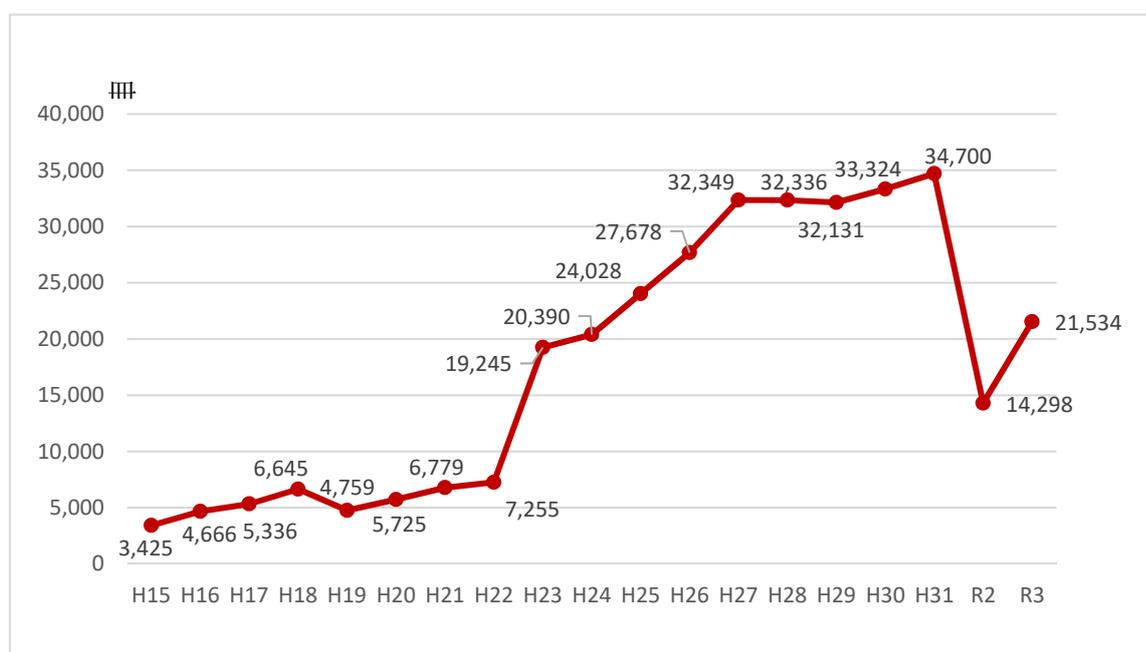
＜卒業生及び修了者に対する貸出＞

本学卒業生及び修了者への貸出サービスは、平成 21 年 3 月に始まった。令和 2 年 4 月 9 日の臨時休館以降、在籍者以外の利用を停止している。

《デリバリーサービス》

＜デリバリーサービスの推移＞

＜デリバリーサービス貸出冊数推移＞



デリバリーサービスは、平成 12 年度後期に院生、教職員（異キャンパス間は学部学生も）を対象に始まった。平成 23 年度から六甲台キャンパス内の学部学生にサービスを拡大した。平成 27 年度には経済経営研究所図書館が加わり、全館室でサービスを利用できる体制が整った。

＜館別デリバリーサービス取扱冊数＞

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
R3/R2	1.56	1.50	1.00	1.67	1.46	1.29	2.01	1.88	1.54	1.51
R2 年度	7,059	4,847	3,348	5,758	3,787	552	737	791	1,717	28,596
R3 年度	10,977	7,266	3,354	9,633	5,511	710	1,485	1,491	2,641	43,068

- ・ 上の表は、館別に令和 3 年度の発送冊数と受取冊数を合算し、前年度と比較したものである。
- ・ 発送冊数と受取冊数を合算しているため、貸出冊数の 2 倍の数値になっている。
- ・ 本年度は、過去最多であった前年度の約 1.5 倍であった。

＜附属中等教育学校への図書貸出サービス＞

総合・国際文化学図書館、人間科学図書館の2館が所蔵する図書を附属中等教育学校に対して貸出するサービスは、平成24～28年度の間「中等教育学校図書室」に後期課程生徒（高校生）向け図書の整備ができるまでの5年間限りの特別措置として実施された。そのサービスを継承するものとして、平成29年3月「附属中等教育学校への図書の貸出サービスに関する申し合わせ」が附属学校部長と附属図書館長の間で締結された。この申し合わせにより、配送による貸出サービスに加え、直接中等教育学校生徒が来館して貸出を受けることができるようになった。また、平成29年度からは、配送についても、デリバリーサービスの集配場所に附属中等教育学校図書室を加え、手続きの簡素化を図っている。前年度からは試行として、前期課程3年次生（中学3年生）から利用可とするとともに、社会科学系図書館、自然科学系図書館の所蔵資料を利用可とした。さらに、本年10月からは全館室の所蔵資料を利用可とした。

なお、令和2年3月以降は学外者同様、来館利用は停止している。

＜貸出冊数＞

カッコ内は直接来館による貸出数(内数)

館室名 /年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
総・国	134	11	0	246	135	92(37)	20(17)	264(261)	15	0
人間	7	25	7	7	54	3(3)	8(8)	3(3)	4	0
社会系	-	-	-	-	-	-	-	-	4	2
自然系	-	-	-	-	-	-	-	-	0	3
合計	141	36	7	253	189	95(40)	28(25)	267(264)	23	5

・10月から表に記載の館室以外も貸出可能としたが実績なし。

《利用促進》

＜テーマ図書展示＞

平成26年度から全館で共通テーマを設定して、所蔵図書館からテーマに沿った図書を館員が選び、期間を決めて展示する取組を始めた。

前年度からは感染症流行のため多くは実施を見送らざるを得なかったが、そうした状況下にあっても、共通テーマ展示として「レポート・論文の書き方」を共通テーマに設定して全館室で実施した。また新しい試みとしてオンライン上の「仮想展示」を前年度に続き実施した。他にも巡回展示として、「SDGs 推進室/V.School 推薦図書～SDGs と価値創造を知るための30冊～」を企画し、本年度5館、次年度2館での実施となった。

展示の種類	実施館	テーマ	実施開始月
共通テーマ展示	総合・国際文化学図書館	レポート・論文の書き方	4月
	社会科学系図書館	同上	4月
	自然科学系図書館	同上	4月
	人文科学図書館	同上	4月
	人間科学図書館	同上	4月
	経済経営研究所図書館	同上	4月
	医学分館	同上	4月
	保健科学図書室	同上	4月
	海事科学分館	同上	4月
巡回展示	医学分館	SDGs 推進室/V.School 推薦図書～SDGs と価値創造を知るための30冊～	10月
	総合・国際文化学図書館	同上	11月
	人間科学図書館	同上	12月
	社会科学系図書館	同上	1月
	海事科学分館	同上	2月
仮想展示	社会科学系図書館 経済経営研究所図書館	オンラインで読める社会科学系分野シラバス図書	7月
テーマ展示	総合・国際文化学図書館	【思考】を思考する	4月
	海事科学分館	国際海上物流フェア	4月
	社会科学系図書館	空間と時間	6月
	人間科学図書館	オリパラ古今東西	7月
	経済経営研究所図書館	世界チェス・デー	7月
	医学分館	感染症の本	7月
	海事科学分館	夏休みに読みたい小説	7月
	社会科学系図書館	アイデアと出会う	9月
	経済経営研究所図書館	国際識字デー	9月
	医学分館	ヘルス・コミュニケーションの本	9月
	総合・国際文化学図書館	外国語授業のその先に	10月
	自然科学系図書館	SINCE1984	10月
	人間科学図書館	おうちで芸術の秋	10月
	海事科学分館	世界の練習帆船、練習艦船、練習船フェア	10月
	人文科学図書館	船と海～本でめぐる大海原	11月
	医学分館	医学の発展～日本の研究者による発見と開発～	11月
	総合・国際文化学図書館	冬を楽しむ	12月
	社会科学系図書館	たのしい図鑑	12月
	人間科学図書館	人間じゃない生き物の科学	1月
	経済経営研究所図書館	SDGs を考える(ゴール1～3)	1月
	社会科学系図書館	メディアについて:近年の刊行物から	2月
	人文科学図書館	神戸新聞連載・21世紀の人文科学・神戸大学文学部 リレーエッセー関連展示	通年

<テーマ図書展示実施回数>

H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
31	37	44	49	47	50	12	37

<イベント>

・オンライン読書室

With コロナ時代にオンラインで実施できる読書推進、および大学構成員の間の「つながり」をつくる新たな試みとして、前年度からビデオ会議サービスを使用した「オンライン読書室」を開催した。

本年度は9月に開催しのべ11名が参加、また12月に開催されたオンライン読書室担当者交流会にも参加した。

・トークイベント2021「外国語授業のその先に」(シリーズ)を開催

10月18～21日の計4回にわたり「トークイベント2021『外国語授業のその先に』」を開催した。本年は本学大学教育推進機構国際コミュニケーションセンター(SOLAC)学術交流研究部門主催としてSOLACの教員6名により、昼休みの30分間に総合・国際文化学図書館内テーマ図書展示コーナー前での対面とオンラインのハイブリッドにて開催し、あわせて講師推薦図書など関連図書を展示した。各回のテーマは「多言語学習の魅力～学ぶほど広がる世界への視点～」、「中国語でも伝わる歌の力～環境保護とチャイニーズロックの融合～」、「ドイツ都市と食めぐり～ドイツ語グルメレシピガイド付き～」、「フランスの教育制度～日仏の学校生活の違い～」として、4日間でのべ132名の学生・教職員が参加した。

◆評価と課題

本年度の学部生・院生への貸出冊数は191,040冊であり、前年度比約2倍となった。本年度の一日あたりの入館者数は前年度比約2.1倍であることから、ほぼ比例して増加したといえる。感染症流行対策としての利用制限を実施しつつも、資料提供サービスの面では図書館としての役割を一定程度維持できていたと評価できよう。

感染症流行下における非来館型の図書館サービスとして、郵送による資料貸出を前年度から継続して行ったが、開館日数が増えたこともあり前年度の約2割程度の冊数となった。

利用促進においても同じく非来館型の取り組みを検討し、電子ブックを利用した「仮想展示」や、イベント「オンライン読書室」を実施した。

また、トークイベント2021「外国語授業のその先に」は、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催したが、アンケートでも9割以上が「満足」「やや満足」と回答し好評であり、新たな利用促進の取り組みとして評価できる。

平成27年度以降、学生用図書資料費の減額によって新刊書の購入冊数が減少し続けていること、若者の活字ばなれ、電子資料の普及といった諸般の事情を考えると、貸出サービスにおいて貸出冊数増加という形だけで成果を出すのは難しい。加えて本年度は感染症流行により、一気に非来館型のサービスの重要性が明らかになった。このことから、本年度はじめて行った郵送による資料貸出や、「仮想展示」「オンライン読書室」による利用促進は、今後の資料利用サービスの方向性を考える上でも意味のある試みであったといえよう。

(4) 図書館相互利用 (ILL) サービス

<相互利用サービス>

区分			総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
複写	受付	R3/R2	1.5	1.1	1.0	1.2	1.4	1.7	1.2	4.1	1.1	1.2
		R2 年度	180	3,226	317	308	281	114	817	89	155	5,487
		R3 年度	275	3,486	317	361	397	192	1,016	369	164	6,577
	依頼	R3/R2	2.0	0.7	0.8	1.4	1.5	3.6	1.0	0.9	1.3	1.2
		R2 年度	429	1,067	500	659	621	28	337	341	46	4,028
		R3 年度	867	725	422	923	918	101	345	293	59	4,653
貸借	受付	R3/R2	1.6	1.2	0.7	0.9	1.1	1.8	1.8	4.5	1.3	1.2
		R2 年度	404	1,020	74	357	197	17	9	4	80	2,162
		R3 年度	644	1,190	54	320	217	30	16	18	107	2,596
	依頼	R3/R2	1.0	0.9	1.1	1.7	1.3	0.2	5.3	0.3	5.6	1.3
		R2 年度	217	185	72	331	108	17	3	6	5	944
		R3 年度	211	168	81	556	137	3	16	2	28	1,202

- ・ 館室によって増減はあるが、全体として前年度と比べて文献複写の受付・依頼、貸借の受付が 1.2 倍、貸借の依頼が 1.3 倍とほぼ同程度の増加となった。

◆評価と課題

本年度は前年度に比べ、開館日数および入館者数が増えたことの影響もあり、図書館相互利用 (ILL) サービスの文献複写の受付・依頼、現物貸借の受付・依頼ともに増加した。

緊急事態宣言発令時には一時的に図書館相互利用 (ILL) 業務を休止、縮小する図書館が多かったものの、本学では可能な範囲で図書館相互利用 (ILL) 業務を維持し、感染防止に留意しつつ「特別利用」として他大学等に依頼した文献複写物等の受け取りのための入構・来館は認めるなど、柔軟な対応により研究・学修支援の維持に努めた。

社会科学系図書館は、複写は全体の約 53%、貸借は約 46%を受け付けており、同館が人文・社会科学系の外国雑誌センター館として、その責務を果たしていることがわかる。

(5) 学生との協働及び学生参加型の取組

<附属図書館学生チーム ULiCS>

学生との協働を目的に平成 27 年 10 月に発足した「附属図書館学生チーム ULiCS (うりくす)」は本年度末時点で 20 名が参加している。定例会として職員とのミーティングをひと月に一度程度開催し、それ以外に学生のみもしくは活動中のグループごとの打合せは随時行っている。本年度の活動状況は、以下のとおりである。

4 月	『The ULiCS Times』第 9 号発行。図書館での掲示・配布と HP での公開
4/3-4,18	WEB 新入生歓迎祭にオンラインで参加、団体紹介冊子や新歓ウェブサイトにも新歓チラシ掲載
4/23	まごまご読書倶楽部(読書会)①テーマ「人のぬくもり」(Zoom にて)
5/10	ULiCS 第 1 回定例会 (Zoom にて)
5/27	まごまご読書倶楽部(読書会)②テーマ「テンションが上がる本」(Zoom にて)
6/24	まごまご読書倶楽部(読書会)③テーマ「雨の日に読みたい本」(Zoom にて)
6/28	ULiCS 第 2 回定例会 (Zoom にて)
7/18	まごまご読書倶楽部(読書会)④テーマ「梶井基次郎の『檸檬』」(Zoom にて)
7/30	ULiCS 第 3 回定例会 (自然科学系図書館会議室での対面と Zoom にて)
8/22	まごまご読書倶楽部(読書会)⑤テーマ「学生生活の本」(Zoom にて)
9/7, 9	保健科学図書室見学会 (2021 年 4 月リニューアル)
9/15	ULiCS 第 4 回定例会 (Zoom にて)
9/21	神戸松蔭女子学院大学図書館サポーターとの交流会 (Zoom にて)
9/29	まごまご読書倶楽部(読書会)⑥テーマ「太宰治の『桜桃』」(Zoom にて)
10 月	『The ULiCS Times』第 10 号発行。図書館での掲示・配布と HP での公開
10 月	秋新歓ウェブサイトにも団体紹介ページで参加
10 月	ULiCS 文庫①(総合・国際文化系図書館内 ULiCS 展示スペース)
10/15	ULiCS 第 5 回定例会 (Zoom にて)
10/24	まごまご読書倶楽部「まごまごビブリオバトル」(Zoom にて)
11/19	館長懇談会 (自然科学系図書館会議室での対面と Zoom にて)
11/21	まごまご読書倶楽部(読書会)⑦テーマ「小説ではないもの」(Zoom にて)
12/1	ULiCS 第 6 回定例会 (Zoom にて)
12/24	まごまご読書倶楽部(読書会)⑧テーマ「本を探し、内容を想像する」(社会科学系図書館会議室)
1/15	ULiCS 第 4 回定例会 (Zoom にて)

2月	ULiCS 文庫②(総合・国際文化学図書館内 ULiCS 展示スペース)
2/15	トークイベント ULiCS 座談会「海外留学編」(総合・国際文化学図書館での対面と Zoom にて)
2/21	ULiCS 第 7 回定例会(国際文化学部会議室での対面と Zoom にて)
3月	ULiCS 文庫③(総合・国際文化学図書館内 ULiCS 展示スペース)
3月	『The ULiCS Times』第 11 号を校了。4 月初旬から配布・公開予定
3/30	まごまご読書倶楽部(読書会)⑨テーマ「積読中の一冊」(Zoom にて)

上記以外に、メンバー募集のための新歓ポスターの作成や Twitter による広報を行っている。

(例: 定例会の開催報告を発信、質問箱の設置、学生目線の図書館お役立ち情報を発信する「Twitter 新歓」を実施)

ULiCS の活動に関する職員側の対応は、図書館アウトリーチ WG が担当している。

<学生協働関連イベント等への参加>

コロナ禍においてイベントの中止が多い中、オンラインによるイベント開催を模索、令和元年度に先方からの照会で開催した神戸松蔭女子学院大学図書館サポーターとの交流会を今年はこちらから提案、企画し、オンラインでの開催を実現した。

<その他の企画>

「うりくす文庫」

鶴甲第一キャンパス 2 階 LC にて、10 月から実施中である。

前年度同様、ULiCS メンバーに、1 人につき書架 1 段分を担当として、各人自由なテーマで図書を選んでもらった。また、展示図書についての POP 作成と展示までを担ってもらった。今後も ULiCS と共に計画、開催したいと思う。

◆評価と課題

ULiCS は、発足 6 年目となった。対面での活動は少なかったが、定例会や読書会は対面とオンライン併用型での開催も試み、またオンラインでのイベント開催も意欲的に行った。定例会をほぼ毎月行い、ULiCS 初となる企画トークイベントを実施ができたのは評価できる点である。参加学生数の多寡や個々人の忙しさによって活動メンバーが固定され気味であることは否めないが、徐々にチームが自発的に活動できるようになってきている。活動が維持できるよう引き続きサポートに努めたい。

(6) 情報リテラシー教育の推進支援

<情報基礎>

- ・ 全学共通授業科目「情報基礎」では、平成 20 年度より 1 コマ (90 分) が「情報の活用」にあてられ、図書館職員が担当している。本年度は 5 月を中心に実施し、学部新入生全員に補講受講者を加えた 2,650 人 (23 クラス) が受講した。
- ・ 担当当初から、情報リテラシー係と各館室のサービス係員を中心に構成される「情報リテラシー教育支援 WG」を組織し、WG メンバーで分担して授業を行っている。
- ・ 前年度と同じく、BEEF (神戸大学 LMS) を活用したオンデマンド型遠隔授業として実施した。

- ・ 教材として授業内容をまとめた動画を作成し、附属図書館公式 YouTube チャンネルから公開した。また課題レポートは非来館型の内容とし、授業の質問は専用のフォームおよびチャットから受け付けた。
- ・ 授業内容は、図書館 Web サイトや各種 Web サービス、データベースの紹介をはじめ、OPAC と CiNii Books を使った検索実習のほか、資料の引用方法等、初歩的な内容としている。電子ブックの説明等、来館せずに利用できるサービスの周知にも努めた。
- ・ ちからだめし（授業の理解度テスト）の正解率は本年度も高く、全クラスの平均正解率は、全ての設問で 8 割以上となった。
- ・ 授業後の受講生アンケートは、全ての項目で肯定的な回答が 95%前後だったことから、概ね好評と言える。
- ・ 授業後の受講生アンケートや教員からの意見等を踏まえ、次年度に向けて授業内容やテキスト、課題、ちからだめしの再検討を行った。

＜初年次セミナー＞

- ・ 平成 28 年度より設けられた各学部専門科目「初年次セミナー」では、各館サービス係が中心となり、教員の希望に沿った図書館ツアーや検索ガイダンスの計画、実施を担当している。
- ・ 本年度は第 1 クォーターの途中から授業が遠隔化されたため、複数の学部が予定していた館内ツアーを中止した。ツアーを中止した学部には教材を提供したほか、Web 会議システムを使って図書館の説明をリアルタイムで行う等の対応を取った。また、予定通り館内ツアーを希望した学部については、例年よりも 1 班あたりの人数を制限して実施した。

実施日	実施方法（会場）	内容	回数	人数
4/19	対面 （理学部 Y 棟）	[理学部 化学科] 図書館の利用案内、文献検索の方法	1	33
4/23, 5/7	対面 （海事科学分館）	[海洋政策科学部] 海事科学分館の館内ツアー	5	207
4/26, 5/10, 5/17	対面 （社会科学系図書館）	[法学部] 社会科学系図書館の館内ツアー	12	117
4/23	オンライン	[国際人間科学部 環境共生学科] 図書館の利用案内	1	80
4/27	オンライン	[経営学部] 引用のルール、参考文献の見方・書き方	1	257
5/14	オンライン	[国際人間科学部 発達コミュニティ学科] 図書館の利用案内、文献検索の方法	1	21
5/21	オンライン	[工学部 応用化学科] 図書館の利用案内、文献検索の方法	1	106
4 月～5 月	オンデマンド	[国際人間科学部 グローバル文化学科] 図書館の利用案内(動画・PDF 教材の提供)	6*	140*
4/23, 4/30	オンデマンド	[文学部] 雑誌論文の探し方、電子資料の探し方	2*	110*
合計			30	1071

* オンデマンド授業の回数はクラス数、参加人数は図書館ツアー申込時の概数

<ガイダンス等>

- ・ 情報リテラシー係と情報リテラシー教育支援 WG メンバーが中心となり、以下の表の通り、ガイダンス等を実施した。
- ・ 実施方法は、対面またはリアルタイムでのオンライン実施、オンデマンド型授業のための資料提供がある。
- ・ ベンダーに講師を依頼したデータベース講習会 4 回を除き、講師は職員が務めた。
- ・ 図書館主催ガイダンスで職員が講師を担当した 2 回は、初めての試みとして昼休みの 30 分間を使い、事前に公開した検索問題の解説を行う内容とした。またベンダーに講師を依頼したデータベース講習会は、一部について学内限定で動画を公開している。
- ・ 例年 4 月に各館室で実施していた新入生対象の図書館ツアーは、本年度は全て、利用者が各自で館内を見学するセルフツアーとした。授業の遠隔化により来館者が減ったため、セルフツアー参加者も僅かとなった。

◆オーダーメイドガイダンス、図書館ツアー（職員が講師を担当）

実施日	実施方法（会場）	内容	回数	人数
4月～12月	対面	各種データベース(OPAC, 論文データベース, 文献管理ツール)の使い方、参考文献の書き方等、依頼者の希望に沿って実施	15	211
	オンライン		12	148
	オンデマンド		2	125*
合計			29	484

* 参加人数は概数

◆図書館主催ガイダンス

（職員が講師を担当したもの）

実施日	実施方法（会場）	内容	回数	人数
11/2, 11/4	オンライン	日本語論文の探し方、論文本文の入手方法	2	19
小計（職員担当分）			2	19

（ベンダーに講師を依頼したもの）

実施日	実施方法（会場）	内容	回数	人数
6/29	オンライン	SciFinder-n 講習会	2	18
7/8	オンライン	Academic OneFile/General OneFile 講習会	1	28
10/26	オンライン	Web of Science 講習会	1	61*
小計（ベンダー担当分）			4	107
合計			6	126

* 参加人数は申込者数

◆その他（職員派遣）

実施日	実施方法（会場）	内容	回数	人数
4月	対面	新入生オリエンテーション等	3	278
	オンライン		1	370*
	オンデマンド		-	424
合計			-	1072

* 参加人数は概数

◆新入生向け図書館セルフツアー

実施日	会場	内容	人数
4/1～6/11	総合・国際文化学図書館	館内に設置されたクイズに答えながら施設・所蔵資料・図書館サービス等について知る	21
4/1～8/11	社会科学系図書館		2
4/12～5/28	自然科学系図書館		8
4/12～6/11	人文科学図書館		7
4/6～5/31	人間科学図書館		4
4/12～6/11	海事科学分館		2
4/1～6/11	経済経営研究所図書館		4
合計			48

<パスファインダー-KULiP>

- 平成 25 年度より、図書館による学修支援の一環として KULiP（クリップ／Kobe University Library Pathfinder）を運用している。授業シラバスに沿った指定書および授業内容に関連した資料を担当教員のコメント付きで紹介する「授業資料ガイド」に、「資料／情報の探し方ガイド」「セルフラーニング（セミナー、ガイダンス等配布資料）」を加え、総合的パスファインダーとして発展させてきた。本年度は「授業資料ガイド」を 43 件作成（累計 80 件）した。また「セルフラーニング」を 4 件新規作成（累計 32 件）し、15 件更新した。
- これまで「授業資料ガイド」で設置する図書は 1 冊貸出可、1 冊貸出不可としていたが、前年度に引き続き 2 冊とも貸出可とした。
- 「資料／情報の探し方ガイド」の「学部別」および「全分野」計 11 件について見直しを行い、内容を充実させた。

<チャットによるレファレンス>

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により来館が難しい利用者に対するサービスとして、前年度の 5 月に、チャットによるオンラインレファレンス（利用案内／参考調査）の受付を開始した。利用者にとっては来館やメール送信による問い合わせよりも敷居が低いと考えられたため、本年度も継続して行った。
- 問い合わせの内容は開館時間や利用可否のほか、アカウントサービスについて、データベースの使い方、文献調査等、多岐にわたる。電子ジャーナルに学外からアクセスする方法のように、Web 上でのリアルタイムの回答が有効なものもあった。
- 本年度（令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日）のチャットによるレファレンス実績は以下の通りであり、前年度（令和 2 年 5 月 25 日～令和 3 年 3 月 31 日、146 件）より増加した。

（件数）

問い合わせ項目	R 2	R 3
1. 施設案内	2	2
2. 学内所在調査	4	8
3. 文献調査	11	28
4. 端末関係質問	2	2
5. 図書館サービス案内	119	153
6. その他	8	15
合計	146	208

<広報>

- ・ ガイダンスやイベントの情報は、ポスター、チラシ、図書館や大学 Web サイトのお知らせ、ツイッター等、さまざまな媒体を通じ、広く発信することを心掛けている。
- ・ 平成 27 年度より運用を開始した公式ツイッターでは、速報性を重視するとともに、各館のユニークな発信を心がけている。とくに災害による臨時閉館やシステム停止等、速報性が重要視される告知において重要なツールとなっている。

◆評価と課題

18 年目に入った必修科目「情報基礎」は、図書館にとって大学教育に直接的な貢献ができる機会であることに加え、図書館利用者の教育という面でも大きな効果がある。前年度より、オンデマンド型遠隔授業として実施するため動画教材を提供しているが、授業内容を問う「ちからだめし」の正解率は、対面授業で実施した年度よりも高くなった。また授業後のアンケートでは、教材が分かりやすかったという回答が多数見られた。

「初年次セミナー」は 6 年目となり、授業で図書館を活用できることが教員に認知されつつある。本年度は予定されていた図書館ツアーを急遽中止する学部もあったが、遠隔授業のための教材を提供する等、柔軟に対応した。「情報基礎」と共に、新入生が図書館利用法を学ぶ貴重な機会であることから、さらに多くの授業へ拡充できるよう教員への広報に努めるとともに、実施体制の整備を行いたい。

図書館主催ガイダンスは合計 6 回、すべてオンラインで開催した。オンラインガイダンスは、どのキャンパスにいても参加できるメリットがあり、次年度も積極的に取り入れたいと考えている。

オーダーメイドガイダンスは、学科・専修単位で毎年実施している例もあり、専門分野における情報リテラシー教育支援の一例として、今後も継続する意義がある。授業実施形態の変更により教材の提供のみとなったものもあるが、依頼件数はコロナ禍以前の水準に戻りつつある。オーダーメイドガイダンスでは、依頼者が所属する学部・研究科のサポート館職員が講師を担当することから、職員のレファレンス・ガイダンススキル向上に資する機会ともなっている。教員への広報を工夫し、より広く活用してもらえよう努めたい。

パスファインダー「KULiP」の「授業資料ガイド」は、医学分館の参加によって授業数が伸びた。ただし全授業数に占める割合は極めて限られていることから、教員へ周知するとともに、授業数が増えた場合の運用を検討する必要がある。

開始から 2 年となったチャットによるオンラインレファレンスは、回答を受け取るまでの時間が短く、利用者にとって気軽に利用できるサービスのため、今後も継続できればと考えている。

3. 学術研究支援

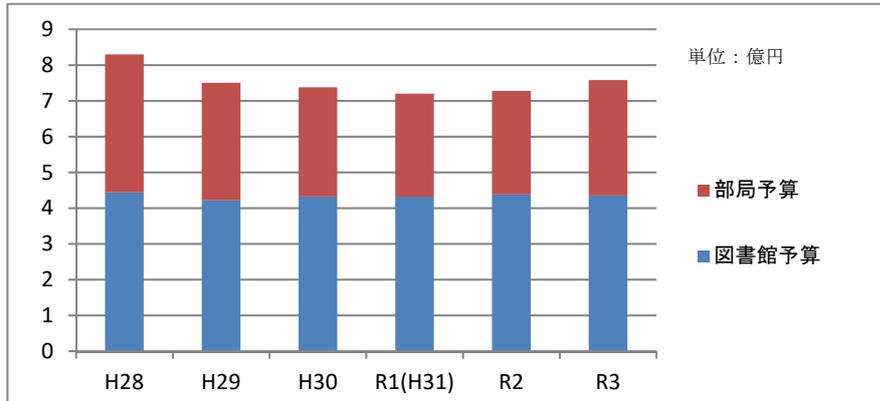
(1) 研究用資料の整備

各館室の蔵書数、受入図書冊数、資料費等は<付録>基本統計表のとおりである。

<資料受入状況>

- ・ 学生用資料を含む大学全体の資料費は、約 7.57 億円で令和 2 年度から約 0.3 億円増となった。
- ・ 図書館予算分（電子ジャーナル・データベース等の提供維持経費「教育研究基盤資料整備費」を含む）は約 4.35 億円となり、令和 2 年度から約 0.03 億円減となった。これは平成 28 年度比で約 0.08 億円減少した。また部局予算分は約 3.22 億円となり、令和 2 年度から約 0.33 億円増となったが、平成 28 年度比で約 0.63 億円減少した。

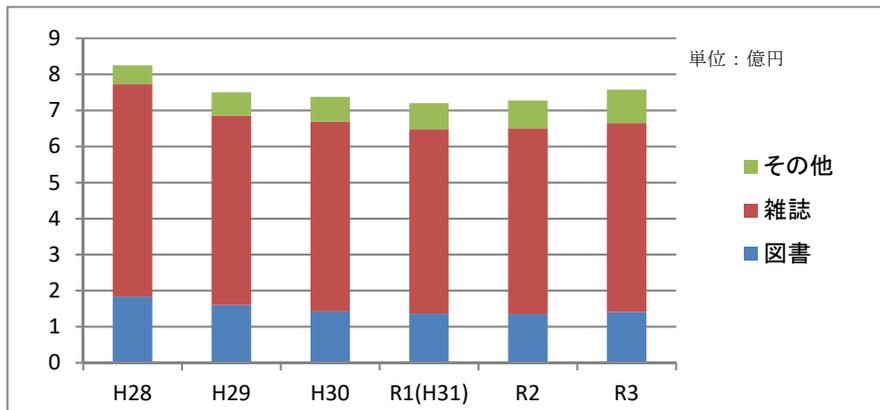
＜資料費経年推移＞



* 教育研究基盤資料整備費は図書館予算に含む

- 「教育研究基盤資料整備費(電子ジャーナル・データベース等)」は、約 3.63 億円 (決算ベース) が措置され、令和 2 年度から約 0.03 億円減となった。これは平成 28 年度比で約 0.08 億円増大した。
- 学生用資料を含む大学全体の資料の用途別では、平成 28 年度比で図書が約 0.42 億円減少し、雑誌 (教育研究基盤資料を含む) も約 0.66 億円減少した。

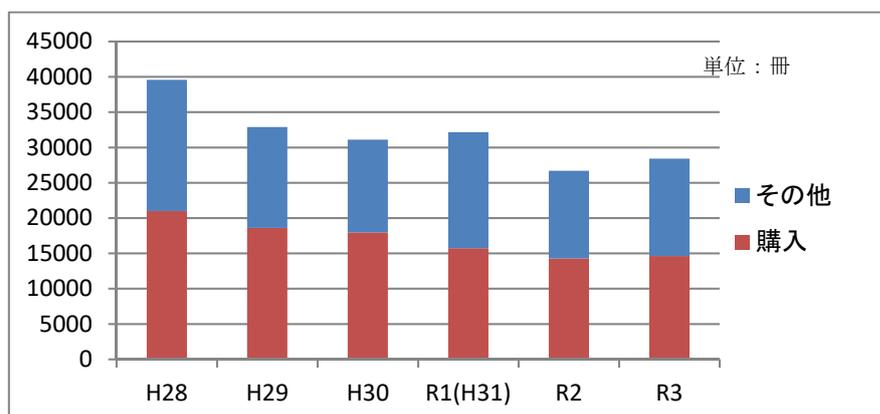
＜資料費の用途別内訳推移＞



* 電子ジャーナル等は雑誌として計上

- 年間の受入図書冊数 (購入) は図書購入費の減少に比例し、平成 28 年度比で約 0.6 万冊減少した。また製本予算の縮減も影響して年間約 4 万冊あった総受入図書冊数は約 2.8 万冊となった。

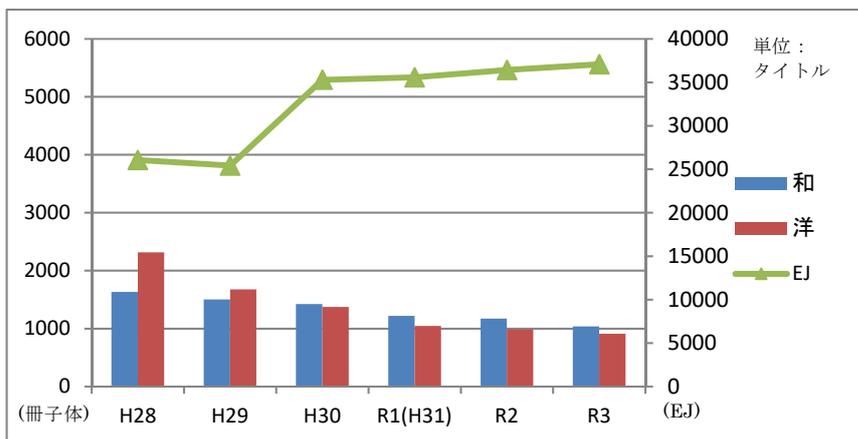
＜受入図書冊数経年推移＞



* 「購入」は一般財源のみ、科研費等は「その他」とした

- 雑誌（冊子）購入タイトル数は約 2,000 タイトルとなり、令和 2 年度から約 200 タイトル減となった。平成 28 年度比で和雑誌は約 36%減、洋雑誌は約 61%減と大きく減少した。一方、電子ジャーナルタイトル数は平成 28 年度比で約 42%増の約 3.7 万タイトルである。

<購入雑誌数経年推移>

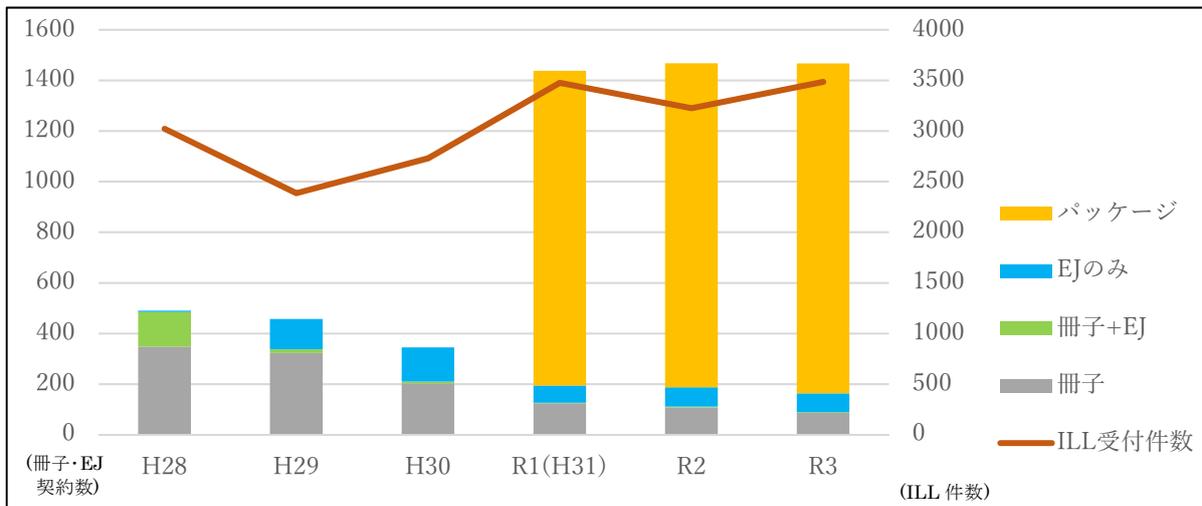


<外国雑誌センター館>

- 昭和 61 年度より「人文・社会科学系外国雑誌センター館」の指定を受け、国内での所蔵館が 3 館以内の外国雑誌を体系的に収集し、全国共同利用に供している（配架は社会科学系図書館）。分野別の外国雑誌センター館は全国で計 9 大学に設置され、人文・社会科学系は一橋大学と神戸大学の 2 大学で分担収集を行っている。
- 平成 20 年度の外国雑誌センター館会議で、従来の冊子に加え電子ジャーナルもセンター館誌として収集の対象とすることが確認された。
- 本年度の外国雑誌センター予算は、附属図書館予算の約 1 割を目標とし、0.26 億円（令和 2 年度は 0.27 億円）を確保した。
- 令和元年度からは、国内で導入実績の少ない人文・社会科学系の電子ジャーナルパッケージ（SAGE, EMERALD, CAIRN）について、外国雑誌センター予算からの経費負担を増やしてパッケージ購読を開始し、本年度も継続維持することとした。
- ILL 複写サービスについては、他機関からの複写依頼を常時受け付け、迅速な対応により外国雑誌センター館としてのサービス体制を継続している。

		R1(H31)	R2	R3
SAGE	契約誌数	552	569	559
	アクセス数	15244	14144	16862
EMERALD	契約誌数	212	213	217
	アクセス数	9633	8924	11568
CAIRN	契約誌数	480	499	528
	アクセス数	675	529	760

＜冊子体・EJ 契約数（外国雑誌センター）と ILL 受付件数（社会科学系）の推移＞



◆評価と課題

第3期中期計画後半（令和元～3年度）の教育研究基盤資料整備費について、部局等への補填割合を減額することにより、基盤となる部分を維持する方向で平成30年5月の部局長会議で承認を得た。その承認に基づき本年度は、「教育研究基盤資料整備費」約3.63億円（決算ベース）が措置され、電子ジャーナル及びデータベースは平成28年度の契約規模を維持することができた。令和3年度は、円高の影響もあり令和2年度から約0.03億円減となった。また令和4年度の所要額（見込）は、約0.12億円増の約3.75億円を予定している。

第4期中期計画前半（令和4～6年度）の教育研究基盤資料整備費による整備方針について、令和2年10月8日の部局長会議において、上限4.1億円として承認を得た。

附属図書館運営経費は、本年度当初予算は約2.59億円で令和2年度より約0.04億円減（約1.6%減）となった。附属図書館図書資料費の確保が困難となっているが、本年度は令和2年度と同額の約0.72億円の予算を確保した。しかし資料本体の値上げ等により、全体の購入資料数は減少を続けている。

外国雑誌センター予算については、附属図書館予算の約1割を目標とし、0.26億円（令和2年度は0.27億円）を確保した。令和元年度にパッケージ購読を開始しタイトル契約数を増やしたことにより、EJ利用数やILL受付件数が増えている。このことから資料の利便性が向上したと推測できる。外国雑誌センター館の責務として国立情報学研究所目録所在情報サービス（NACSIS-CAT）に所蔵情報を提供し、全国からの利用に対応する体制をとっている。

（2）電子的情報基盤の整備

＜外国雑誌と電子ジャーナル＞

有料で導入している主な電子ジャーナルは次のとおりである。

	分野	導入年	誌数	範囲	備考
ScienceDirect (Elsevier)	全分野	H14	2,300	1995～	コンソーシアム契約によるフリーダムコレクション(うち約2,000誌は創刊号から)
SpringerLINK (Springer Nature)	多分野	H14	2,270	2000～	主要部分は創刊号から

Wiley Online Library (Wiley)	多分野	H14	1,400	1997 前後～	発行のほぼ全タイトル(一部は創刊号から)
JSTOR	自然科学及び社会科学	H14	1,500	創刊号～(最近3～5年は対象外)	Arts & Sciences I (H14～) Arts & Sciences II (H17～) Arts & Sciences III (H19.3～) Arts & Sciences IV (H18.3～) Arts & Sciences V (H23.1～) Arts & Sciences VI (H23.1～) Arts & Sciences VII (H21.4～) Arts & Sciences VIII (H23.1～) Arts & Sciences IX (H23.1～) Life Sciences (H15～) Business III (H23.1～)
Nature および関連誌	自然科学	H15	27	創刊号～	
AAAS Science Online	自然科学	H15	1	1997～	
APS	物理系	H16	10	創刊号～	米国物理学会
Cell Press	生命科学	H16	9	1995～	ScienceDirect で利用
LWW via Ovid	医学臨床	H16	13	1996～	パッケージ購読は 2015 年度まで
ACS	化学系	H16	64	創刊号～	米国化学会
Oxford University Press	多分野	H17	270	1996～	2014 年時点のほぼ全タイトル(一部は創刊号から)
Cambridge University Press	多分野	H18	400	1997～	発行のほぼ全タイトル(一部は創刊号から)
AAS Historical Periodicals Collection	多分野	H29	4,000	1684～1912	アメリカ古書協会
Academic OneFile	多分野	H30	9,700		
General OneFile	多分野	H30	9,600		
Gairn.info	社会科学 人文科学	H30	520	2001～	フランス語の学術雑誌
Emerald	社会科学	R01	210		Management eJournal Portfolio
SAGE	社会科学 人文科学	R01	570	1999～	PHSS2014

大手 5 社 (Elsevier、Wiley、Springer Nature(Springer Link)、Oxford University Press、Cambridge University Press) 発行のものについては、基本的に各社発行電子ジャーナルの多くのタイトルが利用できる電子オンリーの包括利用契約を行っている。

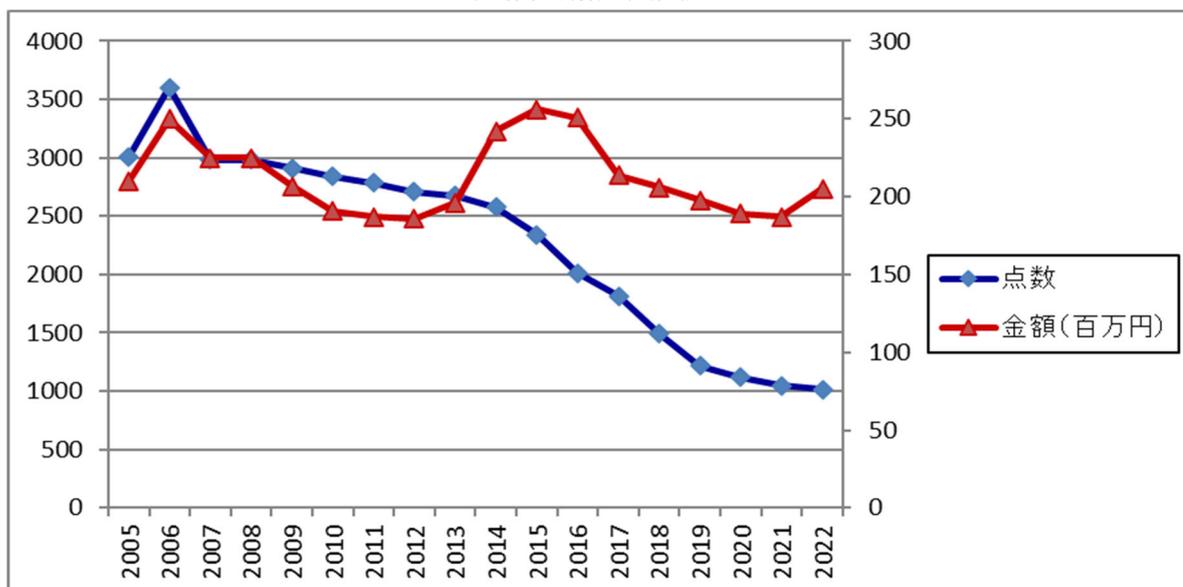
その他、単体で購読しているもの等も加えて、本年度末における電子ジャーナル購読数は 37,077 タイトルとなっており、令和 2 年度の規模を維持している。

各電子ジャーナルの利用状況は「電子的情報サービスの現況 (R3・2021 年度)」のとおりである。

2022 年外国雑誌の契約は、前年と比較して点数は減少しているが、円安の影響により契約金額は増加している。

契約点数	2021 年	1,050 点	→	2022 年	1,013 点 (3.5%減)
契約金額	2021 年	約 187 百万円	→	2022 年	約 205 百万円 (9.5%増)

<外国雑誌購読数推移>



<データベースの整備>

主な導入データベースは次のとおりである。(全てウェブアクセス)

	分野	導入年	範囲	備考
Web of Science Core Collection	全分野	H15	1900～	H15 SCIE 導入 H21 SSCI, AHCI 追加 H22 バックファイル追加 H29 Citation Connection 追加
Journal Citation Reports	全分野	H17		
MathSciNet	数学	H13	1940～	
SciFinder [®]	化学	H16	1840～	R2 SciFinder より移行 利用申請が必要
Readers' Guide to Periodical Literature	一般雑誌	H6	1983～	H18.4 より Web 版に変更 同時アクセス 1
EconLit	経済学	H3	1969～	同上 同時アクセス 4
Index to Legal Periodicals & Books	法学	H3	1981～	同上 同時アクセス 1
Business Source Premier	経営学	H22		
PsycINFO	心理学	H22		
PsycARTICLES	心理学	H22		
CINAHL	看護学	H22		
HeinOnline	法学	H22		アクセス制限なし
Lexis	法学	H22		R2 「Lexis Advance」より名称 変更 利用申請が必要
Westlaw Next	法学	H22		「Westlaw International」より H28 に名称変更

OECD iLibrary	多分野	H22		H22 に「Source OECD」より名称変更
医学中央雑誌	医学	H5	1983～	Web 版は H14 から医学・保健にサービス
メディカルオンライン	医学	H22		
官報	官報記事	H18	1947.5～	同時アクセス 1
日経テレコン 21	新聞記事等	H18	1975～	H19.7 より全学利用可 同時アクセス 20
*JapanKnowledge	全分野 (辞典等)	H17		同時アクセス 5 H28 からアクセス数 1 追加
*ざっさくプラス	国内雑誌記事	H26	1867～	同時アクセス 1 H28 MAGAZINEPLUS から切替
*JDreamIII	科学技術・ 医学・薬学	H19		同時アクセス 10 H25 JDreamII から変更
*朝日新聞クロスサーチ	新聞記事	H12	1879～	R4 年 3 月「聞蔵 II ビジュアル」 より名称変更 同時アクセス 3
*ヨミダス歴史館	新聞記事	H21	1874～	同時アクセス 1
*毎索	新聞記事等	H21	1872～	H23「毎日 News パック」より 名称変更 同時アクセス 2
*ナクソス・ミュージックライブラリー	音楽	H26		同時アクセス 5

・タイトル先頭に*を付したものは「e-study 資料費」により契約している。

・各データベースの利用状況は「電子的情報サービスの現況(R3・2021 年度)」のとおりである。

<電子ブックの整備>

学内で利用できる主な電子ブックは次のとおりである。(全てウェブアクセス)。利用可能な総冊数は本年度末現在で約 4 万 5 千冊である。

	分野	購入年度	タイトル数
**EBSCO eBooks	多種	H22-(随時)	750
*Elsevier Handbooks in Economics	経済学	H20-(継続)	30
*Emerald Business, Management and Economics eBook Series Collection	経営学、経済学	H21-	450
LWW Doody's Core Collection	医学	H21	129
**Maruzen eBook Library	多種	H26-(随時)	2,200
**Oxford Handbooks Online	経営学、哲学、政治学、宗教学、言語学	H22 ,H27	146
ScienceDirect レファレンスワークス	多分野	H23	21
*Springer eBooks	数学、経営学、社会科学	H17-	9,000
*群書類従(正・続・続々)	国文学、国史	H27	
*鎌倉遺文	国史	R01-R02	
*新訂増補 国史大系	国史	R03	

注)*部局予算による購入

**部局予算による購入分を含む

◆評価と課題

電子ジャーナルおよびデータベースは研究者（大学院生を含む）にとって必要不可欠な学術情報基盤であり、総ダウンロード数は教育研究基盤資料整備事業によるもので約 140 万件と、総体として非常によく利用されている。神戸大学では平成 17 年度および平成 20 年度に出された 2 つの附属図書館審議会答申に基づき電子リソースに関わる基盤整備を行っている。また、基盤整備に充当する教育研究基盤資料整備費のあり方について、中期計画期間の前半・後半各 3 年間で単位として検討の上、整備にあっているところである。

今期中期計画期間（平成 28～令和 3 年度）においては、原価の上昇や為替の変動による価格の変動に対応し、教育研究基盤資料整備費から特定主題に係る電子ジャーナル・データベースや共同利用が可能な外国雑誌への補填率を段階的に引き下げ、必要なコンテンツの購読を維持するための拠出経費を確保してきた。（共同利用が可能な外国雑誌への補填は令和 3 年度より廃止）

令和 4～6 年度の次期中期計画期間前半においては、令和 3 年度までの購読内容を維持し、経費節減の効果が見込めるものについては複数年契約を行うこととして、部局長会議（令和 2 年 10 月）にて承認を得たところである。

電子ジャーナルの価格上昇への対応が基盤整備において長年にわたる大きな課題となっているが、それに加えて円安が顕著に進行している情勢であり、今後は所要額のさらなる上昇が予想される。次期中期計画期間においては、転換契約*1 の広がりを視野に入れつつも、基盤維持と経費のバランスを考慮した整備計画を立案・進行する必要があると考えられる。

電子ブックについては、本学においては図書館予算より部局予算による購入が中心であるが、その中でも EBA モデル*2 のような利用者の要求を反映した購入を進めているところである。また、国内出版物の電子版の提供も増加しており、このような状況の変化への対応が必要となっている。

*1 転換契約

従来の購読料をアクセスの確保のために負担するモデルから、論文をオープンアクセスとする出版費用を拠出するモデルへ転換することを目指した契約

*2 EBA(Evidence Based Acquisition)モデル

出版社の全タイトルもしくは特定のコレクションを対象として有料トライアルを実施し、トライアルの終了後に、利用実績を参考にしてトライアルの金額の範囲内で実際に購入する（恒久アクセス権を取得する）タイトルを選択する契約モデル。

（3）蔵書目録データベースの整備

<目録遡及入力事業>

- 目録遡及入力は平成 4 年度から事業を開始、学内予算措置や外部資金を得て、第 2 期中期計画最終年度の平成 27 年度に全蔵書のうち館室配置図書の入力を完了した。その後も第 2 期中期計画の遡及入力事業対象外であった資料群の所蔵データ入力に努めている。
特に和古書は、拠点大学として参加している国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業のデータベース構築にあたり目録データ作成が不可欠なため、重点的に入力を行っている。
- 令和 3 年度計画
令和 3 年度は、継続して登録作業を行っている社会科学系図書館貴重書室所蔵の住田文庫(和古書)と洋古書、人文科学図書館所蔵の和古書、人間科学図書館所蔵の和古書について入力を計画した。

- 令和3年度実績 8,236冊

研究室戻り, 製本雑誌等		各館室	6,438冊
特殊資料	和古書	社会科学系図書館、人文科学図書館、人間科学図書館	1,402冊
	洋古書	社会科学系図書館	396冊

◆評価と課題

令和3年度は計画通り、社会科学系図書館貴重書室所蔵の住田文庫（和古書）と洋古書、人文科学図書館所蔵の和古書、人間科学図書館所蔵の和古書を入力した。今回入力した和古書のうち、多くの資料が新たに国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業の電子化対象となった。入力冊数は各館室で新型コロナウイルス感染拡大防止の対応が必要とされた影響を受け、前年度より減少した。

現在、蔵書数約378万冊のうち約329万冊の所蔵データが入力済みで、全蔵書の約87%がOPACで検索できるようになっている。残る未入力冊数は約49万冊である。

特殊資料は入力に専門知識の習得が不可欠であるが、研究上重要な資料が多数ある。今後も未登録データ入力によって一層の利用者へのサービス向上、図書管理業務の効率化が期待される。

（4）資料の保存

＜資料保存における問題と対策＞

- 令和2年度に各館室に対し行った資料除籍についての意向調査により重点実施館となった自然科学系図書館において除籍計画を策定のうへ計画を達成した。
- 資料保存のための環境整備に努めた。主なものは以下の通り。
総合・国際文化学図書館：貴重書庫調湿キャビネット2台設置、書庫除湿器3台設置
社会科学系図書館：書庫A棟、B棟、C棟の窓に暗幕を設置
経済経営研究所図書館：新聞記事文庫クリーニング、IPMメンテナンス（総合的有害生物管理）、燻蒸処理
- 海事科学分館所蔵の「渋谷文庫」のうち計59点について神戸大学海事科学振興財団より助成を受け、資料保存の目的にて電子化を行った（画像1,150枚）。
- 拠点大学として参加している国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業のデータベース構築準備関連の修復については「4. 社会連携・情報発信」の「(3) 電子図書館システムによる情報発信」に記載。
- 震災文庫資料保存のための媒体変換については「4. 社会連携・情報発信」の「(2) 震災文庫」に記載。

◆評価と課題

本年度は前年度に実施した意向調査、同じく前年度に更新した「実務指針」に基づき資料の除籍を実施し書庫狭隘化の課題解決に取り組んだ。

今後は資料整備グループ整備担当による附属図書館全体および各館室における整理作業計画のとりまとめや調整、作業の進捗管理や必要に応じて他館室への作業応援や人員調整など、体系的な資料整備が進むことが期待される。加えて、自然科学系図書館の増築改修事業が採択され、増築部分に共同利用書庫が新設され

ると書庫スペース狭隘化の解消に繋がるため、共同利用書庫の有効な活用計画を検討する必要がある。また、突発的な空調機の故障や豪雨に伴う雨漏りなど想定外に備えて、なお一層の書庫環境の保全維持、資料保存の適切な環境整備に努めていく必要がある。

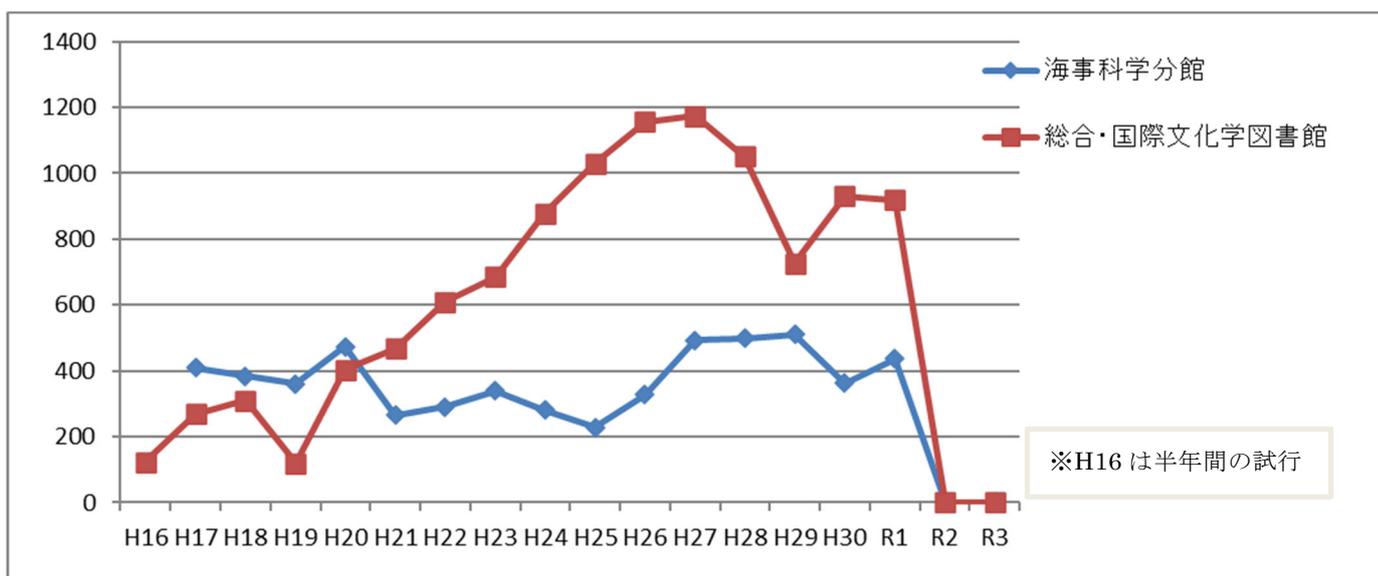
4. 社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス・展示会の開催

<一般市民の図書館利用>

- 総合・国際文化学図書館と海事科学分館において一般市民への貸出サービスを実施している。本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に係る対応措置として学外者の入館は令和2年3月以降、原則不可となり、前年度に続き利用登録者数は0名、貸出冊数は0冊になった。

<貸出冊数の推移>



<展示会の開催>

- デジタル資料展「村上家文書の世界 ～近世×神戸×農村～」

平成27年度に開催した資料展の内容を、附属図書館のHP上で公開した。

内容：当館が所蔵する郷土文献資料（古文書）の中でも最大のコレクションである「撰津国八郡花熊村村上家文書（せつつのくにやたべぐんはなくまむらむらかみけもんじょ）」を取り上げた。以下の4つのサブテーマに分けて、古文書等を通して、近世神戸の農村の姿を紹介した。

- 1) 花熊村の様相
- 2) 花熊村の農業と産業
- 3) 水の利用－溜池と水車
- 4) 再度山大龍寺

- 昨年度に続き新型コロナウイルス感染拡大防止措置で学外者の入館を不可としたことに伴い、本年度も社会科学系図書館展示ホールでの資料展の開催は中止とした。
- その代替として、HP上での上記デジタル資料展を、10月15日より公開した。
- 展示ケースに実物展示した、及び説明パネルに写真記載した古文書とその翻刻や、解説文と参考画

像等を HP に掲載した。

- ・ 10月15日の公開以降、3月末までに、1,368件のアクセスがあった。

<学内巡回展、その他の展示、他組織主催の展示の受入等>

- ・ 阪神・淡路大震災の発生した1月17日にあわせて例年実施している、震災資料展のリバイバル展示は、昨年度と同様中止とした。
- ・ 海事博物館や人文学研究科と連携した展示企画「神戸大学サテライト巡回展」の一環として、以下のパネル展示を社会科学系図書館展示ホールに掲示した。

海事博物館巡回パネル展「ふね遺産 進徳丸」(主催：海事博物館、会期：令和3年11月22日～令和4年5月15日)

◆評価と課題

一般市民への資料の貸出サービス開始以来、総合・国際文化学図書館では平成19年度に改修工事の影響で一時的に貸出冊数は落ち込んだものの、その後は増加を続け平成28年度からの減少傾向も平成30年度から回復の兆しがあり、海事科学分館では平成21年度に書庫立ち入り制限の実施により大きく減少しその後はほぼ横這い状態が続いたが、平成27年度から増加傾向にあり平成29年度は過去最高の貸出冊数となるなど、館室・年度によって増減はあるものの全体として地域社会への貢献活動のひとつとして定着していた。

前年度からは新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴い学外者の入館は原則不可となり社会に開かれた図書館としての役割を十分に果たすことが難しい年となった。

資料展については、昨年度同様新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴い、展示ホールでの開催は中止となった。展示を通じた地域・社会貢献が目的であるので、この状況ではやむを得ないとする。

その代替として、昨年度に続きデジタル資料展を公開した。所蔵資料・古文書の紹介、また地域の歴史、それも一般にはあまり知られていない事柄の紹介としても、意義はあると評価する。

新型コロナウイルス感染症をめぐる今後の状況は予測がつかないが、展示ホールでの開催の再開も視野に入れつつ、ウィズコロナの状況下で可能な形態で取組んでいきたい。

(2) 震災文庫

<資料収集と一般公開>

- ・ 引き続き、様々なチャンネルからの情報収集を行い、購入や寄贈依頼等の積極的な収集活動に努めた。876件(前年度は921件)を収集し、資料所蔵総数は6万2千件を超えた。

	全件数 (タイトル数)	R3(R2) 新着		全件数 (タイトル数)	R3(R2) 新着
図書資料	8,793(7,724)	147(144)	地図資料	164(149)	11(12)
雑誌資料	14,166(3,423)	63(62)	動画資料	338(282)	3(6)
新聞・広報誌資料	24,726(12,725)	613(656)	音声資料	111(91)	1(1)
パンフレット資料	6,622(6,448)	7(16)	コンピュータ資料	101(93)	1(2)
一枚もの資料	7,247(7,240)	30(21)	www	11(5)	0(1)
写真資料	113(95)	0(0)	総合計	62,392(38,275)	876(921)

注)雑誌等の各号を1冊ずつ数えた数が「件」、同一タイトルを1と数えたのが「タイトル」。

写真資料等はコレクション単位(概ね撮影者単位)を1としているため件数が少ないが、写真2万枚強のコレクションも含まれている。

＜震災デジタルアーカイブ＞

- ・ 地元のローカルテレビ局サンテレビジョンより寄贈を受けた阪神淡路大震災直後の映像 98 件を、新たに公開した。
- ・ 資料全体のタイトル等だけでなく掲載されている記事情報等からも検索できるよう、詳細なデータを継続的に作成している。本年度は 2,427 件を入力し、その結果、データベースのレコード総数は 30 万 4 千を超えた。
- ・ 著作権の許諾が得られた資料 17 点をデジタル化公開した。
- ・ デジタルコンテンツの利活用を促進するため、デジタルギャラリーで公開中の写真・動画・音声の著作権者へコンテンツへのクリエイティブ・コモンズ・ライセンス適用について照会し、適用の許可を頂いた著作権者 8 名のコンテンツにクリエイティブ・コモンズ・ライセンスを適用した。
- ・ 各機関から、防災に関する教材作成や阪神淡路大震災関連のテレビ放映等のための転載許可願が写真を中心に 10 件（前年度 8 件）あり、著作権者へ許諾確認を行い回答した。
- ・ 平成 21 年 1 月より開始した人と防災未来センターと震災文庫の「震災資料横断検索」事業は、兵庫県立図書館を加えて 3 機関での事業になり、本年度は 4 回のデータ更新を行った。（人と防災未来センター：5,11,3 月、兵庫県立図書館：10 月）なお、令和 4 年 9 月のシステム改修に際して、横断検索事業を維持するためには特定の機能維持が必要となるため、「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」「兵庫県立図書館」と協議を行い、令和 4 年 3 月をもって横断検索事業を終了した。
- ・ 平成 24 年 10 月に連携を開始した「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）」に継続してデータを提供している。

＜震災文庫の活動＞

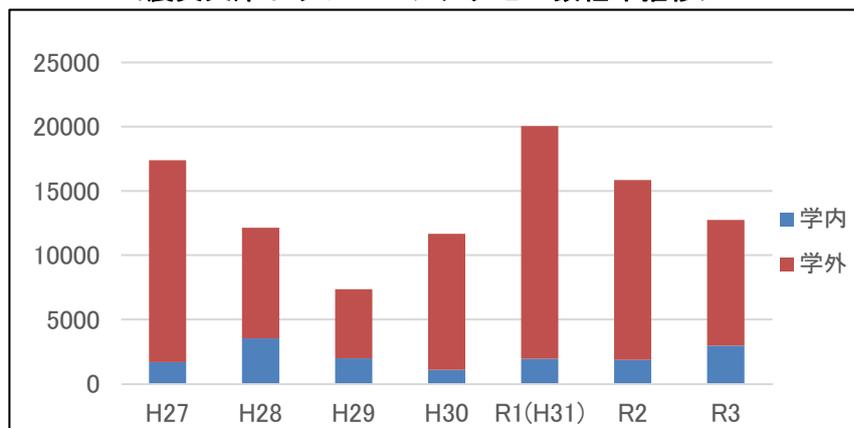
- ・ 総合教養科目の「阪神・淡路大震災 A」の遠隔授業(オンデマンド、受講生 45 名)用に震災文庫紹介動画を作成・公開した。
- ・ 令和 4 年 2 月 14 日に、「第 11 回被災地の図書館と震災資料の収集・公開に係る情報交換会」を人文学研究科と協力してオンラインで開催し、会には計 33 名が参加した。

◆評価と課題

前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事前予約制（学内者のみ）での利用に制限したため、来館者数は低調だった。そのほか、サンテレビジョンより寄贈を受けた阪神・淡路大震災当時の取材映像を閲覧提供および電子化公開するために、「肖像権ガイドライン」（デジタルアーカイブ学会公表）を参考に、サンテレビジョン、人文学研究科地域連携センターの三者での協議を、本年度も継続して行い、1 月に新たに映像 98 件をデジタルアーカイブで公開した。今後も、三者で協力し映像の閲覧提供およびデジタルアーカイブでの公開を進めていく。

課題として、さらなる活用促進のための活動の実施のほか、運用方針の見直しが挙げられる。これまで震災文庫では、一般公開できる資料のみを収集対象としてきたが、個人情報保護等の観点から一般公開が難しい資料の受入・運用についての検討が必要である。また、平成 30 年度覚書を締結したハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所「日本災害 DIGITAL アーカイブ」とのシステム連携について、引き続き調整を進めていく。

＜震災文庫トップページアクセス数経年推移＞



※H28.9 図書館システムリブレース

(3) 電子図書館システムによる情報発信

＜「神戸大学電子図書館システム」によるデジタルアーカイブ構築・運用＞

- ・ 同システムは当初全国 5 大学に「先導的電子図書館プロジェクト」として予算措置されたもので、本学には平成 10 年度補正予算で措置され、平成 11 年から稼働している。法人化後は電子図書館事業費として学内経費化され、運営を続けている。
- ・ 「震災関係資料」、「経済関係資料」、「学内研究成果」を 3 本柱に事業を推進し、デジタル化した資料を Web 上で公開してきた。経費には上記の電子図書館事業費と、科学研究費補助金研究成果公開促進費（平成 11-15 年度 震災デジタルアーカイブに措置、平成 16-23,25,27,28,30 年度 戦前期新聞経済記事文庫に措置）を充ててきた。
- ・ コンテンツのうち震災関係資料については、前節で述べたとおりである。
- ・ 平成 31 年 1 月より、一部のコレクション（本年度末時点で 19 コレクションが対象）の画像については、従来必要だった申請手続を廃して、自由に二次利用可能とした。これらについては利用時の報告を任意で依頼しており、本年度 3 件の報告があった。それ以外にも、各機関から転載申請が 16 件あり、許諾回答した。

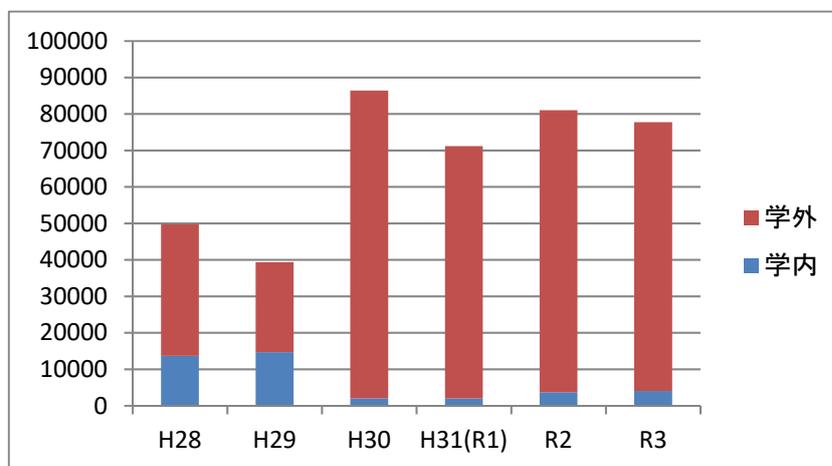
＜経済関係資料および貴重書・稀観書のデジタル化＞

- ・ 新聞記事文庫（戦前期記事切抜）デジタル化については、科学研究費補助金研究成果公開促進費が不採択となったため、電子図書館事業経費、学内ワークスタディ事業、学生アルバイト雇用、館内職員の内製作業により、下記の通りデータを作成し、校正をすすめた。これにより戦前期までのインデックスデータ作成は本年度すべて完了した。公開記事件数は、令和 4 年 3 月末で約 32 万 7 千記事である。
 - tiff・pdf データ (6,975 コマ) ※マイクロフィルムに不備有の為、現物からの再撮影
 - インデックスデータ (11,988 記事 総件数 356,325 記事)
 - 本文テキスト作成 (3,379 記事 総件数 311,987 記事)
- ・ 平成 24 年 5 月より当文庫データベースの「活用事例集」ページを HP 上で公開し、また活用事例を Twitter で紹介するなど、より一層の普及と有効活用の支援を図っている。
- ・ 平成 24 年 1 月より公開された「国立国会図書館サーチ (NDL Search)」とは、前身のデジタルアーカイブポータル (PORTA) に引き続いて連携を行っている。
- ・ 拠点大学として参加している国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業のデータベース構築のため、住田文庫を含む各館古典籍 472 点の電子化を行った。

電子化に先立って計 7 冊の住田文庫資料の修復を実施した（修復費用の一部は国文学研究資料館から補助を受けた）。電子化した画像は「新日本古典籍総合データベース」より順次公開される予定である。

- ・ 国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業で令和 2 年度に電子化した住田文庫 91 点分（9,886 枚）の画像を、住田文庫デジタルアーカイブにて公開した。本年度は、これまでに公開した「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業撮影資料のうち 313 点の電子化画像公開画面に計 627 件のアクセスがあった。
- ・ 国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業で令和 2 年度に電子化した住田文庫以外の画像 389 点分（53,245 枚）を、附属図書館デジタルアーカイブ『日本の古典籍』で公開した。本年度は、これまでに公開した「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業撮影資料のうち 259 点の電子化画像公開画面に計 5,289 件のアクセスがあった。
- ・ 令和 4 年 3 月 9 日、人文学研究科と附属図書館にてワークショップ「歴史的典籍 NW 事業を振り返って」が開催され、本事業に関する情報交換を行った。
- ・ 人文学研究科のグローバル化支援経費により、人文学図書館所蔵古典籍 4 点（2,192 枚）を電子化した。電子化した画像は当館デジタルアーカイブにて公開予定である。
- ・ 神戸大学海事科学振興財団より助成を受け、海事科学分館所蔵の「渋谷文庫」のうち計 59 点を、資料保存の目的で電子化した（画像 1,150 枚）
- ・ 地域連携センターとの連携事業にて大学院生アルバイトを雇用し、令和 3 年 6 月に遺族より寄贈された若林泰氏収集資料（若林家文書）の電子化公開に向けた確認作業を実施した。

＜新聞記事文庫トップページアクセス数経年推移＞



※H28.9 図書館システムリブレース

＜学内研究成果資料デジタル化＞

- ・ 機関リポジトリは開設 16 年目となり、令和 4 年 3 月末現在 34,466 件（前年度末 32,738 件）の学術成果を一般公開している。詳細は次項に述べる。
- ・ キク科の染色体数データベース（渡邊邦秋名誉教授作成）のデータ更新を続けている。更新頻度は月 1 回、本年度のレコード増加数は 14,403 件で、累計レコード数は 209,603 件である。なお、本データベースについては、令和 4 年 9 月のシステム改修に際して現行の公開体制の維持が困難となることに先立ち、令和 4 年 3 月に生命科学系データベースアーカイブ（バイオサイエンスデータベースセンター）での公開を開始した。

◆評価と課題

新聞記事文庫はその規模の大きさと希少性（戦前の記事切抜きはほとんど残っていない）から高い評価を得ており、HP へのアクセス数は継続してデジタルアーカイブ中トップである。本年度は前年度に引き続きデータ作成体制を強化し、新聞記事文庫電子化事業で対象と定めた戦前の全記事約 35 万 6 千件のインデックスデータ作成を完了した。そのほか、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業での住田文庫を含む古典籍の電子化・画像公開や、地域連携センターとの連携による「若林家文書」の電子化公開準備を実施した。今後も学内外との協力によりコンテンツを拡充していきたい。

また、本年度は、令和 4 年 9 月のシステム改修において JP COAR スキーマや IIIF 等の共通規格へ対応するため、各関係者との協議やデータ変換等を進めてきた。今回の改修により、今後は学内研究成果や貴重書の電子化画像等を、デジタルアーカイブもしくは機関リポジトリ（次項）によってより円滑に公開でき、維持管理や外部連携も行いやすくなることが見込まれる。改修後は、メタデータの二次利用条件の明確化なども経て、外部連携をさらに拡大していくことが課題である。また、電子化画像の保存管理体制についても、検討・整備を引き続き進めていく。

（４）機関リポジトリによる情報発信

<コンテンツ収集活動>

- 平成 18 年度に稼動を始めた神戸大学学術成果リポジトリ（Kernel）は、比較的順調に成長を続けている。令和 4 年 3 月末現在のコンテンツ数は 34,466 件となり、1 年間で 1,728 件増加した。

<機関リポジトリコンテンツ種別件数>

一般雑誌記事	157 (157)	図書	203 (203)
会議発表論文	117 (117)	データセット	4 (4)
紀要論文	21,116 (47,453)	学術雑誌論文	7,539 (7,829)
教材	23 (23)	会議発表用資料	644 (644)
研究報告書	183 (183)	テクニカルレポート	774 (1,195)
学位論文	3,065 (11,714)	その他	632 (640)
プレプリント	9 (9)	合計	34,466 (70,171)

注)括弧内は書誌情報のみ(本文ファイルなし)も含んだデータ数

- 学位規則改定後の平成 25 年 4 月以降に学位授与された博士学位論文は要旨・全文ともに原則としてリポジトリからインターネット公表することとなったため、非公表・公表延期を除く論文を公開した。令和 2 年度以前の授与分を対象に、本年度は合計 177 件の本文を公開した。
- 神戸大学研究者紹介システム「KUID」や「Web of Science」より抽出したデータを元に、学内研究者に論文登録照会作業を行い学術雑誌掲載論文の収集に努めた。
- 前年度に続き、オープンアクセス推進 WG を設置した。主な取組として、KUID に登録された論文情報 3,173 件の出版社の著作権調査を実施し、公開可能なもののうち 186 件について著者に登録依頼した。結果、68 件を登録した。

<広報・啓発活動>

- 学内教員への浸透を図るため、『Kernel 通信』の第 25 号、第 26 号を発行し、オープンアクセス・オープンサイエンスに関する情報等を掲載してその周知につとめた。

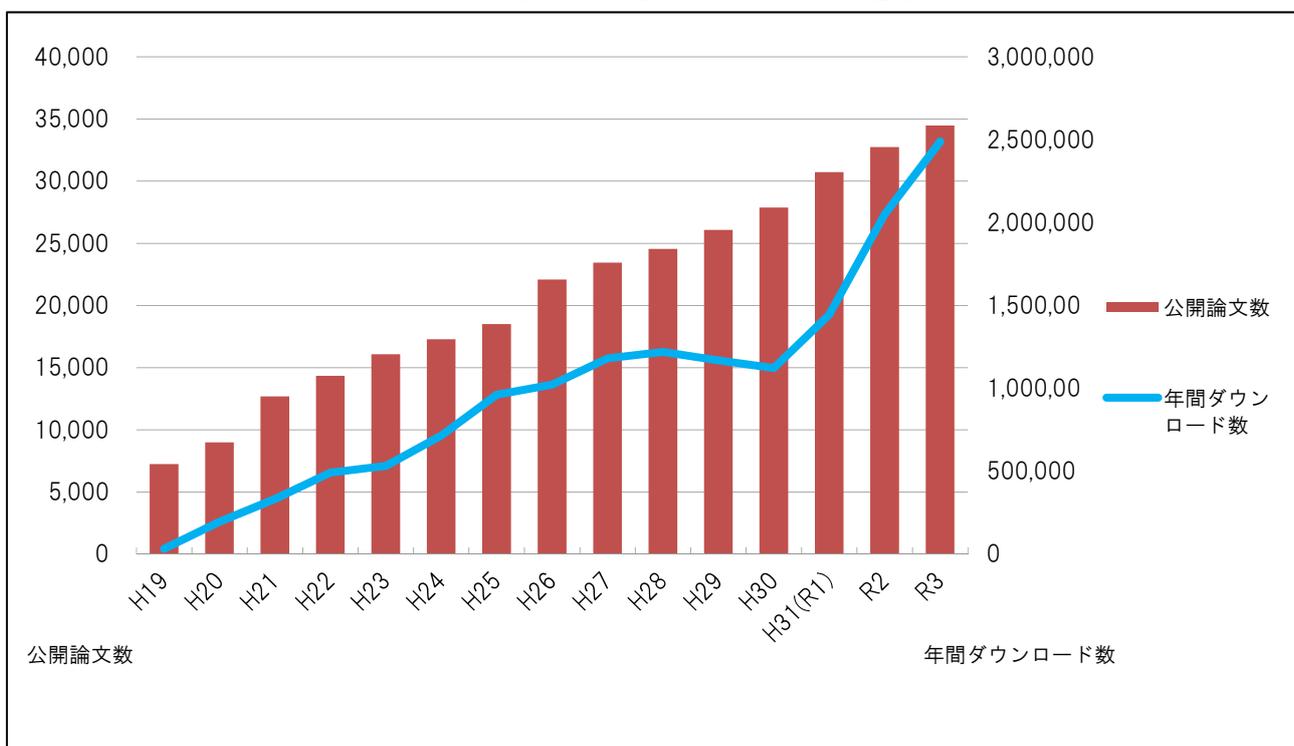
- ・ 10月のオープンアクセスウィークには論文抜き刷り送付用学内便封筒を教員ポストに配布した。
- ・ 登録者へのサービスとして、毎月1回ダウンロード数お知らせメールの配信を継続して実施している。
- ・ 博士論文インターネット公表に関する博士課程後期学生向け配布資料（日本語・英語）を作成し、各研究科教務担当へ4・9月入学ガイダンス時の配布を依頼した。
- ・ ジャパンリンクセンター（JaLC）より、一定条件を満たす場合、リポジトリ登録コンテンツの抄録へJaLC上で「第三者使用可」の利用条件を適用することに関する通知があった。対応を検討の上、Kernel運用指針の改訂および紀要刊行元への抄録利用条件照会を行った。
- ・ 当館が令和3年度国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業の実施担当として開催した研修会「研究データポリシーの策定に向けて」（11月29日、実施形式：Zoomによるオンライン形式）では、神戸大学から22名（図書館職員16名、教員・事務職員6名）の参加申込みがあった。

◆評価と課題

リポジトリ開設から公開論文数と公開論文へのアクセス数は着実に数を伸ばしている。平成30年度以降に図書館内に設置した「オープンアクセス推進WG」で論文の公開ポリシー調査を行うことで、リポジトリでの学術論文の公開を着実に進めることが出来ているため、今後もこの取り組みを継続していきたい。また、本年度は、令和4年9月のシステム改修でJPCOARスキーマへ対応できるよう、メタデータの移行準備を進めてきた。そのほか、ジャパンリンクセンター（JaLC）のメタデータのオープン化を契機に、当館のメタデータについても検討を行うなど、運用面の見直しも進めることができた。

今後は、平成29年1月に学長裁定となった「神戸大学オープンアクセス方針」のさらなる周知と、オープンアクセス・オープンサイエンスに関する情報発信および、研究データの公開体制整備に向けた情報収集・検討を進めていきたい。

＜Kernel 公開論文数及びダウンロード数推移＞



※H28.9 図書館システムリプレイス

(5) 国際連携

<海外派遣>

・国立大学図書館協会海外派遣事業(短期)

本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、海外渡航および海外からの来日が著しく制限された。国立大学図書館協会海外派遣事業(短期)では、オンラインでの国際会議の発表・出席も可とする特例措置が実施されたが、応募は見送ることとなった。

<その他>

・日本古典籍研究国際コンソーシアムへの参加

神戸大学附属図書館として令和3年3月から登録参加している。日本国内に限らず世界の機関・大学・図書館の参加も多く、時間と場所を選ばないWeb形式での活動が中心であり、連絡窓口として職員1名が担当している。

◆評価と課題

本年度も海外へ職員を派遣することは叶わなかった。しかし、Web という時間と場所を選ばない方法により、国内外の機関と連携し活動する場はますます広がってきている。

国立大学図書館協会海外派遣事業への応募・採択は令和元年度まで5年連続であった。毎年の調査テーマも多岐にわたっており、それらの成果は職員研修会や海外派遣事前勉強会により館内で共有されている。派遣者個人の資質の向上とともに、館内に海外での調査研究・発表の経験やノウハウが蓄積され、次の海外派遣へとつながっていることから、徐々に海外渡航の制限が解除されつつあるなか、海外の動勢を把握し、次の派遣に備えることが重要である。

海外派遣事業をはじめとする国際連携は、グローバルな視点を持って大学図書館を担っていく職員の育成のために非常に重要である。しかしその実現には予算の確保が不可欠であり、今後も外部資金の獲得などを積極的に行っていく必要がある。

5. 管理運営等

(1) 図書館組織と運営

<管理運営全般>

令和3年3月、任期満了により富山明男館長(工学研究科教授)が退任し、4月より部局長経験者である櫻井徹館長(国際文化学研究科教授)が就任した。館長の交替に伴い、副館長3名も交替した。4月30日の第1回館長・副館長・分館長懇談会にて、副館長の役割分担を決めた。新任の副館長及び役割分担は以下のとおりである。

- ・ 井上 典之 副館長(法学研究科教授) : 社会科学系図書館、広報担当
- ・ 藤嶽 暢英 副館長(農学研究科教授) : 自然科学系図書館、基盤センター運営委員
- ・ 長 志珠絵 副館長(国際文化学研究科教授) : 評価担当、国際交流担当

また、医学分館長、海事科学分館長も4月1日付けで交替した。

<館内諸会議>

*開催日時、議事内容等は、<付録>附属図書館諸会議 に掲載

① 附属図書館運営委員会

- ・ 本年度は5回開催した。第3回のみメール回議となり、他はすべてWeb会議にて開催した。

② 附属図書館長・副館長・分館長懇談会

- ・ 本年度は5回開催した。第1回は対面とWebのハイブリッド形式で開催し、第2～5回はWeb会議にて開催した。

③ 附属図書館評価委員会

- ・ 本年度はメール回議にて2回開催した。

④ 附属図書館研究開発室会議

- ・ 本年度は電子化部会をメール回議にて1回開催し、令和3年度電子図書館事業計画（案）について協議した。また新聞記事文庫の科研費申請に係る書類作成において、室員の教員より意見・助言を得た。
- ・ 電子化部会の震災関係資料小委員会については、サンテレビジョン提供の映像公開における検討において、委員の教員2名に助力を得た。また震災文庫での資料の整理について助言・協力を得た。
- ・ 教育研究支援部会の懇談会をWeb会議にて3月25日に開催し、本年度と次年度の情報リテラシー教育事業について、室員の教員と意見交換を行い、助言を得た。

⑤ 附属図書館係長会議

- ・ 本年度の開催はなかった。

⑥ 附属図書館情報サービス課連絡会議

- ・ 前年度よりWeb会議にて定例開催となり、本年度中は基本月1回計13回開催した。

＜教育研究基盤資料の充実＞

大学全体の予算は厳しさを増しているが、第3期中期計画期間後半（令和元～3年度）の教育研究基盤資料整備費全体については、部局等への補填割合を減額することにより、基盤となる部分を維持することが平成30年5月の部局長会議で承認されている。その承認に基づき、本年度は3.63億円（決算ベース）が措置され、中心となる電子ジャーナル及びデータベースについては平成28年度の予算規模を維持することが出来た。

第4期中期計画前半（令和4～6年度）の教育研究基盤資料整備費による整備方針については、令和2年10月8日の部局長会議において、上限4.1億円として承認を得た。

＜大学文書史料室＞

平成30年度から学長直下の室として独立したが、事務は引き続き附属図書館が担当している。

＜神戸大学出版会＞

事務担当部局として出版会運営委員会を対面とWebのハイブリッド形式にて1回、メール回議1回の計2回、出版会出版委員会を対面とWebのハイブリッド形式にて3回、メール回議2回の計5回開催した。本年度は新刊書を2冊刊行した。

- ・ 國部克彦、鶴田宏樹、祇園景子編『価値創造の教育 神戸大学バリュースクールの挑戦』
2021年8月
- ・ ロニー・アレキサンダー編著『ポーポキのマスクギャラリー
～コロナ禍でアートを通して日常の安心を探る～』2022年2月

◆評価と課題

附属図書館運営委員会においては、例年教育研究基盤資料の整備が懸案事項となっている。第3期中期計画期間後半（令和元～3年度）の教育研究基盤資料整備については、部局等への補填割合を減額することにより、基盤となる部分を維持する方向が平成30年5月の部局長会議にて承認されている。さらに、第4期中期計画前半（令和4～6年度）の教育研究基盤資料整備費による整備方針について、令和2年10月8日の部局長会議において、上限4.1億円として承認を得た。しかしながら、所要額の上昇、大学予算の削減等により依然として非常に厳しい状況が続いており、今後の整備方針の検討が課題である。

研究開発室については、電子化部会と教育研究支援部会がそれぞれ、室員の教員より意見・助言を得ることができ、設置目的のとおり高度な図書館サービスの実現に寄与している。

情報サービス課連絡会議により、新型コロナウイルス感染症への対応だけではなく、各館室の問題や状況を共有することにより、均一のサービス提供や問題点の解決につながっている。

大学文書史料室は平成30年度から、学長直下の室として独立したが事務は引き続き附属図書館が担当している。また、神戸大学出版会についても事務を担当し、本年度は新刊書を2冊刊行した。

（2）事務組織と人事管理

＜図書館事務組織＞

- ・ 人事異動は主に4月1日付、7月1日付の2回であったが、その他に期限満了、退職に伴う異動があった。令和3年7月時点で、附属図書館事務部は2課2グループ11係、定員46名、非常勤職員32名の78名であった。また経済経営研究所図書係は、定員3名を配置している。
- ・ 平成22年4月に設置した大学文書史料室は、現在定員2名（政策研究職員1名・再雇用職員1名）、非常勤職員2名を配置している。このうち再雇用職員は、学内予算による措置期間（令和元～2年度2年間）を経て、令和3年度より恒久的な継続雇用が認められた。
- ・ 本年度5月10日付で、定員職員1名（係長）が早期退職し、資料整備グループ整備担当専門職員は管理課補佐が兼任となった。
- ・ 令和3年7月時点の職員の配置状況は、以下のとおりであった。なお、巻末付録には令和4年7月現在の組織図を掲載している。

地区	館室	配置係数等	定員職員	非常勤職員	計
六甲地区	総合・国際文化学図書館	サービス課補佐 2係	5	4	9
	社会科学系図書館	部長 管理課長・補佐 2グループ(内1グループは 自然系にも配置) 3係	21	14	35
	自然科学系図書館	サービス課長 サービス課補佐 2グループ(内1グループは 社会系にも配置) 1係	7	3	10
	人文科学図書館	1係	3	2	5
	人間科学図書館	1係	3	2	5
楠地区	医学分館	1係	3	4	7
名谷地区	保健科学図書室	1係	2	1	3
深江地区	海事科学分館	1係	2	2	4
		計	46	32	78

六甲地区	経済経営研究所図書館	1 係	3	0	3
	大学文書史料室		2	2	4

- ・ 社会科学系図書館が事実上の中央館として機能しており、企画係・管理係が全館の総務機能を、資料整備グループ受入担当・雑誌担当・目録担当・整備担当は、当該業務に係る全館調整機能と社会科学系図書館及び総合・国際文化学図書館の整理業務を担当している。
- ・ 事務組織改編により 4 月 1 日付で電子図書館係と情報システム係は電子情報グループの各担当となり、あらたに震災文庫担当（社会科学系図書館配置）が設置され、専門職員 1 名を配置した。自然科学系グループと医学グループは各館の情報サービス係となり、それぞれ係長 1 名係員 2 名の体制となった。
- ・ 電子情報グループ電子図書館担当（社会科学系図書館配置）、同情報システム担当（自然科学系図書館配置）及び情報サービス課の情報リテラシー係（総合・国際文化学図書館配置）は、当該業務の全館調整機能を果たしている。
- ・ 各館室に配置する情報サービス係は、主に各館室のサービス業務を担当し、社会科学系図書館及び総合・国際文化学図書館以外は、各館室の整理部門も担当している。

<自然科学系図書館臨時事務室>

- ・ 自然科学系図書館改修工事に伴い、12 月より臨時事務室を人文科学図書館及び社会科学系図書館に分散し設置した。人文科学図書館内に利用者対応のための臨時窓口を設けサービス課補佐 1 名、係員 1 名を配置し、他は社会科学系図書館リフレッシュルームとグループ学習室を臨時事務室とした。

<在宅勤務・自宅待機>

- ・ 本年度中の神戸大学の活動制限指針において、事務体制はレベル 1 もしくはレベル 2 であったことから、附属図書館としては職員の在宅勤務は実施せず、時差出退勤のみの対応とした。
- ・ 自宅待機については、神戸大学の職員が「新型コロナウイルス感染症陽性者」と接触があった場合の自宅待機等期間の基準に則って対応した。附属図書館職員からも新型コロナウイルスの陽性となったものがあったが、感染可能期間に座席が近い同じ係・グループで長時間陽性者と接触した職員は、一定期間自宅待機としたことにより、職場内での感染は起こらなかった。
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で学生雇用ができない中、院生の在宅勤務は認められた。これを受けて、電子図書館担当にてワークスタディ予算で院生 5 名 816 時間の雇用をおこなった。更に後期からの学生雇用での時間外開館が中止となったため、院生 9 名 1,197 時間を在宅勤務とし雇用した。ワークスタディ及び時間外要員あわせて、「新聞記事文庫」4,564 記事のインデックスデータと 1,635 記事のテキストデータの作成を行った。

<職員の採用と育成>

- ・ 退職者（令和 2 年度末）2 名の補充として、4 月に準正規職員 2 名を採用した。
- ・ 前年度採用者 1 名が「兵庫県下教育機関事務系職員（新規採用者）研修」を受講した。「神戸大学新任職員研修」はオンデマンドでの開催となった。
- ・ 大阪大学附属図書館と大阪教育大学附属図書館の 3 館で人事交流を実施した（係員 1 名、令和 2～3 年度の 2 年間）。令和 4 年度は、大阪大学附属図書館と 2 館で人事交流の予定である。
- ・ 令和 2 年度から、国立情報学研究所に定員 1 名を出向（3 年間）させている。
- ・ 退職者 1 名の補充として、令和 4 年 4 月に定員 1 名を採用予定である。
- ・ 図書館では、事務系職員の「職員調書」とは別に図書系職員の「意向調書」を実施している。本年

度も職員のキャリア形成に係わる目標や希望に加えて、業務内容やスキルの分析、業務目標の達成度評価等を盛り込み、よりの確な聴取に努め、その結果を研修計画等に反映した。

- ・ 放送大学を利用した新任係長相当職研修に 2 名、自己啓発研修にのべ 2 名が受講した。
- ・ 例年開催される多くの研修は Web での開催となり、大学図書館職員長期研修も 1 名 Web にて受講した。他機関・他団体等の主催する各種研修、主題専門知識の研修等も Web にて多数開催され、職員が参加し、スキルアップに努めた。本年度参加の主な研修は次のとおりである。

※参加者：「専門職員」→「係長」、「事務員」→「係員」に統一表記

区分	研修名	主催	日程	参加者
若手職員向けの基礎研修	図書館等職員著作権実務講習会	文化庁	12/9-10(京都)	係員 1
	図書館等職員著作権実務講習会 (オンデマンド配信)	文化庁	12/13-27	係員 1 補佐員 2
	大学図書館職員短期研修	京都大学	10/26-29	係員 1
	大学図書館近畿イニシアティブ初級研修	近畿イニシア	12/1	係員 2
中堅職員向けの研修	大学図書館職員長期研修 (Web 開催)	筑波大学	7/5-16	係長 1
管理職向けの研修	大学経営人材育成セミナー	神戸大学	11/1,8,15,29	課長 1
	幹部職員セミナー「教職学協働による香川大学の DX 推進」	神戸大学	2/17	部長 1 課長 1
個別業務の専門的知識のための研修	漢籍整理長期研修 (Web 開催)	東京大学	6/7-11, 9/6-10	係員 1
	日本古典籍講習会 (Web 開催)	国文学研究資料館	7/6-8	係員 3 補佐員 1
	目録システム書誌作成研修 (Web 開催)	国立情報学研究所	9/7,14,11/19	係長 1
	第一種衛生管理者試験受験準備講習会	神戸大学	9/28-30	係員 1
	神戸大学事務職員国際業務研修 (Web 開催)	神戸大学	9/28-11/30	係員 1 補佐員 1
	漢籍担当職員講習会	京都大学	10/4-8(初級) 11/8-12(中級)	係員 1
	第 1-4,6 回学術コミュニケーションセミナー (月刊 JPCOAR) (Web 開催)	JPCOAR	10/19,11/17, 12/7,1/25,3/22	のべ 係長 2 係員 4
	近畿地区国立大学法人等会計事務研修	京都大学	10/27-29	係員 1
	西洋社会科学古典資料セミナー (Web 開催)	一橋大学	10/27	係員 2 補佐員 2
	第 23 回図書館総合展 (Web 開催)	図書館総合展 運営委員会	11/1-30	係長 2 係員 6 補佐員 1
	NDL レファレンスサービス研修 科学技術情報 (Web 開催)	国立国会図書館	11/26	係長 1 係員 2

	公文書管理研修 II (Web 開催)	国立公文書館	12/7-8 部分受 講	室長補佐 1
1 日以内の講 演会・研修会 等	<ul style="list-style-type: none"> ・ Japan Open Science Summit (JOSS2021) ・ (Ovid web セミナー) Ovid 活用編: システムティックレビュー検索構築 ・ 第 5 回 JMLA コア研修 ・ JUSTICE 電子資料契約実務研修会 ・ (富士通図書館分科会)「大学図書館における DX」 ・ (日本古典籍研究国際コンソーシアム) くずし字翻刻システムを使った古文献解読錬成講座 ・ (神戸大) 広報業務研修会 ・ (文部科学省) 大学における研究データポリシーの策定 ・ メタデータ☆トワイライト ・ (神戸大) 第 11 回環境保全推進センター全学報告会 ・ (神戸大) 多様な働き方推進研修「時短勤務者研修」 ・ 第 5 回 JMLA 学術集会 ・ 国立大学図書館協会近畿地区助成事業「デジタル教科書による授業運営の現状と課題」 ・ メディカルオンライン新機能説明会 ・ 国際図書館協カセミナー「ヨーロッパの大学図書館の研究支援・学修支援の最先端にふれる」 ・ EBSCO オンラインセミナー「Usage Consolidation について」 ・ (JMLA) 診療ガイドライン文献検索ワークショップ ・ (神戸大) 情報セキュリティに係る研修 ・ 国大図協北海道地区協会「魅せるオンライン教材 デジタル時代のリテラシー教育」 ・ 京都大学図書館機構講演会「オープンデータとしての学術論文」 ・ (JMLA) 関東地区会研修会「PICO で検索」 	NII、Ovid、日本医学図書館協会、JUSTICE、富士通、立命館大学、科学技術・学術政策研究所、メタデータ☆ナイト実行委員会、神戸大学、大阪教育大、株式会社メテオ、私立大学図書館協会、東京学芸大学、EBSCO、JMLA、北海道大学、京都大学、国文学研究資料古典席共同資料センター、医学中央雑誌	各半日～1 日	管理職を含め のべ 50

	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸大学ダイバーシティフォーラム「男性の育児休業から考えるワーク・ライフ・バランス」 ・第11回被災地図書館情報交換会 ・医中誌バージョンアップ ミニ質問会 			
--	---	--	--	--

<業務の改善と効率化・合理化>

① 業務の標準化・合理化

- ・ 係横断的なワーキンググループ（以下 WG）を組織し、業務の合理化及び質的向上を図った。本年度は、総合図書館資料選定委員会（選書 WG）・情報リテラシー教育支援 WG・アウトリーチ WG・業務改善 WG・展示 WG・次期図書館システム検討 WG・オープンアクセス推進 WG・図書館リニューアル WG（自然科学系図書館・海事科学分館）が活動した。また、令和4年9月のシステム更新にあたり、デジタルアーカイブのデータのシステムへの移行作業を進めるために、電子データ整備 WG を新たに設置した。

② アウトソーシング

- ・ 図書装備付納品、電子化コンテンツの作成業務、資産点検業務のアウトソーシングを実施した。社会科学系図書館・医学分館・保健科学図書室の時間外開館業務と自然科学系図書館の土・日開館業務については、新型コロナウイルス感染拡大防止措置のため、社会科学系図書館と医学分館（7月1日以降、平日の時間外開館のみ）のみ実施し、それ以外の館の外部委託は不要となった。
- ・ 予算配分の減額に対応するため、時間外開館のアウトソーシングは令和3年度で終了した。

③ 業務改善の検討

- ・ 昨年度に続き附属図書館内での事業として、業務改善 WG を中心に図書館事務部全体で取り組んだ。前年度から継続事項 17 件は 10 件完了で 7 件継続、本年度の提案事項 28 件は 23 件完了で 5 件継続となった。図書館全体に関わる成果として、図書館主催ガイダンスの外部講師によるものも含めたオンライン開催、学外図書館の訪問利用申請におけるウェブフォームの導入が挙げられる。また大学全体で課題となった、押印を要する手続きの洗い出しと押印廃止に向けた検討について対応し、書類への押印は可能な限り廃止し、書類の様式の変更を実施した。

◆評価と課題

4 月より電子図書館係と情報システム係が電子情報グループとなり、あらたに同グループに震災文庫担当（社会科学系図書館配置）が設置され、担当ごとの業務分担が可能となった。課題となっていたオープンアクセス等研究支援の強化、震災文庫や古典籍資料等の電子化の推進、図書館業務システムのリプレイスに向けた対応について、グループとしての体制が整い、業務を効率的に行うことができている。

本年度も新型コロナウイルス感染症の影響で対面での研修はほとんど実施されなかったが、Web 形式での研修が多数開催され、場所・時間の制約なく参加できるという利点から、職員は積極的に学外の各種図書館関連研修、専門主題に関わる研修を受講し、個々のスキルアップに努めることができた。研修の報告は全職員にメール送付することで成果を共有し、他の職員の能力開発にも役立てている。

ワーキンググループについては、具体的な業務目的を負ったものに絞って設置し、いずれも活発に活動し成果をあげている。特に次期図書館システム検討 WG と図書館リニューアル WG（自然科学系図書館・海事科学分館）については、実施が目前となり本格的に活動した。

アウトソーシングによる効率化については、時間外開館及び土・日開館業務の外部委託を、昨年度に続き新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴い縮小した。なお次年度については、予算の縮減と委託

経費の上昇により外部委託は維持困難と判断し、開館時間・開館日を見直したうえで、学生アルバイトと非常勤職員（パート）による実施に変更することになっている。業務改善については、継続検討となった課題に新規事項も加え、引き続き取り組んでいく。

（３）予算及び財務会計業務

＜本年度附属図書館予算・決算＞

① 既定経費（経常運営費・経常事業費）等

- ・経常運営費は当初予算配分 141,310 千円、途中追加配分により 27 千円を加えた結果、最終配分総額 141,337 千円、決算額 137,782 千円であった。前年度の当初予算配分 143,268 千円、決算額 143,426 千円と比較して、いずれも減額となった（当初予算額 R2 予算比 1,958 千円 1.4%減、決算額 R2 決算比 5,644 千円 3.9%減）。
- ・経常事業費は当初予算配分 111,573 千円、途中附属図書館長裁量経費を 12,909 千円減額した結果、最終配分総額 98,663 千円、決算額 101,329 千円であった。前年度の当初予算配分 113,550 千円、決算額 111,940 千円と比較して、いずれも減額となった（当初予算額 R2 予算比 1,977 千円 1.7%減、決算額 10,611 千円 9.5%減）。
- ・本年度の学生用資料費は、前年度に続き、運営費交付金の機能強化促進係数（1.6%）の減額を適用せず、当初配分は前年度と同額の 40,000 千円を維持した。決算額 39,913 千円であった。大学文書史料室管理運営経費は前年度から 1.6%減の 6,216 千円とした。
- ・附属図書館長裁量経費から、老朽化した防犯カメラ（総合・国際文化学図書館、人間科学図書館、医学分館、海事科学分館の 4 館）の更新のため、5,094 千円を執行した。
- ・各部局が施設面積に応じて負担している建物老朽化対策経費 4,478 千円（当初予算配分からの差引 4,127 千円と追加負担 351 千円）が差引かれているが、収入確保インセンティブ経費より繰入れ充当している。
- ・以上の既定経費（経常運営費と経常事業費、大学文書史料室運営経費合計）の当初予算配分は 259,099 千円で、前年度の当初予算配分 263,135 千円から 4,036 千円 1.5%の減であった。年度中の複写料収入を含む収入確保インセンティブ経費等からの繰入を加えた、既定経費の予算総額は 250,329 千円、決算総額は 249,101 千円となり、予算残額 1,227 千円は次年度に繰越とした。

② 臨時的経費

- ・教育研究基盤資料整備費として確保した 371,670 千円により、外国雑誌を含む電子ジャーナル・データベースの維持及び整備を実施した。
- ・学内ワークスタディ実施経費（809 千円）により学生補佐員 6 名を雇用し、自然科学系図書館（1 名）と電子図書館担当（5 名）にて、業務の補助に従事させた。
- ・学内予算措置による入退館管理システムの更新（19,360 千円）を、総合・国際文化学図書館、人間科学図書館、海事科学分館の 3 館で実施した。
- ・自然科学系図書館の改修を、本年度と次年度の 2 年で実施する（移転費 42,376 千円、施設整備費 219,881 千円、附帯事務費 33,560 千円）。関連して、増築棟の集密書架新設費（53,350 千円）が学内予算で措置された。
- ・社会科学系図書館管理棟の外壁工事を実施した（環境・安全推進事業経費 781 千円、建物老朽化対策経費 7,944 千円、プロジェクト予算 10,450 千円、学内営繕・エコ対策経費 1,080 千円）。

③ その他の経費

- ・田嶋記念大学図書館振興財団助成金（1,500 千円）により、医学分館にキャレルデスク 6 台と大型本用書架 1 台を購入し、設備整備を実施した。
- ・神戸大学基金（新型コロナウイルス感染症対策緊急募金）から電子ブック拡充経費として 2,400 千円配分され、計 222 件(シラバス掲載図書 216 件、参考図書 6 件)を購入した。
- ・国文学研究資料館の「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク」構築のための経費（356 千円）により、古典籍修復を実施した。画像作成（撮影）については、国文学研究資料館が直接外注業者と契約（7,583 千円）したため経費に含めていない。
- ・電子図書館事業である新聞記事文庫デジタル化について、「科学研究費補助金（研究成果公開促進費）」は不採択となった。

④ 新型コロナウイルス感染拡大防止措置による影響はじめ特記事項

- ・光熱水料（約 4,000 千円）、時間外開館経費（約 23,000 千円）等の執行残が発生した。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により学生アルバイトによる時間外開館ができなかったため、その経費で院生を雇用し、新聞記事文庫の作業を実施した。
- ・研修・会議等が Web に移行した事により、各館室のパソコン機器等の整備として、備品・消耗品費より約 2,800 千円を執行した。
- ・学生用資料費（重点配分）として、3 館に計 1,500 千円を配分し、電子ブック（総合・国際文化学図書館 42 件、自然科学図書館 75 件）とシラバス掲載図書（海事科学分館 45 件）を購入した。
- ・収入確保インセンティブ経費に計上している ILL 等収入については、前年度はコロナ前の令和元年度と比較して約 1,700 千円（約 34%）も減少したが、本年度は令和元年度と比較して約 350 千円（約 7%）の減少にとどまり、コロナ前への回復傾向が見られた。

⑤ 学内貸付・預り制度の利用

- ・図書館内設置の目録検索用端末を更新するため、平成 30 年度に研究科長等運用経費として借入れた 2,000 千円の返済のため、400 千円を充てた（5 年返済の 3 年目）。

（単位：千円）

		H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	合計
目録検索用端末更新経費	貸付制度	2,000						2,000
	返還		400	400	400	400	400	2,000

- ・自然科学系図書館改修に備え、学内預り金制度を利用した。前年度は 7,000 千円を預り金とし、その預り金から本年度に 5,000 千円を配分した。本年度は、18,000 千円を預り金とし、次年度は、20,000 千円を配分予定とした。

（単位：千円）

		H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	合計
自然科学系図書館改修関連経費	預り制度			7,000	18,000			25,000
	返還				5,000	20,000		25,000

※令和 3 年度附属図書館予算及び決算を巻末に添付する。

<図書資産の管理>

① 図書資産点検

- ・本年度の資産点検は、総合・国際文化学図書館と海事科学分館で実施し、点検総冊数は 310,975 冊であり、アウトソーシングの契約により実施した。海事科学分館書庫の点検は、第 4 期中期目標・中期計画期間中に実施予定としていたが、予定を繰り上げて実施した。

② 不明資料の追跡調査

- ・平成 30～令和 2 年度資産点検時から不明となっている資料について、追跡調査を実施した。
(資産点検時不明資料 2,482 点、追跡調査による発見資料 2,282 点、追跡調査後不明資料 200 点)

③ 不用決定

- ・不明後 3 年以上経過している資料（平成 29 年度資産点検時からの不明資料）を不用決定した。
(748 点、資産価格 2,879,769 円)
- ・重複資料やオンラインで利用可能となった資料等を不用決定した。(18,585 点、資産価格 75,393,990 円)

◆評価と課題

本年度の当初予算配分額は、令和 2 年度から 4,036 千円減額の 259,099 千円としていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、光熱水料や時間外開館経費が減少した。その予算残により、各館室での Web 会議対応のためのパソコン機器の整備や、老朽化した防犯カメラを更新することができた。また自然科学系図書館の改修について、移転費や施設整備費や集密書架新設等の経費が予算措置され、準備や移転作業を実施できた。

令和 4 年度も引き続き自然科学系図書館の改修を実施する。設備整備費に係る学内予算要求が、内容を精査・見直したうえで約 20,000 千円採択され、預り金制度の活用で確保した 20,000 千円等も含め、予算内で実施することが課題である。また時間外開館の実施においては、既定経費の減少により、令和 4 年度は令和元年度以前の実施規模の維持が困難となったため、時間単価の高い業務委託の学生アルバイトへの変更も含め大幅に見直すとともに、学内予算要求により 6,533 千円の予算措置を受けて、可能な限り規模を維持することとした。なお、令和 4 年度を迎えるにあたって、電気料金の大幅な上昇が予想され、学生用資料費（40,000 千円）のうち 50%の配分を保留することで当面对応し、加えて冷暖房運転の見直し等、経費節減につとめることとした。ネーミングライツをはじめ外部資金の獲得にも注力しつつ、限られた規模の予算を適切に執行していく必要がある。

(4) 施設整備・システム整備

<各館室の施設整備・設備更新>

- ・本年度における主な事項は、以下のとおりである。

総合・国際文化学図書館	防犯カメラ更新、書庫除湿機 3 台更新、貴重書調湿キャビネット 2 台更新、掲示板新設、書庫 1 階の非常口扉のカギ取替
社会科学系図書館	管理棟外壁改修工事实施(次年度も継続)、書庫暗幕設置(A 棟 3-6 階、B 棟 3-6 階)、小閲覧室キャレルの故障した LED 照明 12 台更新、フロンティア館開架図書室西側非常口扉の電子錠取替
自然科学系図書館	冷蔵庫 2 台更新、ポータブル電源 2 台購入(いずれも改修後に使用)

人間科学図書館	防犯カメラ更新、新書庫スピーカー増設、サインスタンド設置
医学分館	防犯カメラ更新、ブラインド更新、1階・地階網戸設置、田嶋記念大学図書館振興財団助成金によるキャレルデスク6台と大型本用書架1台設置
保健科学図書室	照明設置、ミーティングテーブル・デスクパーテーション新設
海事科学分館	防犯カメラ更新、トイレ照明更新、集密書庫人感センサー式照明に更新

<安全点検>

- ・ 附属図書館安全衛生会議を、構成単位である社会科学系図書館と自然科学系図書館と大学文書史料室の3館室のみならず、附属図書館全体の安全衛生事項の周知・報告の場として運用しており、本年度はメール回議にて4回開催した。
- ・ 安全衛生活動計画を策定し、週1回の衛生管理者による巡視を実施した。また、年1回図書館独自の自衛消防・防災訓練の実施を計画し、全館室で実施した。
- ・ 火元責任者による防火防災の自主点検を実施した。

<情報機器の更新>

- ・ 利用者用PC等の設置台数は次のとおりである。
- ・ 自然科学系図書館については改修工事に伴い12月より全機器を一時撤去
- ・ 無線LANAPについて、BYODに係る無線AP増設第3期（令和2～3年度）に伴い増設があった
- * 情報コンセントは、キャンパス情報ネットワークシステム（KHAN2017）の更新に伴い、一部の館での提供としている。

	総・国	社会	自然	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
PC台数	45	43	38	25	20	1	22	13	16	224
教育用端末(*1)	(37)	(28)	(33)	(16)	(13)	(0)	(17)	(10)	(13)	(134)
蔵書検索用端末等(*2)	(8)	(13)	(5)	(5)	(6)	(0)	(5)	(3)	(2)	(42)
スタンドアロン	(0)	(2)	(0)	(4)	(1)	(0)	(0)	(0)	(1)	(8)
貸出用PC	10	0	0	0	0	0	0	0	0	10
タブレット(ipad)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
ノート	(10)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(10)
情報コンセント	0	0	0	0	7	0	0	0	0	7
無線LANAP(*3)	6	8	6	3	2	0	4	5	3	31

注) (*1) 情報基盤センター教育研究用計算機システムの教育用端末

(*2) 「図書館向けデジタル化資料送信サービス」「歴史的音源(れきおん)配信サービス」に対応する端末を含む

(*3) 附属図書館内に情報基盤センターが設置

<システム整備>

- ・ 平成28年9月に更新した図書館システムについては、機能向上や問題点への対応を随時行った。
- ・ 令和4年9月にリプレースを予定している図書館システムについて、入札によりベンダーを決定した(日本電気株式会社)。

<自動貸出装置等>

- ・ 自動貸出装置等の設置場所は次のとおりである。

自動貸出装置	全館室(研究所を除く)
入退館管理システム	全館室(研究所を除く)
BDS(無断持出防止装置)	全館室(研究所を除く)
24時間入退館管理システム	医学分館
セルフ式コピー機(コイン式等)	全館室

◆評価と課題

社会科学系図書館管理棟の外壁について、タイルが剥落する危険性があるため、建物老朽化対策経費等により改修工事を実施中、次年度に完成予定。

附属図書館長裁量経費により、老朽化した防犯カメラを総合・国際文化学図書館、人間科学図書館、医学分館、海事科学分館の4館で更新することができた。

空調機については、夏季の高温多湿に機器の老朽化も相まって、常に故障の懸念があり、更新の必要性は高い。厳しい予算状況が続く中、限られた範囲で適切に対応するとともに、施設部や大学執行部等に予算措置の必要性を引き続きアピールしていく必要がある。特に医学分館と海事科学分館の空調については学内営繕費の予算要求をしている。

学修支援機能の強化を目的としたLC設置と、資料収容力強化を目的とした増床のための自然科学系図書館の施設改修を本年度と次年度の2年間で実施する。次年度も引き続きこの実施が図書館での大きな課題となる。

海事科学分館建物の今後については、令和3年度に新しい深江キャンパスマスタープランが策定され、2号館(南棟)改修が令和3年度補正予算の概算要求で措置された。今後順次進めていく模様である。海事科学分館の改修時期は未定であるが、前年度後半に海事科学研究科の副研究科長と面談を行い、海事科学分館改修の位置づけと、図書館からの主張等について意見交換を実施した。引き続き海事科学研究科・施設部と連絡を密にして対応していく。特に、再開発により深江キャンパス全体では必要面積を減らす方針とのことだが、図書館の現状の保有面積は必要面積の73%しかなく、また書庫面積は必須であるため、慎重に判断する必要がある。

医学分館においては、田嶋記念大学図書館振興財団助成金により、キャレルデスク6台と大型本用書架1台を購入し、設備整備を実施した。自習場所の増設については、過去に医学科教務学生委員会から要望があったが、研究科と連携する際には、神緑会館(福利厚生施設)が次年度はじめに竣工することも考慮する必要がある。

なお、各館室改修等の進め方については、『神戸大学附属図書館今後10年の運営方針について』において、その指針を示している。

システムについては、学内予算措置により、入退館管理システムの更新を、総合・国際文化学図書館、人間科学図書館、海事科学分館の3館で実施することができた。令和4年9月に予定される図書館システムのリプレイスにつき、入札を経てベンダーが決定した(日本電気株式会社)。サーバ機器類のクラウドホスティングサービス利用、デジタルアーカイブ機能の標準化、施設予約機能の実装による非対面サービスの充実などが現行システムからの大きな変更点である。引き続き各所と連絡を取り合い、スムーズなサービスインを目指す必要がある。

(5) 図書館界での諸活動

<国立大学図書館協会>

- ・ 本年度6月まで総務委員会の委員及び次期ビジョン策定小委員会の委員長、学術資料整備委員会の委員を務めた(事務部長)。
- ・ 令和3年度国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業の実施担当となり、研修会「研究データポリシーの策定に向けて」を開催した。(11月29日、実施形式:Zoomによるオンライン形式)全国の国公立大学図書館から73機関139名の参加申込みがあり、当日の最大接続数は129であった。

<オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)>

- ・ 係員1名がコンテンツ流通促進作業部会会員を務めた。

<国立情報学研究所、JUSTICE>

- ・ 係長1名が学術認証運営委員会 図書館系サービス作業部会委員を務めた。(平成27年度から継続)

<国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター拠点連携委員会>

- ・ 係長1名が拠点連携委員会委員を務めた。(平成31年度から継続)

<兵庫県大学図書館協議会>

- ・ 引き続き、会長館、事務局として協議会の運営にあたった。
- ・ 7月28日に第120回総会をZoomによるオンライン形式にて開催し、26機関34名が参加した。令和3年度の活動成果として、新型コロナウイルス感染症対策の具体的な取り組みについて、事例報告を行った。
- ・ 今後の事業及び会費について、1月13~31日の期間で加盟館に意見照会及びアンケート調査を行った。
- ・ 研修事業においては、新型コロナウイルス感染症により実施しないこととなった。
- ・ 例年県内の大学図書館にとどまらず、公共図書館や大学図書館近畿イニシアティブ加盟館とも連携強化を図っているが、本年度も活動そのものが制限され連携することが難しかった。

<研修等への講師・発表者の派遣>

- ・ 国立情報学研究所等が開催する研修や講習会には、毎年講師・担当者等を派遣しているが、本年度の派遣はなかった。

<その他>

- ・ 近畿地区国立大学等職員採用図書系専門試験実施委員会の委員を務めた。
- ・ 大学図書館近畿イニシアティブ運営委員会の委員を務めた。
- ・ 大学図書館近畿イニシアティブ能力開発専門委員会の委員を務め、初任者研修の担当者として携わった(情報サービス課課長補佐)。
- ・ オンライン読書ルームを開催している東京学芸大学、はこだて未来大学、徳島大学、神戸大学の4大学で担当者の交流会がWebにて開催され、神戸大学から係員2名が出席した。
- ・ 海外における研究データ管理(RDM)支援実践事例の日本語化事業(京都大学附属図書館事業)に近畿地区国立大学からの協力館として1名参加した。

◆評価と課題

国立大学図書館協会や兵庫県大学図書館協議会の活動において、本年度も Web 等での活動をとおして会員間の連携と協力を図ることに努め、それぞれの図書館機能の向上を支援するとともに、学術情報資源の共同整備と相互利用を促進している。

他機関が開催する研修事業に講師や担当者等を積極的に派遣することは、図書館諸団体の活動・運営に寄与するのみならず、参加する職員の資質向上につながるものであり、大いに評価できる。今後も推進が期待される。

令和3年度 神戸大学附属図書館年次報告

<付録>

神戸大学附属図書館今後10年の運営方針について	付録1
達成度評価（第3期中期目標・中期計画・年度計画管理表より）	付録2
第3期数値結果実績	付録3
達成度評価の根拠資料	付録4
附属図書館開催イベント・セミナー等のアンケート結果 附属図書館に関する自己点検・評価結果、 及びそれを踏まえた対応措置	付録5
基本統計表	
蔵書・受入等の現況（各館室別）	付録6
サービス業務の現況（各館室別）	付録7
電子的情報サービスの現況	付録8
図書館組織図・事務組織図	付録9
附属図書館諸会議（議題一覧、委員名簿）	付録10
附属図書館予算・決算表（運営経費、資料費）	付録11
附属図書館活動日誌	付録12

神戸大学附属図書館今後10年の運営方針について
(平成29年11月8日～令和9年3月31日)

趣旨

神戸大学附属図書館は、神戸大学の使命に基づき、世界トップクラスの教育・研究活動を将来にわたって支える学術情報基盤としての役割を担うとともに、人類の知の発展を導く卓越した研究成果を世界に発信する拠点となることを理念として掲げ、学内外にサービスを提供してきた。しかし、法人化後3度目の中期目標期間を迎えて、大学をとりまく環境は大きく変容し、大学図書館の果たすべき役割も、大学の基本機能としての従来在り方に加えて、教育・研究支援組織としての新たな方向性が求められている。本方針は、今後10年を視野に置き、図書館機能の強化と革新のために用いるものとして定める。

1. 知を創出する「場」の提供

(1-1) アクティブラーニング等新しい学習スタイルに対応した環境の整備

神戸大学ラーニングコモンズ(LC)検討ワーキンググループ報告書の構想に基づき、附属図書館のうち4館に基幹となるLCが整備された。LC未設置の館室においても、改修に合わせてLCのスペースを確保し、双方向型授業やアクティブラーニングなどの課題解決型の能動的学習の推進を支援する。また、PC必携化等の学生のICT環境の変化に対しても多様な利用形態に対応した学習空間を整備する。

(1-2) 分野を超えた研究をつなぐ場としての環境整備

本学が掲げる文理融合の研究を強力に推進するため、自然科学系図書館に大学院生レベルの研究ディスカッション、プレゼンテーションの練習、サイエンスカフェ等が行えるスペースを確保し、部局を越えた融合研究を醸成する場として展開する。

(1-3) 各館室の改修

前2項を達成することを主眼とし、(2-4)に掲げる蔵書の分担収蔵も考慮しながら、未改修の医学分館、海事科学分館の改修計画を各キャンパス関係部局及び財務部・施設部等と調整・立案し、実現に向けた予算要求を実施する。

2. 蔵書ならびに知識や情報の共有

(2-1) 電子ジャーナルをはじめとする研究基盤としての資料整備

先端研究と文理融合を掲げる本学にとって研究基盤の充実は不可欠である。大手出版社の電子ジャーナルパッケージやデータベースは、価格の上昇や為替変動、消費税の影響を受けながら契約規模を維持してきた。現在は教育研究基盤資料整備費として全学予算の中に

組み入れられており、多くの利用実績がある。今後、限られた予算の中で最大限の研究基盤を、全学的な合意を得ながら整備していく。

(2-2) 学習の基礎となる学生用図書整備

附属図書館は法人化以降、学生用図書費の確保を最重点事項として、資料整備に努めてきた。平成25年度からは、教員と連携してシラバス型パスファインダー（授業に関連する参考文献リスト）「KULiP」を作成し、掲載図書を複数冊備えたコーナー設置を開始した。今後も協力教員を拡大し、授業で指定される参考文献・必読図書を網羅的に収集し、利用に供するとともに、多数の同時アクセスが可能で学外からも利用でき、大規模授業への教材提供に適した電子書籍を積極的に導入し、自学自習に必要な学生用図書の整備をさらに進める。

(2-3) 国際化に対応した資料整備、サービスの提供

グローバル人材育成事業から配分を受けて整備した英語多読テキスト、各言語の検定試験問題集等の語学資料や留学関係資料を引き続き充実させ、本学の学生の国際性を一層涵養する。また世界から参集した優秀な留学生・研究者に対して、資料整備に加えて外国語によるレファレンス等の多文化・多言語サービスを提供し、学習・研究活動をサポートする。

(2-4) 全館室の効率的な資料収集と、蔵書の分担収蔵

9館室で構成される附属図書館は、従来より総合・国際文化学図書館を学部1・2回生向け、及び複合分野・基礎的資料の重点館とし、他の館室はそれぞれ学部3回生以上を対象に専門的な資料を収集する方針としている。各館室間で資料を流通させる図書館デリバリーサービスを利用することにより、館室間での資料重複購入を最小限とする。また、すでに所蔵している重複資料については可能な限り処分するとともに、利用頻度の低い資料や製本雑誌の管理については、共同利用書庫としての手動式集密書架を要求し、スペースの有効活用を図る。

(2-5) 大学固有の学術情報資源、教育研究成果のオープン化の推進

社会への説明責任及び大学のブランディングの観点から、神戸大学の所有する学術情報資源や教育研究成果のオープン化を推進し、長期的な保存をはかる。「神戸大学オープンアクセス方針」（平成29年1月学長裁定）に基づき、本学教員著作の学術論文をリポジトリに登録する業務を図書館が積極的に担い、さらにエビデンスとしての研究データの登録が可能なように、一部の部局や情報基盤センターと連携してシステム・サーバ構築の最適化を図る。

3. 人材の育成と参画

(3-1) 教員・学生・一般利用者など多様な人材の参画

図書館の活動は多様化しており、これまでも教員の協力を得て展示会やライティングセミナーなどを開催したり、学生の提案を広報活動に生かしたりしてきた。今後は図書館に関わる様々なステークホルダーに積極的に働きかけ、教員、職員、学生、一般利用者等と緊密に連携しながら、それぞれのスキルや知識を活かしつつ、新たな知の共有と創出を促す。

(3-2) 新たな人材の確保と職員の資質向上

各館室のサービスと蔵書構築に必要な専門的知識の習得など、職員の資質向上のための研修を行う一方、オープンデータの推進に関わるなど新たな人材の確保や育成を目指す。また、学術情報流通の変化に伴い、海外の動向を踏まえた新たな知識やスキルの習得が求められているため、職員を国際会議に参加させたり海外事例の調査研究に継続して派遣したりするなど、組織として育成の環境を整える。

4. 財政的な課題ほか

(4-1) 各館室維持費の確保

全館室総計で2万㎡を超える面積を保有・運用している。利用対象者は学生・教職員合わせて2万人を超え、年間300日以上開館するための光熱水費、備品・設備・建物の維持・更新には一定の金額が必要である。附属図書館は外部資金等による補填が期待できないため、維持経費を安定的に確保することが重要である。

(4-2) 外国雑誌センター・電子図書館事業について

外国雑誌センターは一橋大学とともに人文・社会科学分野における外国雑誌の収集拠点として設置されている。また、電子図書館事業も全国15大学に配分され、本学の電子図書館は震災文庫・新聞記事文庫をはじめとしたコンテンツが外部から高い評価を受けている。もともと法人化前に措置されていた予算が運営費交付金に組み入れられており、これらの事業は今後とも堅実に運用していく責任がある。

(4-3) 大学文書史料室及び大学出版会について（附属図書館が事務を担当する部署）

附属図書館は従来からの図書館業務以外に、大学文書史料室（平成22年度）、大学出版会（平成29年度）の事務を担当している。それぞれに予算や人員、設備等の課題があるが、関連する部局等と連携しながら安定的な運用と発展をめざす。

（平成29年11月8日 附属図書館運営委員会承認）

（令和2年7月6日 附属図書館運営委員会改訂）

（令和3年7月6日 附属図書館運営委員会改訂）

1. 達成度評価

(第3期中期目標・中期計画・年度計画管理表より抜粋)

全学中期目標/中期計画/年度計画 (附属図書館担当部分のみ抜粋)	自己評価	中期計画のアウトプット/アウトカム
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>1. 教育に関する目標</p> <p>(3) 学生への支援に関する目標</p> <p>○世界的教育研究拠点としてふさわしい、質の高い教育を実施するための体制を強化する。</p> <p>中期計画</p> <p>3-2: グローバル化やアクティブラーニングの推進など学部・大学院教育における機能強化を実施するため、関係部局・組織が連携した学修支援体制を整備し、ラーニングコモンズやICT教育基盤等の学修の場や設備の拡充、学修に必要な資料の体系的整備、及び学修に関する人的支援の拡充を進める。</p> <p>年度計画</p> <p>・【3-2-1】 電子的資料を含む学修に必要な図書館資料を、学問分野や図書館・室の特性、またウィズコロナの状況を考慮して整備を継続する。 情報リテラシー習得のための「情報基礎」や「初年次セミナー」の授業やガイダンスを、ウィズコロナの状況を鑑み可能な形態で実施する。</p>	IV	<p>【アウトプット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生用資料費として当初配分が40,000千円を確保し、各館室の学生用資料やシラバス掲載資料等の整備を実施。加えて総合・自然・海事の3館に計1,500千円を重点配分、うち自然に配分した1,000千円で電子ブックを75件購入。E-Study事業費は別枠として4,664千円確保。、ジャパンレτζはニーズも勘案して予算措置の上7月より同時アクセス数無制限とした。 ・新型コロナウイルス感染症への対応を契機とした、オンラインによる資料提供促進のための電子ブックの充実が大学執行部から認められ、神戸大学基金新型コロナウイルス感染症対策緊急募金(学生)から電子ブック拡充経費として2,400千円配分され、計222件(シラバス掲載図書216件、参考図書6件)を購入した。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴い、また大学の活動制限指針の変化に応じて、開館時間の短縮や土日開館の中止、閲覧席数制限、滞在時間制限を実施。 ・新型コロナウイルス感染症への対応の一環で、来館利用ができない学生のためのサービスとして、全国でもいち早く導入したチャットによる利用者相談受付は2年目となり、当初は大半が開館時間等基本的な質問だったが、今年度は専門的な利用方法や文献調査方法の問い合わせも含まれるようになり、有効なサービスとして定着したと見なされる(R3年度、3月末時点で延べ208件)。 ・全学共通科目「情報基礎」(1年次必修)の1コマ(90分)を、附属図書館各館室の職員で構成する「情報リテラシー教育支援ワーキンググループ」のメンバー12名が担当、昨年度と同様オンデマンド型遠隔授業で実施。(前期後期計23回、2,650名受講)。 ・初年次セミナーにおける図書館ツアー・ガイダンスを、7学部に対し対面18回、オンデマンド8回、オンライン(Zoom)4回の計30回実施、1,071名受講。 ・昨年度に続き、学生の読書支援のため、またオンラインで学生が参加できるイベントとして、「オンライン読書室」(Web会議で読書時間を共有して知的交流をはかる)を開催(9/6~10、延べ11名参加)、同時に今回新たに「あなたの本探します」リクエストを募集(6名より8件受付あり)。 ・学生の多様なニーズを直接選書に反映させる学生選書ツアーは、昨年度に続き、オンラインで電子ブックを試読・選定してもらう電子ブックリクエストキャンペーンとして10/1~11/30で実施、80名参加、112件(805,633円分)購入。 ・教員と連携して、国際コミュニケーションセンター学術交流研究部門主催で、総合・国際文化学図書館にて昼休みトークイベントを、「外国語授業のその先に」をテーマに全4回、今年度はZoomによる配信を併用して10/18~21に開催(Zoom接続と現地参加者合計132名)。 ・昨年度措置した大学機能強化支援資料費を中心に購入したSDGs推進室とV.Schoolの推薦図書(それぞれ10冊と20冊の合計30冊、通常は総合・国際文化学図書館に所蔵)を、10月より他の6館で巡回配架中(R4年5月まで)。 ・シラバス型パスファインダー「KULiP」は今年度54件作成(累計91件)し、またセルフラーニング資料を累計32件登録。 ・LC設置を含む自然科学系図書館改修工事の予算が採択され、改修実施中。 ・田嶋記念大学図書館振興財団の令和2年度助成金(150万円)を獲得し、医学分館の学修環境向上のためキャレドスク6台新設を含む2階閲覧室の整備を実施した。 <p>【アウトカム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子ブックコレクションのMaruzen eBook Library、2021年利用回数23,679で、前年の9,653より2.45倍。 ・全学共通科目「情報基礎」、学生アンケートでは、昨年度と同様に肯定的な評価を得ている。 ・初年次セミナーにおける図書館ツアー・ガイダンス、実施担当教員へのアンケート(回答20名)にて全員から肯定的評価を得た。 ・オンライン読書室、アンケート回答者5名のうち8割から高評価を得た。 ・オンラインによる電子ブック選書、アンケート回答者20名のうち8割16名が満足と回答。 ・昼休みトークイベント、参加者より好評を得た(アンケート回答者73名のうちほぼ全員72名から肯定的評価)。
<p>全学中期目標/中期計画/年度計画 (附属図書館担当部分のみ抜粋)</p> <p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>2. 研究に関する目標</p> <p>(2) 研究実施体制等に関する目標</p> <p>○研究戦略・計画の企画立案機能強化するとともに、先端研究・文理融合研究の実施、育成及び支援の体制を充実させ、優秀な研究人材が集積する教育研究拠点としての地位を確立する。</p> <p>中期計画</p> <p>8-4: 分野融合・新領域創出等のグローバルな研究の実施を支援するため、電子ジャーナル等の学術情報の利用環境の維持と利用向上を促進するとともに、オープンアクセス等の学術情報流通の潮流を踏まえ、多様な研究成果をデジタル形態で保存し、国際的に発信する体制を強化する。</p> <p>年度計画</p> <p>・【8-4-1】 附属図書館において外国雑誌を含む電子ジャーナル及びデータベース等の教育研究基盤資料の安定的な維持・提供に努めるとともに、神戸大学オープンアクセス方針について、ウィズコロナの状況を鑑み、オンラインやリモートを中心に周知を行うなど、「神戸大学学術成果リポジトリ」への雑誌論文や学位論文、教材や研究データ等多様なコンテンツの登録を推進することにより、研究支援機能及び情報発信機能を向上させる。</p>	III	<p>【アウトプット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子ジャーナルなどの全学共同利用する教育研究基盤資料を計画的・安定的に提供するため、R4年度整備費の確保を実施した。 ・「学術成果リポジトリ」のコンテンツ収集に努め、その公開を推進した。(登録総数:4,466件(R4、3月末現在))。 ・リポジトリニュース「Kernel通信」を8月と3月に発行。 ・博士論文ウェブ公表に関する説明資料を、博士課程入学時ガイダンス・オリエンテーション(4月と10月)での配布・周知用に、各研究科へ送付。10月用には英語版も作成して送付。 ・オープンアクセス推進WGの成果として、KUID 登録論文3,173件の著作権調査を実施し、公開可能なものうち前年度以前の調査分も含め186件について登録依頼(R4、3月末現在)。また国内外の先進事例について知見を深めるため、メンバーが関連セミナーに参加した(3回各1名)。 ・研究データ管理と研究データポリシーに関する先進事例について知見を深めるため、研修会「研究データポリシーの策定に向けて」を国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業として、11/29にZoom配信により開催した(Zoom最大接続人数129名)。 ・収蔵スペースの有効活用を図るため、重複図書・雑誌等の廃棄を実施。(9館で計18,585冊廃棄) ・資産点検における不明図書について毎年追跡調査を行い、不明期間が3年以上経過した資料の不用決定を実施(総合国際、人間、医学、海事)。 ・自然科学系図書館の増床を含む改修が予算採択され、また収蔵能力拡大のための集密書架の設置費用も予算措置され、改修実施中。集密書架(20万冊収容予定)の新設で既存書架を置き換えつつ、19万冊の収容力増加の予定。 ・神戸大学出版会は今年度2冊出版したほか、複数の企画書を受領のうえ出版準備中。 <p>【アウトカム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術成果リポジトリの年間ダウンロード数(R3年度)2,488,851、昨年度の2,050,717より21%増加した。 ・KUID 登録論文の著作権調査を実施し186件を登録依頼した結果、68件を登録できた。 ・研修会「研究データポリシーの策定に向けて」、参加者より好評を得た(アンケート回答者49名の全員から「参考になる」との評価)。

全学中期目標/中期計画/年度計画 (附属図書館担当部分のみ抜粋)	自己評価	中期計画のアウトプット/アウトカム
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>3. 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標</p> <p>○国際都市神戸に立地する拠点大学として、社会と協働した教育研究を実践し、その成果を積極的に社会に還元するとともに、地域社会の諸課題の解決や地域の活性化を担う人材育成を実施する。</p> <p>中期計画</p> <p>10-4: 図書館が所蔵する、阪神・淡路大震災関連資料を網羅的に収集した「震災文庫」、他に現存しない記事を多数含む明治末から戦前の全文データベース「新聞記事文庫」等の特色ある資料を、阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」や国会図書館等と連携しながら、電子的発信を含む多様な手法により公開し、社会及び地域への貢献を実施する。</p> <p>年度計画</p> <p>・【10-4-1】 教育研究成果の社会還元を図るため、「震災文庫」や「新聞記事文庫」等の図書館所蔵資料や学内研究成果のデジタル化を推進し、デジタルアーカイブにおける公開を継続するとともに、ウィズコロナの状況を鑑みつつ、所蔵資料による資料展を開催する。</p>	IV	<p>【アウトプット】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子図書館事業により、「震災文庫」の震災関係資料、「新聞記事文庫」などの経済関係資料及び学内研究成果等のデジタル化を推進し図書館HPで公開。(震災デジタルアーカイブ、メタデータレコード、総数:304,815件(R4、3月末現在)、入力件数:2,427件(R4年度)、新聞記事文庫デジタル化記事件数、356,325件、戦前期電子化完了、公開件数326,956件(R4、3月末現在)) サンテレビジョンと本学が締結した包括連携協定における主要な取組として、サンテレビジョンより提供された阪神・淡路大震災の取材映像(98件、合計80分)を、人文学研究科地域連携センターの協力を受け、震災デジタルアーカイブで公開開始(1/14)。 震災文庫における阪神・淡路大震災関係資料の収集・保存・公開及び、「人と防災未来センター」「兵庫県立図書館」との横断検索システムの構築や国会図書館と連携した東日本大震災アーカイブへのデータ提供等他機関との連携を継続中。(震災文庫資料総数:62,392件(R4、3月末現在)、新規受入資料数:876件(R4年度)) 国際教養教育院の授業(総合教養科目「阪神・淡路大震災A」)の1回目の中で、震災文庫の紹介を実施(オンデマンド対応、45名)。作成動画を震災デジタルアーカイブからも公開。 国文学研究資料館の構築する古典籍データベースに収録公開のための古典籍電子化として、昨年度に電子化した480点を、4月に本学デジタルアーカイブにて画像公開、所蔵資料の電子化公開を推進した。本年度も古典籍472点の電子化を実施予定。 コロナ対応による入館制限のため、展示ホールでの資料展の開催は昨年度同様実施せず、代替として、HP上でのデジタル資料展「村上家文書の世界」を10/15より公開。 一般市民への図書館開放や資料の館外貸出サービスは、コロナ対応に伴う学外者の入館利用停止中のため、昨年度に続きサービス停止中。 <p>【アウトカム】</p> <ul style="list-style-type: none"> 震災文庫HPトップページアクセス数、12,734、うち9,779(約77%)は学外からのアクセス。(R3年度) 新聞記事文庫HPトップページアクセス数、73,734、うち69,708(約95%)は学外からのアクセス(R3年度)。 1/14に公開開始したサンテレビジョンより提供された阪神・淡路大震災の取材映像、サイトに3,064、動画ファイルに2,844(R4、3月末時点)。また国立国会図書館の「カレントアウェアネス・ポータル」にて取り上げられた。 昨年1月に公開したサンテレビジョン制作の映像「阪神・淡路大震災」、サイトに835、動画ファイルに594アクセスあり(R3年度)。 震災映像公開におけるサンテレビジョンとの連携について、国立国会図書館より依頼があり、職員が記事を執筆・寄稿した(「カレントアウェアネス-E」No.418)。 電子化した古典籍、公開データ1,734件のうち572件に、合計5,916件アクセス(R3年度)。 デジタル資料展「村上家文書の世界」、10/15以降、1,368アクセスあり(R4、3月末時点)。
<p>IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標</p> <p>2. 情報公開や情報発信等の推進に関する目標</p> <p>○社会への説明責任及び大学のブランディングの観点から、神戸大学の様々な活動及び成果等を国内外に広く効果的な手段で情報発信する。</p> <p>中期計画</p> <p>26-1: 社会への説明責任の観点から、神戸大学における教育研究活動の状況や自己点検・評価に関する情報等を関係者にわかりやすく伝わる形式で公表するとともに、大学ポर्टレートの活用や大学の歴史的な文書等を一般利用に供するなど、積極的な情報発信を行う。</p> <p>年度計画</p> <p>・【26-1-2】 大学の歴史的な文書等の一般利用の促進を図るため、展示会の開催、所蔵資料のデジタル化、国立公文書館との連携による横断検索目録の充実等を行うとともに、特定歴史公文書等を活用した各種関連事業を行う。</p>	IV	<p>【アウトプット】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度事業計画に基づき、全学から移管された歴史公文書等1,298件の受入れをコロナ禍による1か月延長で4月から7月に行った。一般の利用に供するまでの専門業務を実施し、令和4年3月末から利用を開始した(3年計画分を除く)。 本学法人文書3,663件を対象に全学の文書管理者との移管協議を実施し、次年度の移管対象を決定した。 コロナ禍における利用者の来室不要の遠隔利用を円滑化するため、電子メール等のオンライン・サービスによるレファレンス(114件)、利用請求受付(288件)、写しの交付(89件)に積極的に対応した。 新任教職員に必要な文書管理の基本的な知識技能を習得させるため、新任教職員研修(オンデマンド配信)の講義資料を作成した(受講者54名)。 全教職員を対象に、文書管理の重要性に関する意識啓発と文書管理に係る基本的な知識技能の向上を図るため、総務部総務課に協力してe-ラーニングを活用した法人文書管理研修(オンデマンド配信)を実施し、教材の作成を担当した(受講者161名)。 文書館専門業務に必要な知識技能を習得及び向上させるため、室員研修を2回実施した(他館見学及び史料調査1回、オンライン研修1回、受講者計6名)。 特定歴史公文書等の紛失等が発生した場合の対応等の規定を新設するガイドラインの改正に即応して規程を整備した(8月施行)。「個人情報」の定義を改正するガイドラインの一部改正に即応して規程を整備した(3月改正、次年度4月施行予定)。 令和元年度に実施した利用制限情報に関する調査研究の成果を踏まえて、「個人情報の利用審査マニュアル」を一部改正して内容を充実させることにより、業務の効率化・標準化を進めた(6月施行)。 神戸大学史についての常設展を実施(緊急事態宣言期間は臨時休止、来場者4,290名)するとともに、特別展「大正時代の神戸大学 - 100年前の学生たちの青春譜 -」を感染予防対策を講じた上で開催(会場:百年記念館1階展示ホール、会期:10/28-11/19、来場者数:1,339名)、さらに同テーマの巡回展を海事博物館で開催した(会期:12/1-1/31、来場者数:43名)。なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、東京六甲クラブ及び社会科学系図書館での巡回展は中止した。 国立昭和館との初めての共催展示「くらしにみる昭和の時代 兵庫展」を開催した(会場:兵庫県立美術館ギャラリー、会期:10/7-10/17、来場者数:3,342名)。 他機関等からの見学・視察(3機関37名)を受け入れた。 貴重な歴史的記録である「県立兵庫農科大学カボリア学術調査」のスライド1,455枚、ネガ348枚のデジタル画像を学内教員と協力して作成し、インターネット公開に向けて整理作業を継続中(事業初年度)。利用頻度の高い『教養部広報』64冊761コマのデジタル画像を作成し、次年度のインターネット公開に向けて準備作業を実施した。また、史料原本保護のため、劣化が進む旧制神戸高等工業学校卒業アルバム16冊984コマ、旧制神戸商業大学卒業アルバム1冊72コマのデジタル画像を作成した。 国立公文書館など全国の公文書館等26館との横断検索による連携を充実させるため、3月末までに目録情報2,110件を追加提供した。 集密書架1台増設により収蔵能力が向上した(7月)。また、書庫入口に防虫防塵ブラシを設置した(6月)。 学内各種記念事業に協力して、神戸大学創立120周年記念特設サイト歴史紹介ページ、経済学部オンラインオープンキャンパス2021「キャンパスツアー」動画、『令和3年度学生生活案内』、『神戸大学概観2021』、『神戸大学案内2021-2022』、『神戸大学統合報告書2021』の作成にそれぞれ協力した。 大学史関連授業1科目計3回(遠隔授業)、アーカイブズ学関連授業1科目1回(遠隔授業)の講師を担当した。 「博物館実習」の実習生2名を受け入れ、アーカイブズ学関連の実習を2日間担当した(2月)。 本学の歴史に関する講演会1回(同窓会主催、対面講演)の講師を担当した(7月、参加者60名)。 国立公文書館主催「アーカイブズ研修I」(遠隔授業)の講師を担当した(8月、受講者91機関146名)。 <p>【アウトカム】</p> <ul style="list-style-type: none"> 来室者の利用者アンケート結果によれば、回答者7名中、(1)利用目的達成の満足度は、とても満足5名(71%)、満足2名(29%)、(2)職員対応に対する満足度は、とても満足6名(86%)、満足1名(14%)であり、総合的な満足度は100%であった。 室員研修の受講者アンケート結果によれば、回答者6名中、満足5名(83%)、ある程度満足1名(17%)、であり、また理解した6名(100%)であり、総合的な満足度・理解度は100%であった。 特別展は社会的関心度の高いテーマ設定により来場者数がコロナ禍以前の前々年度比132%に回復した。また、来場者アンケート結果によれば、回答者122名中、とても満足63名(52%)、満足57名(47%)、やや不満1名(1%)、不満1名(1%)であり、総合的な満足度98%の高評価を得た。 依頼に応じて本学の歴史に関する講演会1回(学外、対面)、アーカイブズ学に関する研修1回(学外、オンライン配信)の講師を担当した。 国立昭和館からの要請に応じて本学の歴史に関する史料調査及びオーラルヒストリー調査研究に協力した。 執筆依頼に応じて史料調査研究を実施し、本学統合報告書1回、本学広報誌2回、同窓会誌4回への寄稿を行った。

第3期数値結果実績

区分	指標	2016	2017	2018	2019	2020	2021	備考(根拠など)
		H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	
教育体制	図書館入館者数	933,960	887,079	823,380	812,400	76,659	193,979	サービス業務現況表
	総開館日数(9館の合計)	2,580	2,540	2,524	2,528	1,759	2,088	
	時間外開館時間数	9,929	9,787	9,746	9,966	568	1,246	
	学生一人当貸出冊数	13.9	13.2	12.4	12.5	5.6	11.7	
	ガイダンス等の実施件数	211	218	157	148	31	69	初年次セミナー,ガイダンス等(オーダーメイドガイダンス,新入生向け図書館ツアー,図書館主催ガイダンス,オリエンテーション),英語セミナー,ライティングセミナー
	ガイダンス等の参加人数	3,675	4,621	3,968	4,191	307	2,801	※第3期各年度実績報告による
	情報基礎の実施件数	23	23	23	23	23	23	情報基礎
	情報基礎の参加人数	2,627	2,633	2,635	2,638	2,628	2,650	
	パスファインダー等作成件数	53	31件(累計51件) セルフラーニング資料 19件	35件(累計58件) セルフラーニング資料 25件登録	26件(累計60件) セルフラーニング資料 累計27件	24件(累計60件) セルフラーニング資料 累計30件	54件(累計91件) セルフラーニング資料 累計32件	授業資料ガイドKULiP作成数(R3のみ資料/情報の探し方ガイド更新数含む),セルフラーニング(PDF・動画) 年度末時点での公開件数 ※第3期各年度実績報告による
学内デリバリー貸出冊数	32,336	32,131	33,324	34,700	14,298	21,534	サービス業務現況表	
研究体制	EJタイトル数	26,061	25,424	35,287	35,579	36,418	37,077	蔵書・受入等現況表
	EJアクセス数	1,091,082	1,255,471	1,201,452	1,265,457	1,334,576	1,420,345	電子的情報サービス現況表
	主要データベース	26	25	27	26	26	26	年次報告
	リポジトリ登録数(年間増加数)	1,106	1,525	1,796	2,851	2,015	1,728	年次報告
	リポジトリ登録数(累計数)	24,551	26,076	27,872	30,723	32,738	34,466	
	リポジトリ利用数	1,220,534	1,168,672	1,123,313	1,445,459	2,050,717	2,488,851	論文等ダウンロード数
	リポジトリ博士学位論文登録総数	2,161	2,344	2,536	2,717	2,884	3,061	本文まで公開件数 ※修士論文は除く
社会貢献	震災文庫トップページアクセス数	12,127	7,344	11,661	20,037	15,849	12,734	電子的情報サービス現況表
	震災文庫資料総数	56,197	58,061	59,291	60,595	61,516	62,392	年次報告
	震災文庫新規受入資料数	2,036	1,864	1,230	1,304	921	876	
	震災デジタルアーカイブ・メタデータレコード総数	287,689	291,338	296,132	299,212	302,390	304,815	
	震災デジタルアーカイブ・入力件数	4,883	3,649	4,930	3,088	3,190	2,427	年次報告
	新聞記事文庫トップページアクセス数	49,736	39,372	86,405	71,190	81,011	73,734	電子的情報サービス現況表
	新聞記事文庫デジタル化記事件数	294,581	299,306	303,986	311,113	326,956	356,325	年次報告
	新聞記事文庫作成件数	4,600	1,900	15,880	10,383	2,087	11,988	
	展示会年間開催回数	5	7	10	7	1	1	※全体としての開催

全学共通教育必修科目「情報基礎」
図書館担当コマ「第5回 情報の活用」
学生アンケート集計結果

集計: 選択項目 回答数: 2272名

(1) 図書館ホームページの利用方法について理解できましたか。	回答数	割合	
1.理解できた	1803	79.4%	97.0%
2.少し理解できた	401	17.6%	
3.少し難しかった	40	1.8%	2.1%
4.難しかった	8	0.4%	
無回答	20	0.9%	
(2) 図書館での情報検索の方法について理解できましたか。	回答数	割合	
1.理解できた	1802	79.3%	96.9%
2.少し理解できた	400	17.6%	
3.少し難しかった	40	1.8%	2.1%
4.難しかった	7	0.3%	
無回答	23	1.0%	
(3) 引用ルールなどアカデミックマナーについて理解できましたか。	回答数	割合	
1.理解できた	1563	68.8%	95.1%
2.少し理解できた	597	26.3%	
3.少し難しかった	68	3.0%	3.5%
4.難しかった	11	0.5%	
無回答	32	1.4%	
(4) 動画・PDF資料は、授業を理解する上で役に立ちましたか。	回答数	割合	
1.大変役に立った	1768	77.8%	97.8%
2.少し役に立った	453	19.9%	
3.あまり役に立たない	24	1.1%	1.2%
4.全く役に立たない	4	0.2%	
無回答	23	1.0%	
(5) 今後、学修・研究のために図書館を利用したいと思いますか。	回答数	割合	
1.ぜひ利用したい	1844	81.2%	98.2%
2.少し利用したい	388	17.1%	
3.あまり利用するつもりはない	12	0.5%	0.6%
4.全く利用したくない	1	0.0%	
無回答	27	1.2%	

集計: 自由記述 回答人数(延べ数): 493 (579) ※1人で複数回答あり。

分類の内容	回答数	割合*
1. 図書館の使い方やアカデミックマナーなど、役に立った	79	14%
2. 説明や内容がわかりやすかった	91	16%
3. これからも図書館を使いたい	174	30%
4. 難しい、分からない	6	1%
5. 簡単すぎる	0	0%
6. 疲れる、長すぎる、無駄だ	0	0%
7. 教材(動画・PDFの表示方法等について)、課題、授業について	79	14%
8. 図書館への要望	10	2%
9. 図書館ホームページ、検索について	2	0%
10. その他	79	14%
未分類. 単なる謝礼や感想、もしくは無意味な内容	59	10%
計	579	

2021年度 初年次セミナー
(令和3年4月19日-令和3年5月21日)
担当教員アンケート集計結果
回答総数:20

Q0_部局	全回答数	割合
文学部	1	5%
国際人間科学部	5	25%
法学部	6	30%
経済学部	0	0%
経営学部	1	5%
理学部	1	5%
医学部	0	0%
保健学科	0	0%
工学部	1	5%
農学部	0	0%
海洋政策科学部	5	25%

【選択式回答】

Q1_初年次セミナーにて図書館に授業を依頼するのは今回何回目ですか？	全回答数	割合
0 無回答	0	0%
1 はじめて	6	30%
2 2年目	0	0%
3 それ以上	5	25%
4 学部で依頼している	9	45%
Q1-2_どのような形態の実施を依頼しましたか？		
0 無回答	0	0%
1 対面	12	60%
2 オンライン	6	30%
3 オンデマンド教材	2	10%
4 その他	0	0%
Q2_初年次セミナー授業の実施において、図書館担当授業は役立っていますか？		
0 無回答	0	0%
1 役に立っている	18	90%
2 どちらかという役に立っている	2	10%
3 どちらでもない	0	0%
4 あまり役立たない役立っていない	0	0%
5 役に立っていない	0	0%
Q3_今回の図書館担当授業は、受講した学生にとって有意義だと思いますか？		
0 無回答	0	0%
1 大いに思う	17	85%
2 どちらかと思う	3	15%
3 どちらともいえない	0	0%
4 あまり思わない	0	0%
5 全く思わない	0	0%

【自由記述】

各館で追加した設問

(設問) 今後、図書館担当授業で説明を加えた方がよいと思われる点、より重点を置いて説明したほうがよいと思われる点がございましたらご記載ください。

(回答) 難しい点ですが、コロナで直接、キャンパスや、図書館を訪問できない期間の図書館の利用の仕方についてまとまった形での指示があるとよかったですと思います。断片的には触れられていました。

Q4_今回の図書館担当回について、その他日頃のサービス等、神戸大学附属図書館についてご意見ご感想ご要望等、ありましたらご自由に記載お願いします。

- ・ 本当は実際に足を運んで見学できればよかったのですが(特に書庫)、コロナ禍で集団移動ができずに残念でした。ただ、その代わりに、動画やスライドで見せていただいたので雰囲気は伝わったと思います。また、数多くの動画など新入生向けのコンテンツを充実させていることに大変感心しました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- ・ いつもありがとうございます。
- ・ 途中で一時停止して補足説明をいれつつ学生に見せました。どうもありがとうございました。
- ・ 特にありません。
- ・ 事前に資料を作成しておられ、その資料を見ながら説明して、学生が図書館について理解しやすくなるように配慮されていたのが良かった。

- ・ 特になしです。
- ・ 今回の新入生のガイダンス的な授業で説明するのが適切かどうか分かりませんが、オンラインでの雑誌アクセスや論文検索の具体的な方法の詳細な説明があればよいと思いました。これは新入生向けというよりもむしろ卒論を書く4年生向けのガイダンスかもしれません。折角豊富にあるオンライン情報を学生が利用しきれていない、その存在すら知らないケースが多く、残念におもっています。
- ・ 短時間での見学だったので、もっと、知っておくべきポイントを絞って、強調してご紹介いただければ良かったように感じました。
例えば、対象が入学時の1年生なので、高校と大学の図書館で大きく違う点とか、学内の図書館の入館と図書を借りるには、学生証が必要だとか、1回に何冊、どれくらいの期間借りられるのかとか、学内の図書館であれば、どこでも借りられて、どこで返してもよいとか、学内の各図書館には、その図書館にしかない(得意な分野の)図書があって、海事分館では、どういった分野の図書が充実しているとか、学内の図書館の図書を最寄りの図書館に取り寄せることができるとか、シラバスに掲載されている参考図書を閲覧することができるなど、確かに、配布いただいた資料をしっかりと読めばわかることなのですが、こうしたことって、とりあえず、1年生が知っておきたい情報なんじゃないかなと思います。
- ・ 昨年度着任し、学生同様、なかなか図書館も回れないでいます。
動画による各図書館の紹介で、実際のツアーを録画したヴァーチャルツアーなどがあっても面白いかもしれないと思いました。
- ・ いつもお世話になっており御礼申し上げます。
- ・ 文献検索演習の際に、2-3パターンほど講師の方に実際の検索の様子をデモンストレーションして示して頂ければ、手続きについてのさらに理解が深まるかと推察いたしました。
- ・ コロナ状況下においても、御対応頂き、感謝しております。
翌年の新しい自然系図書館、学生にとってよいものになると良いですね。
可能であれば、工学部側からのアクセスを便利にして欲しいです。
遠い昔(20年ほど前ですが)、工学部側からも入れる入口があったんですが、今は閉じてしまっております。可能なら、自然科学3号館の方からアクセスできるように出来ると、学生にとっては、非常に便利です。無理かもしれませんが、ご検討をお願いいたします。
- ・ 1年生は、附属図書館を初めて利用するため、人文科学図書館の館内の配置一つ 知らないため、簡単なガイドツアーであっても、実施は有益だと思う。※今年度はオンデマンド資料配布と、セルフツアーとなったが、10数名以上の規模で1年生がセルフツアーに参加したと思われます。
人文科学図では、「情報基礎」でカバーしていない、より詳しい資料検索方法について、資料提供いただいております。
- ・ ここ数年、「初年次セミナー」の授業で図書館ツアーのお世話になっております。学生に図書館への馴染みを作ってもらおうという点でも、大変有意義な企画だと思っております。是非、これからも続けて下さい。
- ・ 神大は余りに感染症を気にしすぎだと思いますので、是非開館維持に頑張ってください。どんな活動をしようとも、学生生活にリスクはつきもので、それは学生の自己責任だと思います。我々は無事故・無リスクの学生生活なんて保証できないし、出来ると言うべきでないと思います。
- ・ コロナ禍でいろいろ大変であろう中、学生サービスに努めていただき、ありがとうございます。
- ・ 学生からの感想を聞いたところ、参加した学生の満足度は高く、またたくさん本を見て学習意欲が高まったとのことでした。ツアーではご説明にならなかったと伺ったので、授業内でデータベースもいろいろあることを紹介したところ興味を持っていましたので、今後のツアーではデータベース案内も基本メニューに加えられると良いかもしれません(特に、近年書籍購入のための予算が減られる一方で、印刷媒体から電子媒体への切り替えも進んでおりますので)。

オンライン読書室 アンケート集計結果

実施期間：2021.9.6～2021.9.10 申込者数：13名 参加者数：10名 のべ参加者数：11名 アンケート回答者数：5名

1.所属学部・研究科

文学部	1
国際人間学部	1
経済学部	1
農学部	1
その他	1

2.学年

1回生	1
2回生	2
3回生	1
4回生	0
M1	0
M2	0
その他	1

3.「オンライン読書室2021」を知ったきっかけを教えてください（複数回答可）

図書館ウェブサイト	2
図書館ツイッター	3
ポスター・チラシ	0
友人	0
その他	1

4.「オンライン読書室2021」はいかがでしたか

とても面白かった	2
面白かった	2
普通	1
つまらなかった	0
とてもつまらなかった	0

上記の選択の理由について

- ・なかなかまとまった時間をとることができていなかったのも、良い機会でした。ありがとうございました。
最後のディスカッションについて、話を広げなくても、個々人の本の感想とそれに対する質疑応答で十分だと思いました。
- ・色々な人と本の話ができたので、知らない本の情報が手に入るのも面白かったです。
- ・予定があり興味があった回に参加できなかったから。
- ・自分が読んでいる本について話せた。他の人がどうしてその本を読んでいるのか知ることができた。
- ・コンパクトな時間設定の中で読書時間と、感想を話し合う時間を設けていて楽しかった。

5.今回のテーマの内、関心があったものはどれですか（複数回答可）

小説・エッセイ	3
ノンフィクション	0
英語多読	2
今回のテーマの中にはなかった	0

今後参加してみたいテーマがあれば教えてください

- ・みんなで同じ本を読む読書会をしたいです
- ・小説、エッセイ
- ・特になし（テーマなしが嬉しかった）

8.参加しやすい時間帯を教えてください

9-10時	1
10-11時	2
11-12時	5
12-13時	2
13-14時	2
14-15時	2
15-16時	1
16-17時	1

6.実施時期（9月6日～9月10日）はいかがでしたか

ちょうどいい	4
別の時期がよかった	1

「別の時期がよかった」を選択された方、参加しやすい時期は？

- ・9月下旬

7.実施期間（各回1時間/計5回）はいかがでしたか

短かった	0
少し短かった	1
ちょうどよい	4
少し長かった	0
長かった	0

9.今後図書館で参加してみたいイベントを教えてください

- ・ビブリオバトル
- ・同じ本が好きな人同士で繋がって話せる会

10.その他要望、感想等ご自由にご記入ください

- ・オンライン読書会好きなので、開催を増やしてほしいです

学生選書ツアー2021 電子ブックリクエストキャンペーン アンケート集計結果：回答数20

Q1. 所属学部・研究科を選択してください。

法学部・法学研究科	3
理学部・理学研究科	3
文学部・人文学研究科	3
工学部・工学研究科	3
経済学部・経済学研究科	2
国際文化学部・国際文化学研究科	2
国際人間科学部	1
農学部・農学研究科	1
発達科学部・人間発達環境学研究科	1
医学部（医学科）・医学研究科	1

Q2. 学年を選択してください。

学部1回生	1
学部2回生	2
学部3回生	5
学部4回生	2
学部6回生	1
修士1回生	4
修士2回生	2
博士1回生	1
博士2回生	1
その他	1

Q3. [Q1・Q2で「その他」を選択された場合]

所属と身分を教えてください。

専門職学位課程 実務法律専攻（1L）

Q4. このイベントはいかがでしたか？

満足	16
普通	4

Q5. Q4の回答について理由があれば教えてください。

最新の本などが手に入るから

学修や研究に必要な本を、誰でも手軽にリクエストできて良いと思いました。試し読みができたのも、便利だと感じました。

意外とまだ見れない本が多かった

専門書は高価なものが多いので今回のキャンペーンは非常に助かりました。

研究に必要な本を探しました。

日本中世史の本がより豊富であれば、もっとうれしかった。

こんなすぐに承認されるとは思っていなかったです。

リクエストできる本の種類が少なかったから

欲しい本が電子で読めるから

実際に本で読むことができる上に、返却したとしても読める点がとてもよい。留学を控え、その本を保持しておきたいが、ずっと借りておくことはとても気が引ける。電子書籍であると、すぐに取り出せ読める点で留学後も使えるため学問にとってとても有益になる。

最近お金があまりなかったのもとても助かった。

Q6. このイベントを知ったきっかけを教えてください。

ポスター・チラシ	5
図書館ホームページ	15
図書館twitter	1
丸善のeBookを閲覧している中で偶然発見した。	1

Q7. 実施時期（第3Q）はいかがでしたか？

第1Qの方がいい	2
第2Qの方がいい	2
ちょうどいい（第3Qがいい）	18
第4Qの方がいい	1

※1名が全ての選択肢にチェックしている

Q8. 購入可能冊数（1人5冊まで）はいかがでしたか？

ちょうどいい	16
少ない	4

Q9. リクエストフォームへはどのような経路でアクセスしましたか？

図書館OPACのリンクから	15
直接Maruzen eBook Libraryから	5

Q10. 2019年度まで開催していた学生選書ツアーをご存知でしたか？また、参加したことはありますか？

（学生選書ツアーとは、学生の皆さんに書店の本棚で現物を見ながら図書館に置く本を選んでいただくイベントです。）

知らなかったが、今後参加してみたい	14
知っていたが、参加したことはない	4
知らなかったし、今後参加する予定もない	2

Q11. このイベントがまた開催された場合、参加したいですか？

参加したい	19
参加したくない	1

Q12. Q11の回答について理由があれば教えてください。

研究費で買いにくい研究に必要な本があるから

今年度の電子ブッククエストキャンペーンにとっても満足しているから。

このような機会はなかなかないから

お得なため

欲しい書籍はたくさんあります。まだまだ見ることのできなかつた本をぜひオンラインで閲覧したいです。

今は検討中です。(※「検討中」としている参加者は、Q11で「参加したくない」とした参加者)

電子書籍ならではの良さがある。

Q13. 今後図書館で開催希望のイベント等がございましたら、ご記入ください。

新着書籍購入リクエストイベント

卒業生の不要本譲渡や書評

教員が選書した書籍紹介

司書さんとの雑談会。どうしてその道を選んだのか、学生のチャットでの質問への不満点などお菓子をつまみながら、、、お話をしてみたい。

Q14. その他要望、感想等ご自由にご記入ください。

色々大変なことは承知していますが、強いて言うならば図書館開館時間がもう少し長ければ助かります。

気軽に選書して、リクエストできるというのが大変ありがたいです。通常の書籍ももちろんいいですがコロナ禍において電子書籍でのリクエストができる点もよかったです。

専門書だとすぐ上限金額を超えてしまうのであまり冊数をリクエストできないのが残念です。

トークイベント「外国語授業のその先に」アンケート集計結果 回答数：73

[1] 所属学部・研究科を選択してください。

文学部/研究科	1
国際人間科学部(グロ文)	3
国際文化学部/研究科	21
国際人間科学部(発達コミュ、環境共生、)	2
発達科学部/人間発達 環境学研究科	3
法学部/研究科	3
経済学部/研究科	1
経営学部/研究科	0
理学部/研究科	4
医学部(医学科)/研究科	0
医学部(保健学科)/研究科	2
工学部/研究科	5
農学部/研究科	0
海洋政策科学部	6
海事科学部/研究科	0
その他	22

[2] 学生さんは学年、教職員はその別を選択してください

学部1年	19
学部2年	1
学部3年	1
学部4年	2
修士課程	27
博士課程	0
研究生・履修生	3
教員	2
職員	16
その他	2

[3] 上記 [2] で「その他」を選んだ場合の所属と身分を教えてください。

社会科学系図書館 事務補佐員	2
国際協力研究科 M1生	1

[4] 参加されたトークイベント名を教えてください。

※複数のトークイベントに参加された方は、
トークイベントごとに1回、アンケートにご回答ください。

10/18 (月) 多言語学習の魅力	11
10/19 (火) 中国語でも伝わる歌の力	18
10/20 (水) ドイツ都市と食めぐり	15
10/21 (木) フランスの教育制度	29

[5] トークイベントはいかがでしたか?

満足	60
やや満足	12
物足りない	1

[6] 上記 [5] の回答についての理由、または感想を自由にご記入ください。

東アジア社会における文化交流の理解に対する一助になったから。
内容が大変充実で面白く、色々勉強になりました。
面白く聞かせていただきました！ありがとうございました。
興味深いお話でした
言語によってその地域の文化の理解も促進されるとわかり、外国語学習を再開したいと思われました。
高橋先生の授業を受けていたので、久しぶりにお話を聞くことができ楽しかったです。ベトナム語は無知ですが、中国語を二外でやっていたおかげで、韓国語を少し勉強したときに日中韓のつながりが面白いと思える場面があったので、今日のお話はすごく実感を持って聞くことができました。また、ちょうどスペイン語を独学でやってみようとしていたところなので良い刺激になりました。ありがとうございました。
高橋先生による有益な話を聞いて良かった。外国語学習ができるサイトなども教えてもらって参考になった。
中国語を履修していない人にもわかる文化、環境問題といった内容だった。中国は広いので北西部といわれても分かりづらく、地図を出してほしかった。
講義内で扱ったような環境問題を歌うメジャーな曲はあまり日本にないという印象なので、国が違えば表現の内容も異なってくるんだなあと思った。
面白かったです。
中国語の曲を聞いたことがなかったのですが、今回のイベントを期に色々な曲を聞いてみたいと思います。
すごく面白かったです。音楽の背後の文化を掘り下げて聴くことが面白いと思います。今後外国人に自文化を紹介する時、音楽を通するという手段があると認識することができました。
短いトークですが、内容はとても充実で面白かったです。
教科書の文章ではなく、歌に使われている言葉のほうが現実感があるというのは納得できると思った。言葉が分からなくても、歌手の魅せ方でなんとなく雰囲気が分かるので、歌を教材として使うというのは面白いと思った。
もともと他言語での音楽に興味があったこともあって、先生のおすすめの曲や、曲の内容紹介などが聞けて、もっと他の曲やジャンルも聞いてみたいと思ったから。
お昼休みの時間のトークイベントなので時間が30分ということは適当であると感じますが、内容がとても興味深いのでもう少しお話を伺いたいと感じました。しかし、短い時間でこれまで知らなかった中国のポピュラー音楽について触れることができ、そこから視野を広げ中国の現在に目を向ける方法をわかりやすく示していただいたと感じております。民族音楽を大胆に取り入れ、歌詞には中国の伝説を取り入れて、環境保護の観点から環境破壊を問題として訴えるロックを歌う譚維維さんと(伝統音楽を含めた)バンドの方々の圧倒的なパフォーマンスにとっても驚きました。中国の方にとっては自明のことであるだろう、伝統文化に関する解説はYoutubeの映像からだけでは知ることができなかったと思います。解説があったために中国の方々が曲から感じられるだろうこと、あるいは歌を作り歌う方々の思いについて、意識が働きました。ありがとうございました。

Zoomでドイツを旅した気分になりました。
すごく面白かったです。聴いてて本当にベルリンに行った気分です。
来年留学でドイツに行くので、どこに観光に行ったらいいか勉強になりました。またレシピもおいしそうで自分で作ろうと思いました。
語学に興味を持ってもらう糸口にもいいと思いました
美術館の入場料や、レシピなど実用的なお話が多く、特に料理は自分でも作りたいと思えて楽しかったです。
もう少し先生方のお話を伺いたいと感じました。都市の案内では、ベルリンのプロジェクションマッピングの画像がとても印象的でした。ベルリンについてもっと知りたいと感じました。またレシピを紹介していただいたお料理は、アレンジ料理として日本でもレシピを見つけられるかもしれませんが、先生がおっしゃっていたように「バターをたくさん使う」というように、ドイツの食文化が反映されていて日本との違いを感じました。日本でも手に入りやすい食材のものをご紹介いただいたので機会があれば作ってみたいと感じました。ありがとうございました。

本当に生の情報を知れてよかったです
日本よりも平等な教育制度だと感じた。

フランスについては色々教えてくれました。面白く聞かせていただきました。

実際にその国にいたからわかることだったり、日本との違いを知れて純粋に面白かった。今後海外の人と話す機会があったときに話題にできたらと思った。

フランスに行きたくくなりました。フランスの大学に留学したいですね。

いろいろなフランスに関するリアルな話をお聞きすることができてとても面白かったです。

第二言語でフランス語を学んでいるので、非常に興味深かったです。フランス人は、外に出ることやスキップが好きと言うことだったので、コロナ禍ではフランス人はつらいことが多いのではないかなと感じました。

フランスの教育制度など勉強になりました

学生生活についての生の情報が大変興味深かったです。（観光ガイドではなかなか記載されていないので）

日本と違う点が多く参考になった。

フランスの環境について詳しく知れたから。

質問を受け付けてくれて、採用率も高かった

今回は鼎談となって、お三方で会話が弾んで非常によかったです。

話題としては少し他のテーマよりも難しかったが、先生方の掛け合いが面白くて頭に残った。

フランスでのアルバイトの話や、普通の生活の過ごし方を聞いて面白かったです。

教科書では知ることのできない、リアルタイムのフランスについて知ることができて、興味深かったです。

フランスの教育制度を踏まえてフランスの大学生の事情に触れることができました。最近の制度の改革も含めてもう少し詳しいことが知りたいと感じました。またコミュニケーションの方法の違いもとても興味深いと感じました。特にコミュニケーションについてはフランスに行ったこともなく、フランス人の知り合いもないため、本などの情報からではニュアンスや雰囲気掴みにくいと思われそうですが、先生方のお話から様子を(私なりにですが)イメージすることができました。 これまでに参加した本トークイベントの感想と重複しますが、もう少しお話を伺いたいと感じました。(したがって感想を「やや満足」とさせていただきます。

【7】 イベントはどのように知りましたか？

図書館Webサイト	20
友人・知人から聞いた	17
先生から聞いた	15
図書館Twitter	9
ポスター・チラシ	7
大学HP	5

【8】 イベントへの参加方法は、次のどちらでしたか？

Zoomでの参加	51
総合・国際文化学図書館の会場での参加	22

【9】 開催時期(第3Q)はいかがでしたか？

ちょうどいい	72
他の時期がいい	1

【10】 上記【9】で、「他の時期がいい」を選んだ場合、どの時期が望ましいかお答えください。

第2Q	1
第4Q	1

【11】 今後図書館で実施してほしいイベント等ございましたら、ご記入ください。

日本人学生と留学生の交流活動など

文献検索術の講座、各種データベースの活用術の講座

図書館のデータベースの利用-論文等の資料検索

今回のように、様々な学部から先生をゲストに招いて話をしてもらいたい。

今回のように外国文化に関するイベント、ある国の文学作品を紹介するイベントなどを希望します。

民族音楽コンサート

海外からのこのような情報は大変興味深いので、ヨーロッパ以外の、アジア、アフリカ等他の地域の先生、留学生の方からのイベントがあれば参加したいです。

また対面で大々的にイベントができようになればと思います。

教授陣による本気のピプリオバトル、短編やショートショート読書会、図書館公式LINEの設置(生協みたいに)

フランス語小説読書会

【12】 その他要望、感想等ご自由にご記入ください。

とても良い内容でした。もっと多くの人に視聴してもらいたいです。

Zoomで視聴ですが音声は昨日のほうが聞き取りやすかったです。

すごく楽しかったです

いつも利用させていただきありがとうございます。きれいで静かな館内で整理された図書を利用させていただくだけでなく、館ではいろいろなイベントや企画が行われていて今回のように参加させていただくこともあり、親しみやすく、利用させていただいてありがたいと感じております。

先生に好きなテーマで自由に話してもらう企画は楽しいです。

先生方の話を聞いて、ベルリンに行った気分です。

いつもありがとうございます。

定期的に開催していただきたいです。

フランスに留学してみたいですね。教育にお金を入れているところすごく感心します。羨ましい限りです。

授業以外でフランス語に触れる機会があってよかったです。

イベントの企画ありがとうございました。

4日間どうもありがとうございました。各日安定してよかったです。もっと多くの人に視聴してほしいですね。

楽しい催しをありがとうございました。そしていつも図書館を利用させていただきありがとうございます。

研修会「研究データポリシーの策定に向けて」 アンケート集計結果

参加申込み 国立48機関107名、公立2機関2名、私立23機関30名、
計73機関 139名、最大接続人数129名

アンケート集約結果 回答数49

◆開催時期	適切	49
	他の時期	0

◆設定時間	適切	44
	長い	3
	短い	2

◆講演1「これまで研究データについて右往左往してきた経過とこれからの課題」
(村上 健治 講師) について

非常によく理解できた	14
理解できた	35
少しわかりにくかった	0
視聴していない	0

自由記述

- ・ご講演有り難うございました。
- ・大学として、図書館として現状の取り組みがわかり、参考になりました。
- ・神戸大学さまでも我々と同じように苦労されていることがわかり、ある意味安心しました。今後共どうぞよろしくお願い申し上げます。
- ・わかりやすい説明でした
- ・まったく知識の無いところからでしたので会議で扱う課題の全体像がわかり助かりました。
- ・これからどのような課題に取り組むべきかが見えたことと、必要な知識とスキルについて資料を紹介いただけたのがよかった
- ・過去の経緯をざっくりと教えていただき助かりました。
- ・本学もポリシー策定に向けてWGで検討中ですので、他大学様も同じように模索中とのことがよく分かりました。
- ・これまでの部分がとても分かりやすくまとめられていて、有用だと思いました。
- ・これまでの経緯や課題を分かりやすく解説していただき、ありがとうございました。
- ・日本における研究データ管理を巡るこれまでの動きが簡潔にまとめられていた。また、個別の大学において現在課題となっていることが把握しやすく、以降の講演の内容理解に役立った。
- ・後半のご講演をお聞きするにあたり、事前にポイントをまとめて頂いて分かりやすかったです。
- ・関係資料や教育コンテンツ等へのリンクが多くあり、参考になります。
- ・これから始めるには、という部分を整理していただき、参考になりました
- ・オープンサイエンスに関する動向・教材等をまとめてくださっていて大変助かります。順次目を通して勉強したいと思います。

- ・政策や各種情報源について整理していただき大変参考になりました。
- ・これまでの経緯、図書館がどう関わるのか、など、簡潔に整理していただき、たいへん参考になりました。
- ・貴学のこれまでとこれから・・・本学も参考にさせていただきます。研修の司会も、ありがとうございました。

◆講演2「東京工業大学「研究データポリシー」策定の舞台裏」（茂出木 理子 講師）

について

非常によく理解できた	18
理解できた	31
少しわかりにくかった	0
視聴していない	0

自由記述

・東工大様の事例を知ることができ、大変勉強になりました。本学におけるデータポリシー策定の検討に活用させていただきます。

- ・まず、関係者で共通認識を持つ、という作業が、結果として体制を調えるのに必要だと実感しました。
- ・まず何をすべきか、どのように進めるか、流れをお聞きできてよかったです。
- ・東工大での取り組み、背景やポリシー・実施方針に分けた合理的な進め方など理解できました。
- ・研究データポリシーの策定における粒度の設定や他部署と協働した工程の話、またその過程で出て来た研究者の先生方の疑問の例などが大変参考になった。
- ・舞台裏についてとても興味深く聞かせていただきました。東工大ならではの事情が奏功した面もあったでしょうが、執行部と実務担当者間に立つ、茂出木様のような課長クラスが腹をくくって本気で取り組むことが実は最も重要なポイントかも、とお話を伺っていて思いました。
- ・これから策定しなければならない状況なので具体的でわかりやすかったです。
- ・ご説明も資料も分かりやすく、実際にポリシー策定に着手する際のヒントがたくさんあると思いました。

・先行事例として大変参考になりました。本学も研究推進担当副学長からの指示により、動き始めており、2022年度中にはポリシーの大筋を決めて2023年度の公的研究資金を申請時に備えたいと考えており、まず学内のドキュメントを読み込むことを始めております。方向性が間違っていなかったことを知り、ちょっと安堵いたしました。

- ・実際に即してわかりやすかったです
- ・本日は貴重なご講演誠にありがとうございました。

先ほど初歩にも満たないお恥ずかしいご質問をさせていただいたのですが、もう1つまたお恥ずかしい質問をさせていただきます。

研究データポリシーを各大学が策定するうえで、各大学の事情に合わせて、というお話がありました。ということは、研究データポリシーには大学の特徴が出てくるということかと思うのですが、研究データ管理は研究不正防止や公開という目的があり、ある程度全国共通なのではないかと思いができずにおります。もちろんこのことを大学として深く検討しなくてはならない案件であることは理解しておりますが、策定した結果いずれの大学も同じような内容になってしまわないのでしょうか？

ご教示のほどどうぞよろしくお願いいたします。

- ・GakuNin RDM試行利用教員の感想が参考になりました。
- ・図書館総合展のフォーラムも拝聴しましたが、東工大さんがスピーディーに進められた背景、ポイントなど、たいへん参考になりました。RDM試行についても伺うことができ、よかったですと思っています。

- ・研究データポリシー策定までの流れがわかりやすかった。
- ・取組の成功例として興味深く拝聴しました。具体的で非常にわかりやすかったです。
- ・具体的なお話で大変参考になりました。
- ・ご講演有り難うございました。貴学での取り組みについて、よく分かりました。
- ・「科研費令和4（2022）年度公募要領」にDMP提出云々とあることを今回の研修会で知りました。科研費担当部署は把握していたと思いますが、DMP策定に向けて他部署に探りを入れるところからせねばと感じました。

東工大様はさまざまな部署のメンバーで部門を立ち上げておられ、ポリシーが各種規定と関わることを考えますと道理だと思いました。参考にしたいと思います。

・スピーディーかつ合理的に研究データポリシーの策定が進んだ様子がわかり、関係者のご努力に敬意を感じます。本学ではもう少し紆余曲折がありそうですが、参考にさせていただきます。

- ・策定までの期間・組織・研究者の反応など、具体的で大変理解しやすかった
- ・リアルな事例と策定に向けての心構えが大変参考になりました。
- ・舞台裏が聞けて参考になりました。
- ・策定の舞台裏、興味深く視聴させていただきました。講師のご活躍があってこそ「仕様と納期」だったと思います。本学の情報も図式化（できないかもしれませんが）で整理しつつ、前進する努力をします。ありがとうございました。

◆講演3「研究データ管理サービス GakuNin RDM の概要」（込山 悠介 講師）について

非常によく理解できた	8
理解できた	27
少しわかりにくかった	14
視聴していない	0

自由記述

- ・GakuNin RDMの機能や今後の開発予定について伺うことができて良かったです。
- ・こちらが準備不足でしたので、盛りだくさんな説明についていけませんでした。
- ・GakuNinRDMでどのようなことができるか、またその後のデータ流通などを再確認できました。
- ・私には予備知識が全くありませんでしたが、システム全体や、関連性が何となく分かりました。
- ・データ基盤の関連性とGakuNinRDMの立ち位置がまだ十分に理解出来ませんでした。
- ・学認RDMの具体的な機能がスクリーンショットなどと共に説明されておりわかりやすかった。一方で情報量自体が多く、ポイントを要約しづらく感じたので、最後にまとめがあって助かった。
- ・WEKO3とGakuNin RDMとの連携がどうなるのか、が図書館員的には気になる部分ですが、WEKO3の本番リリースが何度も延期されている状況で、本当に2022年5月に連携が可能になっているのか、若干心配に思いました。
- ・GakuNinRDMがどういうものかイメージをつかむことができました。
- ・学認RDMを利用する際は学認の認証システムを導入していることが必須だと思いますが、最後の方そのあたりが少々わかりにくかったです。有償化される際はどの程度の規模になるのかが気になります。導入してから有償化対応で維持できないという事にはしたくないので、導入を検討する際にはどの程度の規模での費用が必要になるのかの目安がほしいです。
- ・情報力が多くて難しかったです。
- ・事前配布では、講演では示された資料p.38の次のページがなかったので、A1-A3の意味等が分かりにくかったです。

- ・RDMについて、なかなか具体的イメージを掴むことが難しい状況にいたのですが、少し理解が深まったように思います。
- ・ご講演有り難うございました。システムの概要がよく分かりました。
- ・学内会議のため途中で退出せざるを得なかったのですが、GakuninRDMの現状が大変よくわかり、今後の学内議論に大変役立つ情報であったと感じます。ありがとうございます。資料が公開されたら学内関係者にも共有させていただきます。
- ・システムの専門でないため、理解が追いつかないことが多かったが、情報部門には協力を仰ぐべき課題との認識が持てたことがよかった
- ・大変参考になる貴重なお話でしたが、情報量の多さに比べて時間が短い印象でしたので、もう少しじっくり時間をかけてお聞きしたいと思いました。
- ・改めて説明をうかがいたいと思いました。
- ・私の認識不足で、十分に理解できない部分がありました。ご講演、ありがとうございました。

◆GakuNin RDM について、国立情報学研究所からの情報提供を希望される方は、大学（機関）名と担当者名をご記入ください。

希望あり：7大学8名

◆今回の研修会の内容は、日頃の実務に参考になる内容でしたか。

非常に参考になる	23
ある程度参考になる	26
あまり参考にならない	0

◆今回の研修会について、ご意見・ご感想などがありましたら、自由にお書きください。

- ・大変有意義な研修会を開催いただき、ありがとうございました。
- ・先行大学の事例を具体的にお聞きできて非常に参考になりました。ありがとうございました。
- ・予備知識が無く、実はよく分からないまま参加したのですが、学びの多い有用な研修会でした。ありがとうございました。
- ・まだまだ研究データに関してわからないことだらけのため、この研修会で勉強の機会を得られて良かったです。ありがとうございました。
- ・質問が事前に資料に掲載されていたので質疑応答の内容をメモに追われず聞くことができ良かったです。
- ・まさにタイムリーなトピックや内容で企画してくださった神戸大学さまに感謝申し上げます。
- ・事前質問を募集し、事前に回答も配布していただけたのは、大変ありがたかったです。
- ・研究データポリシーの策定は、本学でも着手しなければならない課題として挙がっているところですので、このタイミングでこのような研修を視聴させていただけたことは、たいへん貴重なことでした。また、地区助成事業でこのテーマを取り上げられたことも素晴らしいと思います。どうもありがとうございました。
- ・今後検討するうえで大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・開催有り難うございました。
- ・漠然と悩むばかりで何も手をつけていませんでした。教えていただいたことを参考に、少しずつでも着手してまいりたいと思います。研修会を開催していただきありがとうございました。

- ・学内会議のため込山先生のご発表の途中で抜けさせていただきました。大変失礼いたしました。政策や情報源の整理、実際に研究データポリシーを策定した機関の経緯、研究データ管理に欠かせないGakuninRDMの紹介と、短い時間で大変効率的に学ばせていただくことができました。参加させていただきありがとうございました。
- ・図書館員以外でも視聴をさせていただけて感謝しております。具体的な事例はイメージしやすく、理解しやすかったです。ありがとうございました。
- ・ある程度の前提がわかっている講習会だと感じました。
- ・有意義な研修会を開催いただき、ありがとうございました。

◆今後、どのようなテーマで研究会・研修会を希望されますか。

- ・機関リポジトリと研究データ管理
- ・特にありません。
- ・デジタルアーカイブ/JPCOARスキーマなどメタデータに関すること／電子資料の保存／著作権関連の最新動向／CAT-ILLの今後
- ・GakuninRDM のシステム構成の研修会

附属図書館に関する自己点検・評価の実施について

令和3年10月21日付「教育課程、学生の受入並びに附属図書館の施設及び設備に関する自己点検・評価結果及び自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の提出について（依頼）」を受け、次のとおり附属図書館に関する自己点検・評価を実施した。

実施にあたっては、附属図書館における内部質保証実施要項（令和2年11月5日附属図書館運営委員会承認）に基づき行うものとし、令和3年度第2回附属図書館運営委員会（令和3年11月2日開催）にて、令和2年度神戸大学附属図書館年次報告（案）の確認をもって第4条第1項に規定する報告を行い、第3回附属図書館運営委員会（令和3年12月9日～16日メール審議開催）にて第4条第2項に規定する改善事項の審議を行った。

【評価事項①】

- ・附属図書館において、教育研究上必要な資料が利用可能な状態に整備され、有効に活用されていること。

【評価結果①】

- ・学生用資料整備：

各館室の学生用資料整備は図書館予算から各館室に配分した経費と各館室のサービス対象部局から拠出された経費を合わせて実施されている。本年度の図書館予算は、前年度より0.9%減の40,000千円とした。また、前年度に整備した学生用図書を選定評価を実施し、構成と利用の面で選定が適切に行われたことが確認された。

今後も厳しい予算状況が続くと見込まれるが、教育・学習活動の支援のため現行の予算規模の維持を目指すと共に、コンテンツへのアクセス可能性を担保・拡充するために冊子のみならず電子ブックを含めたリソース構築を目指す必要がある。

- ・研究用資料の整備：

第3期中期計画後半（令和元～3年度）の教育研究基盤資料整備費について、平成30年5月の部局長会議での承認に基づき、本年度は「教育研究基盤資料整備費」約3.67億円（決算ベース）が措置され、電子ジャーナル及びデータベースは平成27年度の契約規模を維持することができた。

第4期中期計画前半（令和4～6年度）の教育研究基盤資料整備費による整備方針について、令和2年10月8日の部局長会議において、上限4.1億円として承認を得た。

附属図書館運営経費は、令和元年度より約428万円減（1.6%減）の予算により、図書資料費（学生用資料費・e-study資料費・震災文庫資料費・外国雑誌センター館経費）の確保が困難となっているが、本年度は令和元年度と同額の約0.72億円の予算を確保した。しかし資料本体の値上げ等により、全体の購入資料数は減少を続けている。

本年度は、神戸大学の事業を支援することを目的として大学機能強化支援資料費を計上し、教員と連携してV.School・SDGs関連図書を選書購入し、総合・国際文化学図書館に配架した。

外国雑誌センター予算については、令和元年度と同予算額（27,000千円）を確保した。令和元年度にパッケージ購読を開始しタイトル契約数を増やしたことにより、EJ利用数やILL受付件数が増えた。このことから資料の利便性が向上したと推測できる。

- ・電子的情報基盤の整備：

本年度末における電子ジャーナル購読数は36,418タイトル、総ダウンロード数は教育研究

基盤資料整備事業によるもので約 130 万件と、総体として非常によく利用されており、必須の教育研究基盤資料となっている。電子ジャーナル購読数は令和元年度の規模を維持している。

国際的には、アクセスを確保するため購読料を負担するモデルから出版費用を拠出し論文をオープンアクセスとするモデルへの転換を図る動きが現れており、今後はこのような転換も視野に入れ、学術情報流通全体の中で基盤整備のあり方を捉え直していく必要がある。

・開館サービス：

新型コロナウイルス感染症流行下における入構制限等に対応した臨時休館や利用制限を行った。これを反映し、年間総入館者数は約 7.6 万人で前年度比 9%となった。入館者数の減少には閲覧席の利用停止・制限が影響しているとみられ、感染症の流行によって学習場所としての図書館の重要性が明らかになった。また非来館型のサービスの重要性が明らかになったことから、開館サービスのみではない図書館の利用指標の設定が今後の課題となった。

・資料提供サービスと利用促進：

学生への年間貸出総冊数は約 9 万冊で、前年度比 44%となった。この数字は入館者数（同 9%）と比べると減少幅が小さく、利用制限下においても資料提供サービスの面では図書館としての役割を一定程度維持できていたと評価できる。

来館が難しい学生を対象とした郵送貸出の実施の他、利用促進においても非来館型の取り組みを行い、電子ブックを利用した「仮想展示」や、イベント「オンライン読書室」を実施した。

・資料の保存：

資料収容力確保のため「整備指針」の改正と「実務指針」の見直しを行い、情報管理課に資料整備担当を設置するなど資料保存における具体的な対応策に取り組んだ。今後は自然科学系図書館の増築部分に共同利用書庫が新設され、附属図書館全体における体系的な資料整備が進むことが期待される。突発的な空調機の故障や豪雨に伴う雨漏りなどに備え、資料保存の適切な環境整備になお一層努めていく必要がある。

【評価事項②】

- ・附属図書館の施設・設備の整備が適切に行われていること。

【評価結果②】

- ・保健科学図書室の施設改修を実施した。あわせて 1 階にラーニングcommonsを設置し、学修支援機能を強化することができた。施設部が各部局より確保して執行する建物老朽劣化対策経費により、総合・国際文化学図書館棟（A 棟）等漏水補修工事を実施した。また学内営繕・エコ対策経費により、総合・国際文化学図書館の書庫照明設備改修工事を実施した。学修支援機能の強化を目的とした LC 設置と、資料収容力強化を目的とした増床のための自然科学系図書館の施設改修概算要求が採択され、令和 3~4 年度の 2 年間で実施することとなった。次年度はこの実施が図書館での大きな課題となる。

【評価事項③】

- ・附属図書館の活動を展開するために必要な職員が配置され、適切に活用されていること。

【評価結果③】

- ・5 月時点で、附属図書館事務部は 2 課 3 グループ 11 係、定員 47 名、非常勤職員 31 名の 78 名で

あった。経済経営研究所図書係に定員 3 名、大学文書史料室に定員 2 名、非常勤職員 2 名を配置している。特に大学文書史料室の 2 年間の暫定措置とされていた再雇用職員 1 名の増員配置は、令和 3 年度より恒久的な増員配置として承認された。令和 3 年度事務組織改編が第 2 回附属図書館運営委員会にて了承された。本年度は感染症拡大防止のため対面での研修が中止となるなか、学外のオンライン研修に積極的に職員が参加した。係横断的な業務や課題解決のためのワーキンググループについては、具体的な業務目的を負ったものに絞って設置し、いずれも活発に活動し成果をあげている。

(様式1)

附属図書館の施設及び設備に関する自己点検・評価結果を踏まえた

対応措置の実施計画の進捗状況
(改善・向上が必要とされた事項)

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成下さい。

<p>① 担当委員会 (担当委員会を■にして ください。)</p>	<p><input type="checkbox"/> 大学教育推進委員会 <input type="checkbox"/> 施設マネジメント委員会 <input type="checkbox"/> 情報委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 附属図書館運営委員会 <input type="checkbox"/> 学生委員協議会 <input type="checkbox"/> 留学生委員会 <input type="checkbox"/> 入試委員会</p>
<p>年 月</p>	<p>・ 令和3年12月 ・ 令和4年3月30日</p>
<p>② 改善・向上が必要とされた事項 (記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」37-42頁をご参照ください。)</p>	
<p>内 容</p>	<p>コンテンツへのアクセス可能性を担保・拡充するために、冊子のみならず電子ブックを含めたリソース構築を目指す。(学生用資料整備に関する事項)</p>
<p>根 拠</p>	<p>令和2年度神戸大学附属図書館年次報告 附属図書館事務部</p>
<p>対 応 計 画 (改善方針)</p>	<p>電子ブックの試行的導入を促進するため、R3年度予算で総合図書館と自然科学図書館の2館に学生用資料費を重点配分した。 R3年度に神戸大学基金新型コロナウイルス感染症対策緊急募金(学生)から電子ブック拡充経費として2,400千円配分を受け、計222件(シラバス掲載図書216件、参考図書6件)を購入した。 EBA (=Evidence Based Acquisition、試用期間中の利用統計に基づき購入タイトルを選定) モデルによる電子ブック契約を促進した。</p>
<p>計画の進捗状況</p>	<p>※現時点での状況を記載ください。 <input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()</p>
<p>前回確認時 (R4.1.20教育研究評議会)からの 進捗状況</p>	<p>電子ブックの試行的導入を促進するための学生用資料費の重点配分について、総合図書館に配分した30万円は電子ブックリクエストキャンペーン(学生が購入電子ブックを選定する企画)の増額分に充当して42件(総額80万円)で112件購入の内数)購入し、自然科学系図書館に配分した100万円)で75件購入した。</p>
<p>今後の予定</p>	<p>EBAについては今回R3年10月～R4年3月末を試用期間に設定し、4月以降に購入タイトルを選定する予定。 ※いつまでに、実行するかも含めて記載ください。</p>

③ 自己点検・評価実施状況(スケジュール)

・点検・評価の実施	・12月16日 附属図書館運営委員会
・評価結果の点検・評価	・1月13日 評価委員会
・対応措置の承認	・1月20日 教育研究評議会
・進捗確認	・4月21日 教育研究評議会

※ 記載いただいた改善計画等については、自己評価書(別紙様式2-3-1)に盛り込む予定です。

(様式1)

附属図書館の施設及び設備に関する自己点検・評価結果を踏まえた

対応措置の実施計画の進捗状況

(改善・向上が必要とされた事項)

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成下さい。

<p>① 担当委員会 (担当委員会を■にして ください。)</p>	<p><input type="checkbox"/> 大学教育推進委員会 <input type="checkbox"/> 施設マネジメント委員会 <input type="checkbox"/> 情報委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 附属図書館運営委員会 <input type="checkbox"/> 学生委員協議会 <input type="checkbox"/> 留学生委員会 <input type="checkbox"/> 入試委員会</p>	
<p>年 月</p>	<p>・ 令和3年12月 ・ 令和4年3月30日</p>	
<p>② 改善・向上が必要とされた事項 (記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」37-42頁をご参照ください。)</p>	<p>予算の縮減に対応して時間外及び土日開館業務の実施規模を見直す。 (開館サービスの関係する事項・職員の配置と活用に関する事項)</p>	
<p>内 容</p>	<p>令和2年度神戸大学附属図書館年次報告 附属図書館事務部</p>	
<p>根 拠</p>	<p>重点施設館を設ける一方、その他の館は実施時間を半分に、業務委託は中止し学生アルバイト雇用に変更する、これらの措置により経費を削減しつつ、より効果的な予算執行の確立を目指し、本年度第2回附属図書館運営委員会にて協議した。協議継続中。</p>	
<p>計画の実施主体</p>	<p>※現時点での状況を記載ください。 <input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()</p>	
<p>計画の進捗状況</p>	<p>R4年度以降の時間外及び土日開館について、本年度第2回附属図書館運営委員会に続き第4回附属図書館運営委員会において協議し、原案が承認された。R4年度開始時より原案の内容で実施することとした。</p>	
<p>前回確認時 (R4.1.20教育研究評議会)からの 進捗状況</p>	<p>事業経費要求の結果、時間外及び土日開館に係る予算措置を受け、それを充当した開館時間の拡大を、R4年度の途中より実施予定。</p>	
<p>今後の予定</p>	<p>※いつまでに、実行するかも含めて記載ください。</p>	

③ 自己点検・評価実施状況 (スケジュール)

・点検・評価の実施	・12月16日 附属図書館運営委員会
・評価結果の点検・評価	・1月13日 評価委員会
・対応措置の承認	・1月20日 教育研究評議会
・進捗確認	・4月21日 教育研究評議会

※ 記載いただいた改善計画等については、自己評価書(別紙様式2-3-1)に盛り込む予定です。

教育課程、学生の受入並びに附属図書館の施設及び設備に関する
自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画
(改善・向上が必要とされた事項)

* 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1事項につき1枚で作成下さい。

<p>① 担当委員会 (担当委員会を ■にしてください。)</p>	<p><input type="checkbox"/> 大学教育推進委員会 <input type="checkbox"/> 施設マネジメント委員会 <input type="checkbox"/> 情報委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 附属図書館運営委員会 <input type="checkbox"/> 学生委員協議会 <input type="checkbox"/> 留学生委員会 <input type="checkbox"/> 入試委員会</p>	
<p>年月</p>	<p>・令和2年11月 ・令和3年2月 ・令和3年12月</p>	
<p>② 改善・向上が必要とされた事項</p>		
<p>内容</p>	<p>書庫スペースの狭小化は進んでおり、除籍基準の見直しなど対策を検討し、資料の適切な保存、書庫環境の改善など今後も努めていく必要がある。(資料の保存に関する事項) ※令和2年度からの継続事項</p>	
<p>根拠</p>	<p>令和元(平成31)年度神戸大学附属図書館年次報告</p>	
<p>計画の実施主体</p>	<p>附属図書館事務部</p>	
<p>対応計画 (改善方針)</p>	<p>・R2年10月、情報管理課資料整備グループに、全館室の資料整備に係る調整を行い、有効的な蔵書構成を図ることを目的に、「整備担当」を設置した。 ・各館室に対し意向調査を実施した。その内容を元に、除籍計画のとりまとめに着手した。 ・「資料収容力確保のための整理指針」の更新内容に従い、廃棄対象とできる製本雑誌のリストを作成した。 (以上、令和3年3月18日、教育研究評議会での進捗状況確認内容) ・「実務指針」を更新した(R3.3.31付) ・意向調査の結果に従い、社会科学系図書館と自然科学系図書館で除籍計画を策定した。(R3年3月) ・重点実施館である自然科学系図書館では当面の除籍作業を達成した。(R3年11月)</p>	
<p>計画の進捗状況</p>	<p><input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他()</p>	
<p>③ 自己点検・評価実施状況(スケジュール)</p>		
<p>・点検・評価の実施</p>	<p>・12月16日 附属図書館運営委員会</p>	
<p>・評価結果の点検・評価</p>	<p>・1月13日 評価委員会</p>	
<p>・対応措置の承認</p>	<p>・1月20日 教育研究評議会</p>	
<p>・進捗確認</p>	<p>・3月17日 教育研究評議会</p>	

附属図書館蔵書・受入等の現況(令和3年度)

		総合・国際	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計		
蔵書	蔵書数 (冊)	494,781	1,421,413	446,550	327,841	346,130	273,288	156,506	57,535	258,583	3,782,627		
	和洋区分	和漢書	352,312	689,148	227,425	210,952	269,399	122,917	74,159	50,230	201,890	2,198,432	
		洋書	142,469	732,265	219,125	116,889	76,731	150,371	82,347	7,305	56,693	1,584,195	
	遊及状況	入力済	467,477	1,301,140	319,845	293,482	296,517	202,631	98,583	57,067	258,583	3,295,325	
		未入力	27,304	120,273	126,705	34,359	49,613	70,657	57,923	468	0	487,302	
	所蔵雑誌数 (タイトル数)		2,458	18,175	5,284	3,661	3,731	6,855	3,044	949	3,105	47,262	
和洋区分	国内雑誌	1,597	6,785	2,297	2,712	2,555	3,129	1,591	753	2,078	23,497		
	外国雑誌	861	11,390	2,987	949	1,176	3,726	1,453	196	1,027	23,765		
図書受入	受入図書数 (冊)	1,951	2,059	8,407	2,976	5,055	3,884	674	971	890	1,543	28,410	
	和洋区分	和漢書	1,897	1,348	5,667	2,398	3,973	3,480	498	925	866	1,407	22,459
		洋書	54	711	2,740	578	1,082	404	176	46	24	136	5,951
	取得手段	購入(一般財源)	1,934	1,370	3,949	1,639	1,745	1,415	287	640	421	1,231	14,631
		補助金による購入	17	595	3,033	697	2,886	633	80	131	266	208	8,546
		一般寄贈	0	74	747	443	386	87	211	122	169	62	2,301
		再受入	0	0	100	6	2	1,644	0	0	0	0	1,752
		製本編入	0	20	568	190	36	105	96	78	34	42	1,169
		所属換	0	0	10	1	0	0	0	0	0	0	11
	取得目的	学生用図書	1,773	328	2,248	1,143	403	476	62	564	379	949	8,325
		図書館備付	156	742	3,659	514	1,476	2,302	468	240	390	294	10,241
		研究室備付	22	989	2,500	1,319	3,176	1,106	144	167	121	300	9,844
	除却・移譲等による減 (冊)		6,327		3,078	6,468	1,104	2,733	2,304	349	858	640	23,861
	和洋区分	和漢書	6,101	1,381	5,656	842	2,479	1,506	321	317	526	19,129	
		洋書	226	1,697	812	262	254	798	28	541	114	4,732	
	所属換による減 (冊)		11	0	0	0	0	0	0	0	0	11	
	和洋区分	和漢書	10	0	0	0	0	0	0	0	0	10	
		洋書	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	年間増加数 (冊)		-2,328	5,329	-3,492	3,951	1,151	-1,630	622	32	903	4,538	
	和洋区分	和漢書	-2,866	4,286	-3,258	3,131	1,001	-1,008	604	549	881	3,320	
洋書		538	1,043	-234	820	150	-622	18	-517	22	1,218		
雑誌受入	受入雑誌数 (タイトル数)	75	124	1,088	282	783	143	477	358	96	207	3,633	
	和洋区分	国内雑誌	70	103	534	230	694	138	381	260	80	168	2,658
		外国雑誌	5	21	554	52	89	5	96	98	16	39	975
	取得手段	購入(一般財源)	75	52	846	174	232	105	129	152	64	87	1,916
		補助金による購入	0	0	36	14	0	0	0	42	2	5	99
		一般寄贈	0	72	206	94	551	38	348	164	30	115	1,618
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	取得目的	学生用雑誌	68	8	14	118	15	62	0	131	61	81	558
		図書館備付	3	77	935	81	768	40	473	164	30	112	2,683
		研究室備付	4	39	139	83	0	41	4	63	5	14	392
その他資料受入	受入新聞数 (タイトル数)	8	0	15	10	6	8	7	5	3	8	70	
	和洋区分	国内新聞	6	0	12	10	4	8	5	4	3	8	60
		外国新聞	2	0	3	0	2	0	2	1	0	0	10
	取得手段	購入	7	0	15	10	6	8	7	5	3	7	68
		寄贈	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	データベース(年間契約点数)		14	0	8	2	0	0	0	4	2	0	30
電子ジャーナル(利用可能数)		37,077											
資料購入費	一般財源資料費	375,926,719	9,400,037	126,948,816	46,832,616	16,228,544	12,462,966	12,995,592	39,560,186	7,220,323	8,367,200	655,942,999	
	図書館セグメント	学生用資料費	6,349,759	2,481,614	7,345,967	8,425,626	2,442,809	3,043,967	407,868	3,810,909	2,376,430	3,228,971	39,913,920
		その他資料費	368,679,902	0	25,433,658	993,227	0	0	0	0	0	200,029	395,306,816
	部局セグメント	館室備付	503,925	4,527,951	85,065,373	9,343,808	10,075,840	4,468,248	12,289,476	33,169,971	4,499,991	4,311,277	168,255,860
		研究室備付	393,133	2,390,472	9,103,818	28,069,955	3,709,895	4,950,751	298,248	2,579,306	343,902	626,923	52,466,403
	その他の財源 補助金等		10,788,079	4,193,752	28,586,112	14,916,173	27,798,824	6,755,566	526,052	4,366,364	522,687	3,267,637	101,721,246
	図書購入費		4,850,778	12,111,368	52,041,315	14,398,685	30,016,559	8,637,365	5,520,731	5,412,600	2,458,313	5,849,534	141,297,248
	和洋区分	和漢書	4,473,679	5,704,461	21,847,878	8,211,223	19,780,119	6,706,794	1,941,926	4,660,937	2,134,449	4,203,553	79,665,019
		洋書	377,099	6,406,907	30,193,437	6,187,462	10,236,440	1,930,571	3,578,805	751,663	323,864	1,645,981	61,632,229
	雑誌購入費		1,391,747	878,431	64,875,961	18,805,000	6,199,079	3,327,126	7,236,055	31,803,214	4,431,237	4,209,304	143,157,154
	和洋区分	国内雑誌	1,214,359	208,876	6,925,262	3,758,200	1,337,098	1,408,579	1,173,798	4,052,712	1,347,470	960,185	22,386,539
		外国雑誌	177,388	669,555	57,950,699	15,046,800	4,861,981	1,918,547	6,062,257	27,750,502	3,083,767	3,249,119	120,770,615
	新聞購入費		379,100	0	1,111,840	375,992	274,952	238,643	219,337	274,952	165,341	336,892	3,377,049
	電子資料費		380,052,719	603,990	32,814,536	21,287,725	3,430,829	789,489	105,754	5,409,312	624,933	8,772	445,128,059
	その他の資料購入費		40,454	0	4,691,276	6,881,387	4,105,949	6,225,909	439,767	1,026,472	63,186	1,230,335	24,704,735
	資料購入費計		386,714,798	13,593,789	155,534,928	61,748,789	44,027,368	19,218,532	13,521,644	43,926,550	7,743,010	11,634,837	757,664,245
	電子コンテンツ作成費		17,290,039										
製本費		46,200	1,339,030	438,900	83,160	242,550	221,760	180,180	78,540	120,010		2,750,330	

* 所蔵雑誌数は雑誌包括所蔵数から誌名変遷数を引いた数値とする(平成23年度変更)

附属図書館サービス業務の現況(令和3年度)

※令和3~4年度に実施中の自然科学系図書館改修に伴う施設・設備の変更は令和4年度版に反映する。

		総合・国際	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計	
施設	施設面積合計(m ²)	3,558	10,308	3,287	1,288	1,474	1,097	1,715	837	2,170	25,734	
	現行用途別(m ²)	サービススペース	1,873	2,003	1,577	664	538	141	792	598	719	8,905
		書庫スペース	1,208	5,771	449	535	714	900	462	97	1,051	11,187
		事務スペース	211	749	351	48	89	27	141	48	159	1,823
		その他	266	1,785	910	41	133	29	320	94	241	3,819
	閲覧座席数	閲覧座席数	389	411	286	122	153	24	225	93	170	1,873
		上のうち、教員用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	書架収容力	棚板延長(m)	12,285	49,003	10,616	8,016	7,857	6,873	6,268	1,920	7,258	110,096
収容可能冊数		341,250	1,361,194	294,888	222,666	218,250	190,916	174,111	53,333	201,611	3,058,219	
利用者端末台数		45	43	38	25	20	1	22	13	16	223	
利用者	利用対象者総数	4,947	3,912	5,860	676	1,140	54	3,926	952	987	22,454	
	利用者別	学部学生	4,365	2,154	2,476	340	630	0	599	501	523	11,588
		大学院生	211	1,156	1,791	212	296	0	546	304	209	4,725
		教職員	359	546	1,593	120	193	54	2,699	147	227	5,938
		その他	11	56	0	4	12	0	82	0	26	191
		学外登録者総数	1	0	0	0	9	0	0	0	2	12
内訳: 卒業生12、放送大学等0、一般市民0												
開館入館	開館日数	年間	236	284	161	236	234	236	238	227	236	2,088
		土曜(内数)	0	48	0	0	0	0	0	0	0	48
		休日(内数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	時間外等開館時間数	平日時間外開館	0	460	0	0	0	0	354	0	0	814
		土曜開館	0	432	0	0	0	0	0	0	0	432
		休日開館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入館者数	年間入館者総数	34,230	46,772	24,982	28,854	14,114	907	22,666	11,913	9,541	193,979
		(内訳)時間内(含:土日)	34,230	42,874	24,982	28,854	14,114	907	21,644	11,913	9,541	189,059
		平日時間外	0	3,898	0	0	0	0	1,022	0	0	4,920
		閉館時(無人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		土曜(内数)	0	5,062	0	0	0	0	0	0	0	5,062
		休日(内数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		学外者(内数)	4	92	0	9	3	4	0	0	5	117
(内訳)卒業生		0	61	0	2	0	0	0	0	1	64	
他大学生・研究者等一般市民	4	23	0	7	3	4	0	0	4	45		
		0	8	0	0	0	0	0	0	0	8	
貸出	貸出総冊数	59,309	58,824	27,542	21,460	23,353	1,295	9,906	9,814	13,486	224,989	
	利用者別	学生	32,732	23,223	17,700	8,027	10,012	369	5,253	5,306	7,442	110,064
		院生	17,076	27,002	7,305	10,216	10,527	521	1,272	3,525	3,532	80,976
		教員	6,573	5,616	1,814	2,651	1,826	226	426	681	1,402	21,215
		職員	2,928	2,955	720	566	988	178	2,955	302	1,104	12,696
		その他	0	2	3	0	0	1	0	0	6	12
		学外者総数	0	26	0	0	0	0	0	0	0	26
		卒業生(内数)	0	22	0	0	0	0	0	0	0	22
一般市民(内数)	0	-	-	-	-	-	-	-	-	0		
参考調査	参考調査件数	2,192	888	1,132	967	954	283	1,768	454	1,081	9,719	
	利用者別	学生	1,853	524	845	736	667	68	690	409	911	6,703
		教職員	337	53	242	216	212	153	651	45	112	2,021
		学外者	2	311	45	15	75	62	427	0	58	995
チャットによる利用者相談		208									208	
複写相互利用	来館複写件数	278	2,231	4,077	1,968	470	165	297	167	105	9,758	
	利用者別	学内者	278	2,224	4,077	1,967	470	145	6	167	104	9,438
		学外者	0	7	0	1	0	20	0	0	1	29
	学内相互利用	ILL文献複写 受付	20	100	49	59	55	0	63	64	25	435
		ILL文献複写 依頼	187	60	197	79	137	0	31	25	23	739
	図書配送	発送申込冊数	7,680	4,913	950	1,303	3,469	379	413	802	1,625	21,534
		受取申込冊数	3,297	2,353	2,404	8,330	2,042	331	1,072	689	1,016	3,056
		申込者数	594	513	523	741	272	35	119	95	164	3,056
	学外相互利用	ILL文献複写 受付	275	3,486	317	361	397	192	1,016	369	164	6,577
		ILL文献複写 依頼	867	725	422	923	918	101	345	293	59	4,653
		ILL現物貸借 受付	644	1,190	54	320	217	30	16	18	107	2,596
		ILL現物貸借 依頼	211	168	81	556	137	3	16	2	28	1,202
海外ILL	文献複写 受付	0	83	0	0	0	1	6	0	4	94	
	文献複写 依頼	0	3	2	7	0	0	0	0	0	12	
	現物貸借 受付	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
	現物貸借 依頼	2	2	0	3	0	0	0	0	0	7	

電子的情報サービスの現況 (R3・2021年度)

電子ジャーナルアクセス状況 ※基盤整備費にかかるもの

	2021.4	2021.5	2021.6	2021.7	2021.8	2021.9	2021.10	2021.11	2021.12	2022.1	2022.2	2022.3	合計
ACS	10,122	11,221	10,964	8,371	7,234	10,091	11,975	11,039	8,234	10,154	8,752	7,602	115,759
APS	845	1,276	1,165	892	785	1,062	1,287	1,188	1,225	1,270	1,115	922	13,032
Cambridge UP	902	982	876	1,070	1,330	1,472	1,076	1,576	2,700	1,029	1,258	1,211	15,482
Elsevier ScienceDirect	53,528	61,686	58,942	49,124	40,909	47,353	54,248	51,229	52,504	52,685	45,295	38,538	606,041
HeinOnline	534	1,256	810	837	563	385	604	623	567	551	509	575	7,814
JSTOR	3,829	4,632	4,633	4,330	3,870	4,604	3,979	5,298	7,328	5,146	3,925	3,246	54,820
Nature	9,758	9,352	10,011	8,844	7,497	8,142	9,019	8,559	8,576	9,137	7,415	7,390	103,700
Ovid	911	1,181	1,027	832	1,027	1,080	953	966	1,048	994	831	1,455	12,305
Oxford UP	4,319	4,947	6,238	5,242	4,466	5,001	5,103	5,100	4,839	5,157	4,581	4,358	59,351
Project Euclid	18	7	17	32	35	34	64	27	92	103	68	79	576
Science Online	1,736	2,307	2,226	1,640	1,344	1,486	1,439	1,722	1,214	1,445	1,319	1,207	19,085
SpringerLINK	14,130	17,505	18,615	13,701	12,616	13,345	14,586	15,000	12,371	15,487	13,206	15,432	175,994
Wiley Online Library	18,759	22,236	21,696	18,663	16,567	18,636	20,439	20,819	22,402	21,154	17,996	17,595	236,962

導入データベース数 ※図書館HP「データベース一覧」より(一般公開分を除く)

全学利用	56	WWW7アクセス
キャンパス限定(医学)	5	医学4(医中誌、EBMR、MEDLINE、Up to date) 保健1(最新看護索引Web)

データベースアクセス状況 ※基盤整備費およびe-study資料費にかかるもの

	2021.4	2021.5	2021.6	2021.7	2021.8	2021.9	2021.10	2021.11	2021.12	2022.1	2022.2	2022.3	合計
Business Source Premier	302 (279)	228 (353)	360 (503)	242 (341)	198 (178)	216 (244)	293 (243)	251 (232)	250 (289)	252 (365)	286 (489)	215 (239)	3,093 (3,755)
CINAHL	81 (197)	75 (582)	139 (605)	60 (325)	41 (126)	66 (176)	62 (168)	64 (147)	41 (139)	26 (79)	41 (109)	60 (218)	756 (2,871)
CiNii	2,739 (9,238)	2,536 (8,426)	2,648 (9,463)	2,090 (6,762)	1,808 (5,409)	1,831 (5,660)	2,632 (8,403)	2,773 (8,541)	2,725 (8,473)	2,085 (5,979)	1,755 (4,967)	1,489 (3,763)	27,111 (85,084)
EconLit	34 (81)	48 (222)	88 (242)	77 (343)	62 (274)	59 (167)	58 (178)	46 (82)	32 (65)	24 (77)	20 (31)	28 (67)	576 (1,829)
Index to Legal Periodicals & Books(EBSCOhost)	20 (42)	25 (136)	76 (215)	21 (122)	12 (30)	29 (56)	29 (72)	33 (46)	21 (44)	16 (45)	10 (14)	16 (30)	308 (852)
JCR	236 (466)	226 (443)	393 (763)	591 (843)	315 (330)	300 (292)	280 (280)	246 (434)	211 (280)	219 (741)	206 (537)	243 (725)	3,466 (6,134)
JDreamIII	20 (52)	301 (1,409)	64 (195)	77 (455)	58 (297)	49 (111)	58 (81)	111 (231)	115 (273)	33 (110)	130 (342)	68 (165)	1,084 (3,790)
Lexis	32 (32)	65 (65)	50 (50)	56 (56)	28 (28)	43 (43)	81 (81)	74 (74)	144 (144)	126 (126)	97 (97)	17 (17)	813 (813)
Academic OneFile	144 (217)	166 (306)	172 (214)	205 (565)	112 (150)	107 (144)	215 (448)	150 (173)	130 (143)	158 (175)	119 (151)	104 (142)	1,782 (2,828)
General OneFile	31 (87)	36 (145)	53 (84)	97 (453)	33 (85)	14 (37)	70 (320)	31 (62)	17 (22)	22 (25)	34 (65)	20 (47)	458 (1,432)
MathSciNet	2,634 (2,634)	2,123 (2,123)	1,991 (1,991)	2,908 (2,908)	3,259 (3,259)	3,751 (3,751)	2,821 (2,821)	2,594 (2,594)	3,154 (3,154)	2,739 (2,739)	2,774 (2,774)	3,172 (3,172)	33,920 (33,920)
OECD iLibrary	85	82	80	53	37	73	79	56	54	53	33	27	712
PhycARTICLES	121 (204)	118 (169)	124 (177)	114 (158)	133 (180)	140 (277)	151 (201)	264 (380)	126 (186)	125 (246)	132 (236)	96 (113)	1,644 (2,527)
PhycINFO	85 (163)	49 (109)	67 (136)	49 (137)	54 (145)	81 (277)	100 (229)	188 (329)	103 (171)	110 (250)	77 (281)	59 (153)	1,022 (2,380)
Readers Guide to Periodical Literature(EBSCOhost)	20 (42)	27 (141)	74 (215)	22 (124)	14 (38)	33 (84)	29 (72)	32 (45)	23 (50)	16 (45)	9 (9)	16 (30)	315 (895)
SciFinder-n / SciFinder	5,453 (5,453)	6,084 (6,084)	8,485 (8,485)	7,264 (7,264)	4,575 (4,575)	5,382 (5,382)	6,452 (6,452)	6,217 (6,217)	4,842 (4,842)	4,953 (4,953)	5,249 (5,249)	4,360 (4,360)	69,316 (69,316)
Web of Science Core Collection	4,088 (12,107)	4,685 (13,430)	5,547 (13,243)	5,653 (12,205)	3,536 (8,303)	4,894 (12,947)	3,838 (15,458)	3,605 (14,361)	3,250 (13,297)	3,496 (13,752)	3,101 (9,371)	2,975 (8,307)	48,668 (146,781)
Westlaw Next	250 (412)	455 (774)	569 (1,567)	390 (760)	287 (581)	325 (567)	216 (479)	257 (535)	327 (625)	322 (716)	391 (656)	317 (1,014)	4,106 (8,686)
医学中央雑誌	3,504 (10,890)	5,946 (9,813)	3,567 (10,248)	3,177 (8,472)	2,943 (7,318)	3,135 (8,059)	2,859 (7,102)	3,401 (10,438)	2,425 (6,409)	2,174 (5,549)	2,881 (7,425)	2,488 (6,148)	38,500 (97,871)
聞蔵IIビジュアル / 朝日新聞クロスサーチ	372 (15,035)	668 (14,015)	872 (16,170)	550 (17,706)	527 (7,388)	429 (6,873)	456 (16,392)	388 (9,757)	526 (10,047)	618 (21,050)	410 (5,247)	297 (3,705)	6,113 (143,385)
ざっさくプラス	31 (61)	34 (82)	39 (85)	26 (57)	28 (90)	52 (129)	27 (67)	27 (76)	36 (65)	44 (236)	34 (88)	27 (67)	405 (1,103)
ジャパンナレッジLib	746 (6,549)	1,538 (14,977)	1,551 (15,240)	1,423 (14,444)	1,135 (10,174)	728 (7,333)	1,375 (14,041)	1,487 (17,625)	1,719 (17,330)	1,486 (15,147)	1,057 (10,421)	557 (6,905)	14,802 (150,186)
ナクソス・ミュージック・ライブラリー	238	240	235	108	104	72	139	133	147	133	146	132	1,827
日経テレコン	139,437	151,323	139,200	123,241	166,857	113,214	140,146	148,761	176,877	98,039	61,271	80,689	1,539,055
毎索	327 (11,094)	344 (15,168)	540 (36,433)	355 (14,809)	347 (22,042)	309 (41,159)	369 (22,290)	356 (26,340)	335 (59,234)	308 (19,833)	205 (7,979)	184 (4,590)	3,979 (280,971)
メディカルオンライン	6,590	7,729	7,128	6,586	6,621	8,466	6,597	7,361	5,810	6,250	6,580	6,999	82,717
ヨミダス歴史館	172 (818)	232 (1,942)	284 (1,935)	185 (1,961)	161 (1,091)	208 (2,305)	199 (2,295)	156 (1,897)	177 (3,206)	184 (1,963)	147 (1,211)	141 (1,066)	2,246 (21,690)

※官報は統計データ未公開

※Web of Science Core Collection:統計取得システムの変更を受け、本年度よりプラットフォーム全体の数値を記録

聞蔵II / 朝日新聞クロスサーチ:3月の数値は両者の合計、ジャパンナレッジLib:同時アクセス数拡大(2021年7月6日~2022年3月31日)

図書館ホームページ、OPAC等アクセス統計

	2021.4	2021.5	2021.6	2021.7	2021.8	2021.9	2021.10	2021.11	2021.12	2022.1	2022.2	2022.3	合計
図書館トップページ	46,109	45,902	43,565	40,313	35,522	31,849	45,919	44,734	38,896	39,090	32,813	26,301	471,013
OPAC延べ検索回数	137,147	155,880	150,914	137,392	124,658	135,521	171,190	142,063	132,119	151,962	127,362	150,568	1,716,776
ディスカバリー延べ検索回数	1,051	1,663	1,674	1,077	1,038	805	1,419	1,216	1,032	1,276	1,128	580	13,959
震災文庫トップページ	1,015	889	894	1,048	1,320	972	1,087	1,096	1,018	1,494	967	934	12,734
うち学内	292	228	192	215	193	249	202	293	267	401	201	222	2,955
うち学外	723	661	702	833	1,127	723	885	803	751	1,093	766	712	9,779
新聞記事文庫トップページ	6,346	6,716	7,092	5,927	6,152	5,839	7,444	5,940	5,699	6,054	5,040	5,485	73,734
うち学内	224	233	742	259	209	251	349	439	359	399	302	260	4,026
うち学外	6,122	6,483	6,350	5,668	5,943	5,588	7,095	5,501	5,340	5,655	4,738	5,225	69,708

リンクリゾルバ(SFX)利用統計

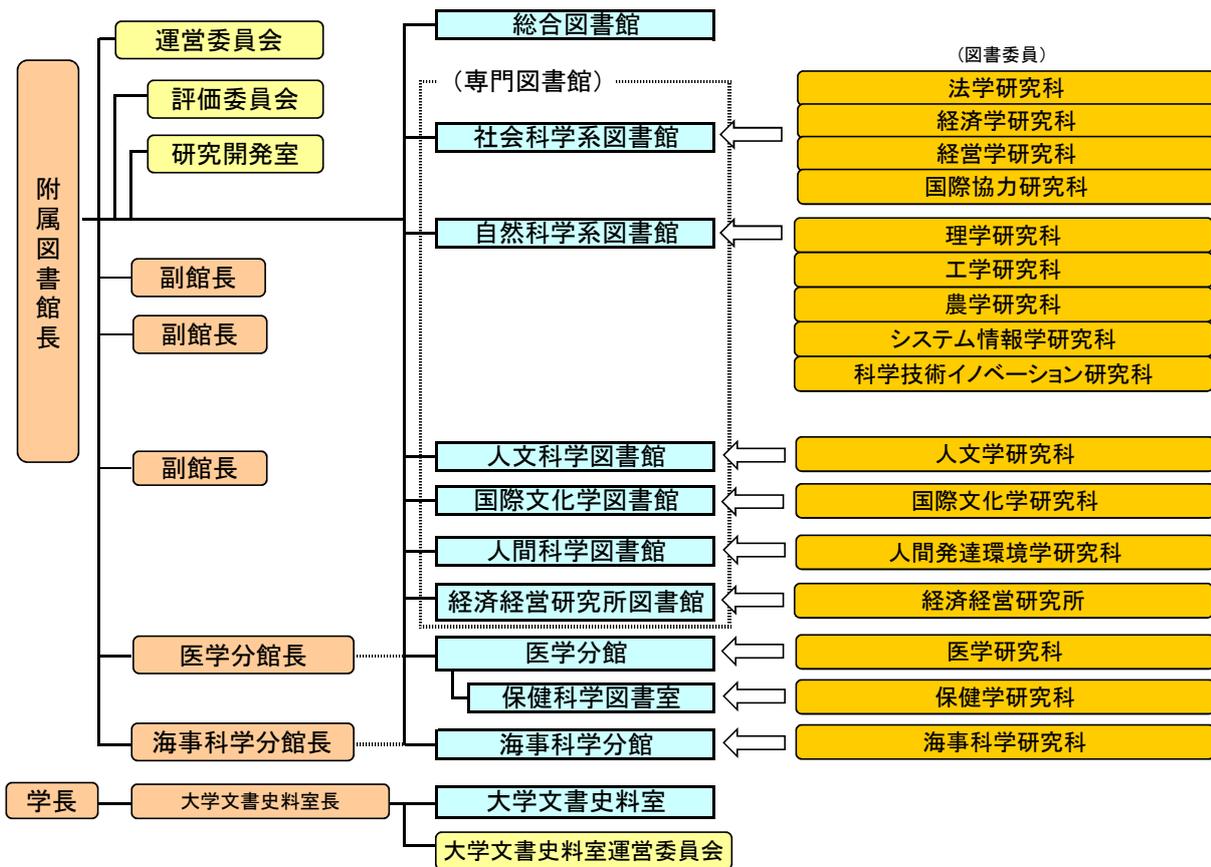
	2021.4	2021.5	2021.6	2021.7	2021.8	2021.9	2021.10	2021.11	2021.12	2022.1	2022.2	2022.3	合計
電子リソースアクセス数	12,916	13,599	13,060	12,585	8,885	10,189	30,280	11,475	9,808	9,142	10,493	14,922	157,354
電子リソースリスト	3,038	2,922	3,223	4,494	2,332	2,312	19,037	2,749	2,282	2,280	2,251	9,087	56,007
DBからのアクセス数	9,878	10,677	9,837	8,091	6,553	7,877	11,243	8,726	7,526	6,862	8,242	5,835	101,347
→フルテキスト	7,418	7,577	7,791	7,207	5,181	5,699	13,848	6,492	5,181	5,483	6,159	4,683	82,719
→所蔵検索数	1,231	1,291	1,229	880	766	846	977	992	937	683	742	581	11,155
→文献複写依頼	164	245	184	171	170	168	200	158	151	107	108	111	1,937

※アクセス数:電子リソースリストやDBからのSFXリンクアイコン総アクセス数、所蔵検索数:OPAC、Webcatのアクセス回数

各DB(CiNii、WoS、JDreamIII、PubMed、医中誌など)へのSFXのリンク設定

附属図書館組織

(令和4年7月現在)



各専門図書館、分館及び保健科学図書室に、各館(室)の図書委員会を置く。

事務組織と職員配置

(令和4年7月現在)

		係名	正規	準正規	非常勤	館室名	
事務部長	情報管理課 (社)	企画係	2		1	社会科学系図書館	
		管理係	3		0		
		資料整備グループ受入担当	2	1	1		
		資料整備グループ雑誌担当	2		1		
		資料整備グループ目録担当	1	1	2		
		資料整備グループ整備担当	(1)		0		
		電子情報グループ電子図書館担当	2		5		
		電子情報グループ震災文庫担当	1		1		
	社会科学系情報サービス係	2		6			
	情報サービス課 (自)	課長補佐 (自)	電子情報グループ情報システム担当	3		0	自然科学系図書館
			自然科学系情報サービス係	3		2	
		課長補佐 (総:欠)	人文科学情報サービス係	3		2	人文科学図書館
			情報リテラシー係	2		0	総合図書館・
			総合・国際文化学情報サービス係	2		4	国際文化学図書館
			人間科学情報サービス係	2	1	2	人間科学図書館
課長補佐 (医:欠)	海事科学情報サービス係	2		3	海事科学分館		
	医学情報サービス係	3		4	医学分館		
大学文書史料室長	課長補佐 (医:欠)	保健科学情報サービス係	2		1	保健科学図書室	
		大学文書史料室	2		2	大学文書史料室	
		神戸大学出版会	(1)			大学文書史料室	

附属図書館 正規職員42名 準正規職員3名 非常勤職員35名
 大学文書史料室 正規職員 2名 非常勤職員 2名
 * 非常勤職員数は、夜間開館要員等、特定事業に関わるものを除く

経済経営研究所事務課長	経済経営研究所事務課図書係	3	0	0	経済経営研究所図書館
-------------	---------------	---	---	---	------------

令和3年度附属図書館諸会議一覧

<附属図書館運営委員会>

第1回： 7月6日（火）13：20～ （於：Web会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- (1) 令和2年度決算について
- (2) 令和3年度電子図書館事業について
- (3) 令和3年度総合図書館学生用資料整備計画について
- (4) 令和4年度外国雑誌センターの予算について
- (5) 附属図書館今後10年の運営方針の改訂について
- (6) 資料の不用決定について
- (7) その他

報告事項

- (1) 附属図書館予算の現状について
- (2) ジャーナル問題について
- (3) 研究データの管理・利活用について
- (4) 2022年外国雑誌購読調査について
- (5) 令和2年事業年度に係る業務の実績について
- (6) 新型コロナウイルス感染拡大防止に係る附属図書館の利用について
- (7) 令和3年度前期情報リテラシー事業実施報告
- (8) 各図書館・室報告について

第2回： 11月2日（火）13：20～ （於：Web会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- (1) 収入確保策（ネーミングライツ）について
- (2) 2022年度以降の時間外開館について
- (3) 令和2年度附属図書館年次報告（評価委員会案）について
- (4) 資料の不用決定について
- (5) その他

報告事項

- (1) 2022年の教育研究基盤資料の整備
- (2) 2021（R3）年度の図書館サービス方針について
- (3) 新型コロナウイルス感染拡大防止に係る図書館サービスについて
- (4) スマホ入館について
- (5) 令和4年度外国雑誌センター購読内容について
- (6) 各図書館・室報告について
- (7) その他

第3回： 審議期間 12月9日（木）～ 16日（水） （メール回議）

審議事項

- (1) 内部質保証「結果を踏まえた改善事項」について
- (2) 令和4年度予算要求について

第4回： 1月25日（火）13：20～ （於：Web会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- (1) 令和4年度学生用資料費について

- (2) 令和4年度 E-Study 資料について
- (3) 令和4年度以降の時間外開館について
- (4) 令和4年度附属図書館開館日について
- (5) 神戸大学機関リポジトリ運用指針の改正について
- (6) 資料の不用決定について
- (7) その他

報告事項

- (1) 自然科学系図書館改修中のサービスについて
- (2) トークイベント「外国語授業のその先に」実施報告について
- (3) オンライン読書室実施報告について
- (4) 学生選書ツアー2021 電子ブックリクエストキャンペーン実施報告について
- (5) SDGs 推進室/V.School 推薦図書巡回展示について
- (6) 各図書館・室報告について
- (7) その他

第5回： 3月30日（水）15:10～ （於：Web会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- (1) 令和4年度附属図書館当初予算配分について
- (2) 令和4年度時間外開館の変更案について
- (3) 自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況について
- (4) 令和2年度総合図書館学生用図書選定結果と評価について
- (5) 附属図書館審議会規則及び運営委員会規程の一部改正について
- (6) 資料の不用決定について
- (7) その他

報告事項

- (1) KU ビジョン2030について
- (2) 令和4(2022)年度の図書館サービス方針について
- (3) 新型コロナウイルス感染拡大防止に係る図書館サービスについて
- (4) 情報リテラシー事業 令和3年度報告・令和4年度計画について
- (5) 令和2(2020)年度購入電子書籍コンテンツ利用状況
- (6) 電気料金等価格上昇対応について
- (7) 各図書館・室報告について
- (8) その他

<附属図書館長・副館長・分館長懇談会>

第1回： 4月30日（金）※神戸大学出版会運営委員会終了後

（於：Web会議、自然科学系図書館4階会議室）

議 題

- (1) 附属図書館の概要・課題・副館長の担当について

第2回： 6月29日（火）13:20～（於：Web会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- (1) 令和2年度決算について
- (2) 令和3年度電子図書館事業について
- (3) 令和3年度総合図書館学生用資料整備計画について

- (4) 令和4年度外国雑誌センターの予算について
- (5) 附属図書館今後10年の運営方針の改訂について
- (6) その他

第3回： 10月26日（金）13:20～（於：Web会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- (1) 収入確保策（ネーミングライツ）について
- (2) 2022年度以降の時間外開館について
- (3) 令和2年度附属図書館年次報告（評価委員会案）について
- (4) その他

第4回： 1月24日（月）15:10～（於：Web会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- (1) 令和4年度学生用資料費について
- (2) 令和4年度E-Study資料について
- (3) 令和4年度以降の時間外開館について
- (4) 令和4年度附属図書館開館日について
- (5) 神戸大学機関リポジトリ運用指針の改正について
- (6) その他

第5回： 3月22日（火）13:20～（於：Web会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- (1) 令和4年度附属図書館当初予算配分について
- (2) 令和4年度時間外開館の変更案について
- (3) 自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況について
- (4) 令和2年度総合図書館学生用図書選定結果と評価について
- (5) 附属図書館審議会規則及び運営委員会規程の一部改正について
- (6) その他

<附属図書館評価委員会>

第1回： 8月23日（火）～9月10日（金）（メール回議）

議題

- (1) 令和2年度神戸大学附属図書館年次報告について

第2回： 3月22日（火） ※館長・副館長・分館長懇談会終了後
（於：Web会議、社会科学系図書館館長室）

議題

- (1) 令和3年度部局年次計画の実績報告（回答案）について

<附属図書館研究開発室会議>

電子化部会 第1回： 5月13日（木）～5月20日（木）（メール回議）

報告事項

- (1) 令和2年度電子図書館事業報告
- (2) 令和2年度学術成果リポジトリ事業報告

協議事項

- (1) 令和3年度電子図書館事業計画（案）について

教育研究支援部会 懇談会： 3月25日（金） 10：00～11：00 （Web 会議）
議題

- (1) 令和3年度情報リテラシー教育実施報告
- (2) 令和4年度情報リテラシー事業計画

<情報サービス課連絡会議>

第1回： 4月16日（木） 10：00～11：40 （Web 会議）

議題 （各館室報告に続き）

- (1) 入館者制限について
- (2) 学外利用者（卒業生含む）の利用症更新について
- (3) 施設利用、貸出物品の提供について
- (4) 学生雇用について
- (5) Windows ログインパスワードについて

第2回： 5月20日（木） 10：00～11：00 （Web 会議）

議題 （各館室報告に続き）

- (1) 緊急事態宣言解除後の図書館の利用方針について
- (2) 時間外開館と学内ワークスタディについて

第3回： 6月10日（木） 10：00～11：00 （Web 会議）

議題 （各館室報告に続き）

- (1) 第1Qの図書館サービスについて（運営委員会資料）
- (2) 夏季長期貸出について

第4回： 7月8日（木） 10：00～10：45 （Web 会議）

議題 （各館室報告に続き）

- (1) 自然系改修後の共同利用書庫の運用について
- (2) 学生雇用について
- (3) 訪問利用申請のオンライン化案

第5回： 8月5日（木） 10：00～10：50 （Web 会議）

議題 （各館室報告に続き）

- (1) アジア経済研究所との図書館共同利用制度について
- (2) 入金期日について
- (3) 書庫の利用等に関する各館 HP 記載
- (4) 固有の利用条件のある利用者に関する規程・内規について

第6回： 9月9日（木） 10：00～11：20 （Web 会議）

議題 （各館室報告に続き）

- (1) 訪問利用申請のオンライン化案（2）
- (2) 附属学校へのサービスについて
- (3) 後期の図書館サービスについて
- (4) 職員に感染者が発生した場合のサービス業務の対応準備について
- (5) 「図書紛失届（図書弁償届）の押印廃止について

第7回： 10月14日（金） 10：00～11：30 （Web 会議）

議題 （各館室報告に続き）

- (1) 冬季貸出について

- (2) 図書館の財政状況について
- (3) R4年度(以降)の図書館利用案内発行について(学内ガイダンス資料ペーパーレス化)
- (4) R4年度時間外開館要員募集について
- (5) EUIJ関西登録者の利用について
- (6) 業務改善:連番2020-19非常勤講師の有効期限を通年有効に

第8回: 10月27日(金) 10:00~(Web会議)

議題

- (1) 2022年度以降の時間外開館の見直し
- (2) 2022年度時間外要員雇用について
- (3) 第2回附属図書館運営委員会の議題について

第9回: 11月18日(木) 10:00~11:30(Web会議)

議題 (チャットレファレンスのデモンストレーション、各館室報告に続き)

- (1) 視聴覚資料の貸出について
- (2) 業務改善:連番2020-18 ILL料金設定について
- (3) 利用案内2022について
- (4) 2022(R4)年度以降の時間外開館について

第10回: 12月9日(木) 10:00~11:10(Web会議)

議題 (各館室報告に続き)

- (1) 最大入館者数の見直しについて
- (2) レファレンス(参考調査)ページの一部改訂について
- (3) 学生アルバイトについて
- (4) 2022(R4)年度以降の時間外開館について

第11回: 1月13日(木) 10:00~11:00(Web会議)

議題 (各館室報告に続き)

- (1) 図書館ウェブサイトの多言語対応化について
- (2) 卒業生の利用証発行について
- (3) 春季貸出について
- (4) 2022(R4)年度以降の時間外開館について

第12回: 2月10日(木) 10:00~11:00(Web会議)

議題 (各館室報告に続き)

- (1) 業務改善について
- (2) 入学試験に伴う開館時間変更・休館
- (3) 春季休業期と次年度の図書館開館方針について
- (4) 職員に感染者が発生した場合の図書館業務の対応準備について
- (5) 次年度開館カレンダー(暫定版)について

第13回: 3月11日(金) 10:00~10:40(Web会議)

議題 (各館室報告に続き)

- (1) 2022年度の附属図書館利用について(広報)
- (2) 今後の卒業年度生への返却案内について

<附属図書館運営委員会委員名簿>

	職名	氏名	任期等
附属図書館長	国文・教授	櫻井 徹	R3. 4. 1～R5. 3. 31
副館長 (社会科学系・図書委員長)	法・教授	井上 典之	R3. 4. 1～R5. 3. 31
副館長 (自然科学系・図書委員長)	農・教授	藤嶽 暢英	R3. 4. 1～R5. 3. 31
副館長 (附属図書館評価委員長)	国文・教授	長 志珠絵	R3. 4. 1～R5. 3. 31
医学分館長	医・教授	中村 誠	R3. 4. 1～R5. 3. 31
海事科学分館長	海・教授	若林 伸和	R3. 4. 1～R5. 3. 31
大学教育推進機構	教授	山内 乾史	R3. 4. 1～R4. 3. 31
人文学研究科	教授	市澤 哲	R3. 4. 1～R5. 3. 31
国際文化学研究科	教授	小笠原 博毅	R3. 4. 1～R5. 3. 31
人間発達環境学研究科	教授	鳥居 深雪	R2. 4. 1～R4. 3. 31
法学研究科	教授	小田 直樹	R3. 4. 1～R5. 3. 31
経済学研究科	教授	奥西 孝至	R2. 4. 1～R4. 3. 31
経営学研究科	教授	藤原 賢哉	R2. 4. 1～R4. 3. 31
理学研究科	教授	播磨 尚朝	R2. 4. 1～R4. 3. 31
保健学研究科	教授	古和 久朋	R2. 4. 1～R4. 3. 31
工学研究科	教授	西山 覚	R3. 4. 1～R5. 3. 31
システム情報学研究科	教授	田中 茂典	R2. 4. 1～R4. 3. 31
農学研究科	教授	野村 啓一	R2. 4. 1～R4. 3. 31
国際協力研究科	教授	土佐 弘之	R2. 4. 1～R4. 3. 31
科学技術イノベーション研究科	経営・教授	尾崎 弘之	R2. 4. 1～R4. 3. 31
経済経営研究所	教授	佐藤 隆広	R3. 4. 1～R5. 3. 31
情報基盤センター	教授	鳩野 逸生	R2. 4. 1～R4. 3. 31
附属図書館	事務部長	村上 健治	-----

<附属図書館評価委員会委員名簿>

職名 (委員は全て官職指定)	氏名	備考
附属図書館長	櫻井 徹	
副館長	井上 典之	
副館長	藤嶽 暢英	
副館長	長 志珠絵	委員長
医学分館長	中村 誠	
海事科学分館長	若林 伸和	
事務部長	村上 健治	
情報管理課長	矢野 真弓	
情報サービス課長	中山 貴弘	

<附属図書館研究開発室室員名簿>

所 属	職 名	氏 名	任期・関連する事業
総括	附属図書館長	櫻井 徹	室長
電子化部会	文・特命講師	吉川 圭太	R3. 4. 1～R5. 3. 31 (震災関連資料電子化)
	文・准教授	梶尾 文武	R2. 4. 1～R4. 3. 31 (国文学研究資料館古典籍データベース)
	研究所・准教授	高槻 泰郎	R2. 4. 1～R4. 3. 31 (新聞記事文庫電子化)
	図・電子図書館担当専門職員	花崎佳代子	R3. 7. 1～R5. 6. 30
	図・震災文庫担当専門職員	井庭 朗子	R3. 4. 1～R5. 3. 31
教育研究支援部会	大教・教授	山内 乾史	R3. 4. 1～R4. 3. 31
	大教 国際コミュニケーションセンター・教授	石川慎一郎	R3. 4. 1～R5. 3. 31
	国文・准教授	清光 英成	R2. 4. 1～R4. 3. 31
	図・情報サービス課課長補佐	笠原 夕美	R3. 7. 1～R5. 6. 30
	図・情報リテラシー係長	田中志瑞子	R3. 4. 1～R5. 3. 31
(部会に属さず)	基盤セ・教授	鳩野 逸生	R2. 4. 1～R4. 3. 31 (情報システム)

<附属図書館研究開発室 電子化部会震災関係資料小委員会委員名簿>

令和3年7月1日現在

所属	職名	氏 名	任期
委員長 人文学研究科	特命講師	吉川 圭太	※R3. 4. 1～R5. 3. 31
委員 附属図書館	専門職員	花崎 佳代子	※R3. 7. 1～R5. 6. 30
委員 附属図書館	専門職員	井庭 朗子	※R3. 4. 1～R5. 3. 31
専門委員 都市安全研究センター	教授	北後 明彦	R3. 1. 1～R4. 3. 31
専門委員 人文学研究科	特命助教	加藤 明恵	R3. 1. 1～R4. 12. 31
専門委員 人文学研究科	学術研究員	佐々木 和子	R3. 1. 1～R4. 12. 31

※研究開発室室員の任期とする

令和3年度 附属図書館決算

1. 既定経費

(単位:円)

事 項	令和3年度 予算配分額 (当初) (A)	令和3年度 予算配分額 (追加等) (B)	令和3年度 予算配分総額 (C)	令和3年度 執行額 (D)	残額 (C-D)	摘 要 適要欄()内 単位:千円
A. 経常運営費						
(1) 備品・消耗品費	5,100,000		5,100,000	6,663,460	△ 1,563,460	図書館用品(1,099)、蛍光灯類(803)、事務用品(417)、電算用品(265)、用紙類(224)、備品・什器類(50)、雑用品(946) パソコン搬入:デスクトップ25台(2,045)、ノート8台(761)、ディスプレイ3台(53)
(2) 事務用図書費	300,000		300,000	260,470	39,530	事務用図書、事務用雑誌
(3) 印刷製本費	300,000		300,000	54,788	245,212	利用案内等
(4) 光熱水料	21,600,000	27,517	21,627,517	17,578,465	4,049,052	【予算】令和3年度課外活動設備維持費配分(27) 【執行】電気料(14,113)、ガス料(1,945)、上下水道料(1,520)
(5) 通信運搬費	6,000,000		6,000,000	5,766,820	233,180	書籍等運送業務(3,183)、宅配便(1,639)、郵便料(635)、電話料(309)
(6) 借料及び損料	1,300,000		1,300,000	956,097	343,903	複写機保守費
(7) 雑務等諸経費	32,000,000		32,000,000	36,024,334	△ 4,024,334	清掃業務(10,844)、EV保守(5,837)、警備業務(5,293)、構内施設設備保守(2,833)、機器修理(2,168)、特高保守(2,073)、消防設備保守修繕(1,080)、蔵書点検業務(886)、廃棄物処理(794)、空調保守修繕(777)、建物修繕(443)、電話交換保守(352)、諸会費(335)、除草予定(289)、空調フィルター清掃(282)、鶴甲1役務案分(232)、給水設備保守修繕(158)、その他役員(1,348)
(8) 非常勤職員給与等	74,000,000		74,000,000	70,208,316	3,791,684	非常勤職員人件費
(9) 電子計算機維持経費	210,000		210,000	210,000	0	情報基盤センター利用負担金
(10) 職員旅費	500,000		500,000	59,410	440,590	会議・研修会・講習会旅費(54)、バス・地下鉄・私鉄カード(5)
(1)～(11)小 計	141,310,000	27,517	141,337,517	137,782,160	3,555,357	
B. 経常事業費						
(1) 時間外開館経費	8,250,000		8,250,000	7,475,160	774,840	新型コロナウイルス感染症により時間外開館縮小(業務委託2館:社会・医学・保健は中止)
学生	2,750,000		2,750,000	1,160,671	1,589,329	学生利用の時間外開館中止 ⇒ 院生利用による新聞記事データベース公開作業を実施
(2) 電子図書館事業	7,904,000		7,904,000	7,887,307	16,693	研究開発室へ決算報告
(3) その他事業費(展示会経費)	150,000		150,000	0	150,000	新型コロナウイルス感染症によりデジタル資料展を開催
(4) 図書館資料費	72,564,000		72,564,000	71,779,357	784,643	
学生用資料費	40,000,000		40,000,000	39,913,920	86,080	
学生用資料費(重点配分)	1,500,000		1,500,000	1,493,078	6,922	電子ブック(総合・国際文化学図書館42件、自然科学学図書館75件) シラバス連携図書(海科学分館45件)
e-study資料費	4,664,000		4,664,000	4,939,454	△ 275,454	ジャーナルレトリバル(百科事典・辞典等データベース)の同時アクセス数を拡大
震災文庫資料費	400,000		400,000	438,212	△ 38,212	
外国雑誌センター館経費	26,000,000		26,000,000	24,994,693	1,005,307	
(5) 製本費	1,000,000		1,000,000	1,060,180	△ 60,180	
(6) 附属図書館長裁量経費	18,555,000	△ 12,909,840	5,645,160	11,567,000	△ 5,921,840	【予算】令和2年度学内預り金制度(5,000)、令和3年度学内預り金制度(-18,000) 大学文書史料室:前年度繰越(-280)、自然科学系図書館改修費(1,000) 出版会:前年度繰越(-630) 【執行】 総合:国際文化学図書館整備(計3,305):防犯カメラ更新(1,155)、書庫除湿機3台更新(1,138)、貴重書濃縮キャビネット2台更新、総合視示板新設等 -社会科学系図書館整備(計731):書庫暗幕設置、ボックスキャナ購入等 -自然科学系図書館整備(計1,546):什器更新、木製家具解体作業、冷蔵庫更新・ポータル電源購入等 -人間科学系図書館整備(計1,124):防犯カメラ更新(1,045)、放送設備増設等 -医学分館整備(計2,483):防犯カメラ更新(1,172)、ブランド更新、網戸新設、閲覧室整備等 -保健科学系図書館整備(計530):照明設置、ミーティングテーブル・スクリーン・モニター更新等 -海科学分館整備(計1,848):防犯カメラ更新(1,722)、書庫1階照明制御改修等
(7) 研究科長等運営経費返却分	400,000		400,000	400,000	0	平成30年度目録検索用端末更新(chromebox)借入(2,000) (令和元年度～令和5年度返済 @400千円×5年)
(1)～(7)小 計	111,573,000	△ 12,909,840	98,663,160	101,329,675	△ 2,666,515	
運営費+事業費	252,883,000	△ 12,882,323	240,000,677	239,111,835	888,842	
C. 大学文書史料室						
運営経費	6,216,000	△ 720,000	5,496,000	5,157,197	338,803	【予算】前年度繰越(280)、自然科学系図書館改修費(-1,000) 令和4年度繰越(338)
附属図書館+大学文書史料室 既定経費 計	259,099,000	△ 13,602,323	245,496,677	244,269,032	1,227,645	

2. 収入確保インセンティブ経費等から繰入

事 項	令和3年度 予算配分額 (当初) (A)	令和3年度 予算配分額 (追加等) (B)	令和3年度 予算配分総額 (C)	令和3年度 執行額 (D)	残額 (C-D)	摘 要
D. 収入確保インセンティブ経費等						
(1) 建物老朽化対策経費		△ 4,478,780	△ 4,478,780	0	△ 4,478,780	施設部予算へ(4,127) 人文科学系図書館追加負担(280)、海科学分館追加負担(71)
(2) ILL 費用計上			0	1,780,048	△ 1,780,048	文献複写等 他大学へ依頼分(1,780)
(3) ILL 管理運営経費			0	2,128,777	△ 2,128,777	ILL関係消耗品(図書館用品、用紙類、事務用品等)
(4) 出版会 出版経費			0	924,000	△ 924,000	出版経費(制作・販売費)等
収入確保インセンティブ経費等 小計	0	4,832,825	4,832,825	4,832,825	0	
1. 既定経費+2. 収入確保インセンティブ経費等 総計	259,099,000	△ 8,769,498	250,329,502	249,101,857	1,227,645	令和4年度繰越

3. 臨時的経費等(参考)

事 項	令和3年度 予算配分額 (当初) (A)	令和3年度 予算配分額 (追加等) (B)	令和3年度 予算配分総額 (C)	令和3年度 執行額 (D)	残額 (C-D)	摘 要
E. 電算機借料						
情報化推進経費(図書館システム)	45,411,840	0	45,411,840	45,411,840	0	令和3年4月～令和4年3月
小 計	45,411,840	0	45,411,840	45,411,840	0	
F. 臨時的経費						
教育研究基盤資料整備費	363,440,626	8,229,390	371,670,016	371,670,016	0	SciFinder受益者負担金(8,229)
学内フースタディ実施経費	636,000	173,340	809,340	809,340	0	【予算】国際部より予算振替(150)、追加予算配分(23) 各館室業務補助員
神戸大学出版会事業	400,000	0	400,000	400,000	0	出版会管理運営経費(事務費)
戦略的経費(防災設備点検)	—	68,200	68,200	68,200	0	防災設備点検
労働安全衛生対策経費	—	9,242	9,242	9,242	0	第一種衛生管理者試験に係る費用1名
施設整備費(ライフライン再生工事)	—	3,486,705	3,486,705	3,486,705	0	(六甲台2)ライフライン再生Ⅲ(受変電設備等)工事
入退館管理システム	—	19,360,000	19,360,000	19,360,000	0	入退館管理システム3館(総合・国際文化学図書館、人間科学図書館、海科学分館)
自然科学系図書館改修	—	—	—	—	—	—
移転費	42,376,000	0	42,376,000	42,376,000	0	書架移転(27,900)、什器移転(10,450)、図書館システム移転(2,439)、教育用端末移転(462)、AP等移転(290)、入退館管理システム移転(231)、電話移転(177)、除湿機移転(176)、木製家具撤去(87)、書架移転(55)、複写機移転(44)、監視カメラ移転(33)、消火器処分(16)、テレビ・洗濯機リサイクル料(16)
施設整備費	—	219,881,200	219,881,200	219,881,200	0	改修工事(171,160)、機械設備工事(43,900)、建築設計業務(3,494)、増築棟用地等調整調査業務(1,327)
附帯事務費	—	33,560,000	33,560,000	33,560,000	0	建築設計業務(2,125)、設備設計業務(12,100)、昇降機設備大使調査業務(205)
集密書架新設(増築棟)	—	53,350,000	53,350,000	53,350,000	0	自然科学系図書館増築棟 集密書架新設
社会科学系図書館外壁工事	—	—	—	—	—	—
環境・安全推進事業	—	781,000	781,000	781,000	0	社会科学系図書館管理棟外壁調査
建物老朽化対策経費	—	7,944,200	7,944,200	7,944,200	0	社会科学系図書館管理棟外壁撤去工事(7,359)、外壁タイルクラック応急対策工事(585)
プロジェクト予算	—	10,450,000	10,450,000	10,450,000	0	社会科学系図書館管理棟外壁撤去工事
学内営繕・エコ対策経費	—	1,080,596	1,080,596	1,080,596	0	社会科学系図書館正面玄関仮設スロープ設置工事(298)、西側開閉改修工事(782)
小 計	406,852,626	358,373,873	765,226,499	765,226,499	0	
G. 外部資金						
田嶋記念大学図書館振興財助成金	1,500,000	0	1,500,000	0	1,500,000	医学分館設備整備(キヤレデスク6台、大型本架1台)
神戸大学基金(新型コロナウイルス感染症対策募金)	2,400,000	0	2,400,000	2,400,000	0	学生用電子ブック購入 計222件(シラバス掲載図書216件、参考図書6件)
国文学研究資料館(資料修復費)	—	356,980	356,980	356,980	0	歴史的関与事業 撮影契約等は 国文学研究資料館が実施
聖子基金	429,843	397,000	826,843	320,459	506,384	山口文庫関連書籍購入費(含:図書出版経費297) 残額は令和4年度繰越
神戸大学出版会出版基金	47,500	0	47,500	0	47,500	令和4年度繰越
神戸大学出版会出版事業助成金(KTC)	980,000	0	980,000	0	980,000	令和4年度繰越
小 計	5,357,343	753,980	6,111,323	3,077,439	3,033,884	
臨時的経費等 計	457,621,809	359,127,853	816,749,662	813,715,778	3,033,884	

令和3年度 図書資料費実績

(附属図書館セグメント)

単位:円

館室名	学生用資料				** 重点配分	震災文庫 資料費	外国雑誌 センター	e-study 事業費	*** その他	**** 教育研究基盤 資料整備費	計 *****
	予算額 *	決算額 *	比較増減	図書購入冊数							
総合図書館	6,350,000	6,349,759	241	1,773	299,822			4,939,454		363,440,626	375,029,661
社会科学系図書館	7,346,000	7,345,967	33	2,248		438,212	24,994,693		753		32,779,625
自然科学系図書館	8,419,000	8,425,626	△ 6,626	1,143	993,227						9,418,853
人文科学図書館	2,443,000	2,442,809	191	403							2,442,809
国際文化学図書館	2,482,000	2,481,614	386	328							2,481,614
人間科学図書館	3,044,000	3,043,967	33	476							3,043,967
経済経営研究所図書館	408,000	407,868	132	62							407,868
医学分館	3,811,000	3,810,909	91	564							3,810,909
保健科学図書室	2,468,000	2,376,430	91,570	379							2,376,430
海事科学分館	3,229,000	3,228,971	29	949	200,029						3,429,000
小計	40,000,000	39,913,920	86,080	8,325	1,493,078	438,212	24,994,693	4,939,454	753	363,440,626	435,220,736

注* 図書その他 雑誌・新聞・電子資料などを含む

注** 本年度限り 電子ブック導入(総合、自然)、シラバス資料整備(海事)

注*** 電子図書館事業費の複写費

注**** 電子ジャーナル経費

注***** これ以外に、電子コンテンツ作成費 17,290,039円がある

(部局セグメント)

単位:円

館室名	一般財源 図書資料費		
	館室備付 共同利用	研究室等 備付	計
総合図書館	503,925	393,133	897,058
社会科学系図書館	85,065,373	9,103,818	94,169,191
自然科学系図書館	9,343,808	28,069,955	37,413,763
人文科学図書館	10,075,840	3,709,895	13,785,735
国際文化学図書館	4,527,951	2,390,472	6,918,423
人間科学図書館	4,468,248	4,950,751	9,418,999
経済経営研究所図書館	12,289,476	298,248	12,587,724
医学分館	33,169,971	2,579,306	35,749,277
保健科学図書室	4,499,991	343,902	4,843,893
海事科学分館	4,311,277	626,923	4,938,200
計	168,255,860	52,466,403	220,722,263

(部局セグメント)

単位:円

館室名	補助金等による購入				
	科研費	委任経理	受託研究	その他 *	計
総合図書館	118,235	0	0	10,669,844	10,788,079
社会科学系図書館	21,324,899	1,104,593	3,115,191	3,041,429	28,586,112
自然科学系図書館	10,627,573	1,410,041	2,525,144	353,415	14,916,173
人文科学図書館	19,884,856	137,618	4,164,549	3,611,801	27,798,824
国際文化学図書館	3,202,892	191,732	568,541	230,587	4,193,752
人間科学図書館	6,043,135	11,385	194,197	506,849	6,755,566
経済経営研究所図書館	508,629	0	0	17,423	526,052
医学分館	741,587	2,817,991	733,130	73,656	4,366,364
保健科学図書室	256,875	0	33,298	232,514	522,687
海事科学分館	1,201,124	1,113,152	0	953,361	3,267,637
計	63,909,805	6,786,512	11,334,050	19,690,879	101,721,246

単位:円

合計
386,714,798
155,534,928
61,748,789
44,027,368
13,593,789
19,218,532
13,521,644
43,926,550
7,743,010
11,634,837
757,664,245

注* 神戸大学基金(新型コロナウイルス感染症対策募金)による学生用電子ブック購入費 2,400,000円を含む

2021（令和3）年度 附属図書館活動日誌

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面会議やイベントの中止や変更があった

- < 4月 > 【開催せず】附属図書館令和3年度着任式
- 1（木）～6月11日 図書館セルフツアー <於：社会科学系図書館、総合・国際文化学図書館、研究所図書館>
- 3（火） 入学式 <於：神戸国際展示場>
- 5（月）～5月5日 兵庫県にまん延防止等重点措置が適用される
- 5（月） 国際文化学研究科カレッジ<於：国際文化学研究科学舎 F301 教室>
- 12（月） 保健科学図書室リニューアルオープン
- 産業医職場巡視 <於：海事科学分館 立会い：補佐、係長1名>
- 12（月）～5月28日 図書館セルフツアー <於：自然科学系図書館>
- 12（月）～6月11日 図書館セルフツアー <於：人文科学図書館、海事科学分館>
- 15（水） ホターカレッジ（保健）<於：名谷 D101 教室 説明：リテラシー係>
- 16（木） サービス課連絡会議（Zoom）
- 図書館システム導入説明会<於：自然科学系図書館会議室>
- 19（月） 自然・理学部化学科初年次セミナー
<於：理学部 Y 棟 202 号室 説明：係員1名>
- 【オンライン開催】国立大学図書館協会近畿地区総会
<参加：館長、部長、情報サービス課長>
- 20（火） オンラインセッションと震災文庫に関する打合せ <於：社会科学系図書館会議室
出席：情報管理課課長補佐、電子図書館担当専門職員、
震災文庫担当専門職員、係員1名>
- 【オンライン開催】ホターカレッジ（人間）
<説明：係員（人間）1名、リテラシー係>
- 23（金） 海洋政策科学部初年次セミナー
【中止】経済学部初年次セミナー
【中止】国際人間科学部グローバル文化学科初年次セミナー
【オンライン開催】安全講習会（理学部）<説明：係員（自然）1名>
- ホターカレッジ（保健）
<於：名谷 D201 教室 説明：係員（保健）1名、リテラシー係>
- 25（日）～5月6日 兵庫県に緊急事態宣言が発出された
- 26（月） 活動制限指針（授業・学生の入構）は、レベル1の「遠隔授業を中心に開講」となり、5月からの社会科学系図書館以外の時間外開館は中止
- 26（月） 法学部初年次セミナー
- 27（火） 【オンライン開催】ホターカレッジ（国際協力）
<説明：係員（社会）1名、リテラシー係>
- 【オンライン開催】経営学部初年次セミナー
<説明：係員（研究所）1名、リテラシー係>
- 27（火）～5月10日（月）社会科学系図書館 第1回図書委員会（メール回議）
- 28（水） 【オンライン会議】近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験実施委員会（2021年度第1回会議）
- 30（金） 第1回神戸大学出版会出版運営委員会
第1回館長・副館長・分館長懇談会<於：自然科学系図書館、オンライン>
- 【オンライン開催】ホターカレッジ（法）
<説明：係員（人文）1名、リテラシー係>

【中止】経済学部初年次セミナー

【中止】国際人間科学部グローバル文化学科初年次セミナー

< 5月 >

- 7 (金) ~ 5月31日 緊急事態宣言の延長が発表された
- 28 (月) ~ 6月20日 緊急事態宣言の延長が発表された
- 7 (金) 海洋政策科学部初年次セミナー
【中止】経済学部初年次セミナー
【中止】国際人間科学部グローバル文化学科初年次セミナー
- 10 (月) 法学部初年次セミナー
【Zoom】ULiCS 第1回定例会
- 11 (火) 第1回OAWG <於：社会科学系図書館 6F 会議室、オンライン>
- 12 (水) 理学(内野先生) ホターガイダンス <於：情報基盤センター分館第2演習室>
- 13 (木) 理学(内野先生) ホターガイダンス <於：情報基盤センター分館第2演習室>
- 13 (木) ~ 20 (木) 第1回研究開発室会議電子化部会 (メール回議)
- 14 (金) 【中止】経済学部初年次セミナー
【中止】国際人間・安達先生初年次セミナー <説明：リテラシー係>
【延期】カンテレビジョンと震災文庫に関する打合せ
- 17 (月) 法学部初年次セミナー
- 17 (月) ~ 20 (木) 【オンデマンド】情報基礎 (5) 情報の活用実施
- 17 (月) ~ 21 (金) 選書WG (メール回議)
- 18 (火) 海事科学分館 第1回図書委員会 <於：事務棟4階第1会議室>
- 19 (水) 海事(岩田先生) ホターガイダンス
<於：海事科学分館 説明：係員(海事) 1名、リテラシー係1名>
【オンライン】人文科学図書館 第1回図書委員会
- 20 (木) 【Zoom】サベレス課連絡会議
国際人間(松本先生) ホターガイダンス
<説明：係員(国文) 1名、リテラシー係>
- 21 (金) 【中止】経済学部初年次セミナー
【オンライン】工学部応用化学科初年次セミナー <説明：係員(自然) 1名>
- 25 (火) 【オンライン】第121回日本医学図書館協会近畿地区会例会
<出席：医学分館長、医学サベレス係長、係員1名>
- 31 (月) 【オンライン】医学分館 第1回図書委員会

< 6月 >

- 21 (月) ~ 7月11日 緊急事態宣言が解除され、まん延防止等重点措置に移行
- 1 (火) 【オンライン】自然科学系図書館 第1回図書委員会
【Zoom】NII との GakuNin RDM 打合せ
<出席：部課長、管理課補佐、電子図書館担当係長、係員1名>
- 3 (木) 【Zoom】兵庫県大学図書館協議会役員会・企画委員会合同会議
<出席：部課長、管理課補佐、企画係長>
- 4 (金) 発達(岡崎先) ホターガイダンス
<説明：係員(国文) 1名、リテラシー係>
- 7 (月) ~ 11 (金) 【オンライン】2021年度漢籍整理長期研修
<主催：東京大学東洋文化研究所 受講：係員1名>
- 8 (火) ~ 15 (火) 国際文化学図書館 第1回図書委員会 (メール回議)

10 (木)	【Zoom】サベース課連絡会議
10 (木) ~ 16 (水)	人間科学図書館 第1回図書委員会 (メール回議)
16 (水)	【オンライン】保健科学図書室 第1回図書委員会
18 (金)	【オンライン】自然科学系図書館 第1回図書委員会 (つづき)
21 (月) ~ 25 (金)	経済経営研究所図書館 第1回図書委員会 (メール回議)
22 (火)	第1回情報リテラシー教育支援WG
24 (木)	カンテレビジョンと震災文庫に関する打合せ <於：社会科学系図書館震災文庫 出席：補佐、係長2名、係員1名>
25 (金)	【オンライン】第68回国立大学図書館協会総会
28 (月)	【Zoom】ULiCS 第2回定例会
29 (火)	【Zoom】第2回館長・副館長・分館長懇談会 SciFinder ガイダンス<説明：リテラシー係>

< 7月 >

1 (木)	第2回神戸大学出版会出版委員会
5 (月)	【オンライン】第1回大学図書館近畿仁シティブ運営委員会
5 (月) ~ 16 (金)	【オンライン】大学図書館職員長期研修 <受講：係長1名>
6 (火)	【Zoom】第1回図書館運営委員会
6 (火) ~ 8 (木)	【オンライン】第19回日本古典籍講習会 <受講：係員4名>
8 (木)	【Zoom】サベース課連絡会議 Academic OneFile・General OneFile オンライン講習会
12 (月)	まん延防止等重点措置の適用が解除され、徐々に対面による授業が再開
12 (月)	入試広報のスチール撮影<於：社会科学系図書館>
12 (月) ~ 16 (金)	人間科学図書館 第2回図書委員会 (メール回議)
13 (火)	経済経営研究所図書館 第2回図書委員会
21 (水)	【オンライン】第1回大学図書館近畿仁シティブ能力開発専門委員会 <担当：担当補佐>
27 (火)	【オンライン】近畿地区国立大学法人等職員統一試験機関訪問説明会
28 (水)	【オンライン】第120回兵庫県大学図書館協議会総会 資金管理に関する内部監査 <於：人間科学図書館>
29 (木)	国際教育総合センター (黒田先生) オナーガイダンス
30 (金)	【Zoom】ULiCS 第3回定例会
31 (土)	近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験 <於：京都大学附属図書館 要員：部課長>

< 8月 >

4 (水)	【オンライン】人文科学図書館 第2回図書委員会
5 (木)	【Zoom】サベース課連絡会議
9 (月)	休日の授業実施日 ※図書館は自然科学系図書館のみ開館 台風9号による暴風警報発令のため11時にて閉館
10 (火) ~ 12 (木)	近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験 (二次) <於：社会科学系図書館 6F 会議室>
11 (水) ~ 12 (木)	保健科学図書室臨時休業
13 (金) ~ 17 (火)	令和3年度一斉休業 ※図書館は全館室閉館
20 (金)	【オンライン】講演会「人文学研究科とDX」

	<参加：補佐1名、係長3名、係員2名>
27 (金)	医学分館 第2回図書委員会
27 (金)～31 (火)	人文科学図書館 第3回図書委員会 (メール回議)
30 (月)～9月3日	海事科学分館 第2回図書委員会 (メール回議)
<9月>	
1 (火)～4 (金)	第1回附属図書館評価委員会 (メール審議)
3 (金)	防災月間イベント (於：キャンパスライフ支援センター) <参加：係長1名>
6 (月)～10 (金)	オンライン読書室 <担当：選書WG> 【オンライン】2021年度漢籍整理長期研修 <受講：係員1名>
7 (火)	【オンライン開催】法学(木下先生)ホダカゲイダンス<説明：リテラシー係> 名谷祭企画のための保健科学図書室撮影 【オンライン】目録システム書誌作成研修<受講：係長1名>
8 (水)	【オンライン】第2回大学図書館近畿仁シティブ運営委員会
9 (木)	【Zoom】サビズ課連絡会議
10 (金)	学内会計監査 <於：自然科学図書館>
13 (月)	【オンライン】第1回国立情報学研究所図書館系サビズ作業部会 <出席：係長1名>
13 (月)～17 (金)	医学分館 第3回図書委員会 (メール回議)
14 (火)	【オンライン】目録システム書誌作成研修<受講：係長1名> 学内会計監査 <於：経済経営研究所図書館> 保健学研究科PR動画撮影<於：保健科学図書室>
15 (水)	【Zoom】ULiCS第4回定例会
16 (木)	資金管理に関する内部監査 <於：医学分館>
17 (金)～21 (火)	医学分館 第4回図書委員会 (メール回議)
21 (火)	鶴甲第1キャンパス消防訓練 <参加：補佐1名、係長1名> 【オンライン】日本古典籍研究国際コンソーシアム代表委員会<出席：係長1名> 【オンライン】ULiCSと神戸松蔭女子学院大学図書館サビズ交流会<アトリチWG>
27 (月)～10月1日	人間科学図書館 第3回図書委員会 (メール回議)
28 (火)～30 (木)	第一種衛生管理者試験受験準備講習会 <於：瀧川記念学術交流館2F第会議室 参加：係員1名>
28 (火)	【オンライン】国際業務研修①<受講：係員2名>
29 (水)	学内会計監査 <於：社会科学系図書館>
29 (水)～30 (木)	【オンライン】キャンパスライフ支援センターホダカゲイダンス<情報リテラシー係>
30 (木)～10月7日	国際文化学図書館 第2回図書委員会 (メール回議)
<10月>	
1 (月)～11月15日	電子ブックリクエストキャンペーン
4 (月)～8 (金)	漢籍担当職員講習会(初級) <参加：係員1名> 社会科学系図書館 第2回図書委員会 (メール回議)
5 (火)	【オンライン】国際業務研修① <受講：係員2名>
6 (水)～12 (火)	自然科学系図書館 第2回図書委員会 (メール回議)
8 (金)	機関別認証評価に係る映像資料撮影<於：社会科学系図書館> カンテレビジョンと震災文庫に関する打合せ <於：社会科学系図書館震災文庫 出席：担当補佐、係長1名、係員1名>

- 1 1 (月)～1 8 (月) 保健科学図書室 第2回図書委員会(メール回議)
 1 2 (火) 【オンライン】国際業務研修② <受講:係員2名>
 1 4 (木) 【Zoom】サベィス課連絡会議
 1 5 (金) 【オンライン】兵庫県大学図書館協議会役員会・企画委員会 意見交換会
 <出席:部課長、管理課補佐、企画係長>
 デジタル資料展「村上家文書の世界」公開
 【Zoom】ULiCS 第5回定例会
 1 5 (金)～2 1 (木) 経済経営研究所図書館 第3回図書委員会(メール回議)
 1 8 (月)～2 1 (木) お昼休みトークイベント<於:総合・国際文化学図書館・オンライン、
 参加:1 3 2名>
 1 9 (火) 【オンライン】国際業務研修③ <受講:係員2名>
 ガイダンス社会系図書館ツアー
 【オンライン】月刊JPCOAR 第1回学術情報流通の情報収集に役立つサイト紹介
 <参加:係員1名>
 2 5 (月) 施設部との意見交換(キャラバン) <於:社会科学系図書館会議室
 出席:館長、部課長、管理課補佐、係長1名、>
 2 6 (火) 【Zoom】第3回館長・副館長・分館長懇談会
 【オンライン】国際業務研修④ <受講:係員2名>
 Web of Science・EndNote Online オンライン講習会<情報リテラシー係>
 2 6 (火)～2 9 (金) 【オンライン】大学図書館職員短期研修 <受講:係員1名>
 2 7 (水) 【オンライン】西洋社会科学古典資料セミナー <受講:係員4名>
 2 7 (水)～2 9 (金) 【オンライン】近畿地区国立大学法人等会計事務研修 <受講:係員1名>
 2 8 (木) 車いすアクセシビリティ調査<於:社会科学系図書館>
 2 9 (金) 【Zoom】サベィス課連絡会議

<11月>

- 1 (月) 大学経営人材育成セミナー① <受講:課長1名>
 農学(森垣先生)オーダーガイダンス<於:自然科学系図書館4階会議室説明:
 リテラシー係>
 【ワデマンド】情報基礎(5)情報の活用実施
 1 (月)～2 9 (月) 非常時参集訓練 <於:総合・国文図、社会系図、人文図、医学図
 参加:9名>
 1 (月)～1月14日 自然科学系図書館改修工事のため長期貸出開
 1 (月)～2023年3月31日(予定) 改修工事に伴うILL受付停止 <自然科学系図書館>
 2 (火) 「神戸大学の活動制限指針」において全ての項目についてレベル1への引き
 下げが発表された
 【Zoom】第2回附属図書館運営委員会
 【オンライン】国際業務研修⑤ <受講:係員2名>
 オンラインガイダンス「はじめての論文検索」①<リテラシー係>
 【オンライン】図書館総合展「医中誌 Web 大規模バージョンアップのご紹介」
 <参加:係員1名>
 【オンライン】大学における研究データポリシーの策定について
 <参加:係長1名、係員1名>
 4 (木) オンラインガイダンス「はじめての論文検索」②<リテラシー係>
 8 (月) 大学経営人材育成セミナー② <受講:課長1名>

- 8 (月) ~ 12 (金) 漢籍担当職員講習会 (中級) <於: 京都大学東アジア人文情報センター
受講: 係員 1 名>
- 9 (火) 【オンライン】国際業務研修⑥ <受講: 係員 2 名>
【オンライン】図書館総合展「学術情報を見つける、集める、使ってみる」
<参加: 係員 1 名>
【オンライン】メタデータ☆トワイライト <参加: 係長 1 名、係員 1 名>
- 9 (火) ~ 15 (月) 経済経営研究所図書館 第 4 回図書委員会 (メール回議)
- 10 (水) 国際文化学 (松本先生) ホルダーガイダンス
<於: 総合・国文図書館 2 階 LC 説明: リテラシー係>
【オンライン】図書館総合展「学術機関による研究データのキュレーション
サービスを考えよう」<参加: 係員 2 名>
【オンライン】図書館総合展「これからの学術情報コミュニティ」
<参加: 係員 2 名>
- 11 (木) 【オンライン】図書館総合展「医薬生物学分野におけるプレプリントの動向」
<参加: 係員 1 名>
- 12 (金) KUPI プログラム聴講生ガイダンス <於: 人間科学図書館>
- 15 (月) 大学経営人材育成セミナー③ <受講: 課長 1 名>
- 16 (火) 【オンライン】国際業務研修⑦ <受講: 係員 2 名>
第 11 回環境保全推進センター全学報告会 <参加: 係員 1 名>
- 17 (水) 【オンライン】月刊 JPCOAR 第 2 回チャプターレベルのメタデータ流通
<参加: 係員 1 名>
- 18 (木) 【Zoom】サービス課連絡会議
多様な働き方推進研修「時短勤務者研修」
<於: 瀧川記念学術交流会館大会議室 参加: 係長 1 名>
- 19 (金) 館長学生懇談会 <於: 自然科学系図書館 4 階会議室>
【オンライン】目録システム書誌作成研修 <係長 1 名>
JPCOA 主催フォーラム「JPCOAR2021: これからのオープンアクセスと JPCOAR
を考える」<参加: 係員 1 名>
【オンライン】図書館総合展「オンライン工場見学! 製本ができるまで」
<参加: 係長 1 名>
- 22 (月) 【オンライン】図書館総合展「コロナ禍での Libro の活動報告 (流通科学大学)」
<参加: 係員 1 名>
- 22 (月) ~ 3 月 31 日 海事科学博物館巡回パネル展「ふね遺産進徳丸」
<於: 社会科学系図書館展示ホール>
- 24 (水) 農学 (森垣先生) ホルダーガイダンス
<於: 自然科学系図書館 4 階会議室 説明: リテラシー係>
- 26 (金) 第 1 回広報研修会 (テーマ: 動画撮影)
<於: 眺望館 1 階ハリュースクール (V. School) ラウンジ 参加: 係員 1 名>
【オンライン】国立国会図書館レファレンスサービス研修「科学技術情報の
調べ方」<受講: 係長 1 名、係員 2 名>
カンパニオンと震災文庫に関する打合せ <於: 社会科学系図書館震災文庫
出席: 情報管理課課長補佐、係長 1 名、係員 1 名>
- 29 (月) 大学経営人材育成セミナー④ <受講: 課長 1 名>
【オンライン】国立大学図書館協会近畿地区助成事業研修会「研究データポリシ
ーの作成に向けて」<主担当: 神戸大学附属図書館、申込: 139 名、

最大接続：129名

- 30 (火) 【オンライン】国際業務研修⑧ <受講：係員2名>
【オンライン】図書館総合展シェパード・リカール・ネイチャーオンラインセミナー「アジア・パシフィックにおける初の転換契約と日本へのインパクト」<参加：係長1名>

<12月>

- 1 (水) 第3回神戸大学出版会出版委員会
【オンライン】近畿イニオシアティブ初任者研修
<参加：係員2名、運営：サービス課補佐1名>
【Zoom】ULiCS第6回定例会
- 1 (水) ~ 2023年3月 自然科学系図書館改修工事のため臨時休館
- 3 (金) 【オンライン】第3回大学図書館近畿イニオシアティブ運営委員会
【オンライン】第5回MLA学術集会 <参加：係員2名>
- 6 (月) 海事(岩田先生) オーダーガイド <於：海事科学分館学生自習室
説明：係員(海事)1名、リテラシー係1名>
【オンライン】第122回日本医学図書館協会近畿地区会例会
<出席：情報サービス課長、係長1名>
- 7 (火) 【オンライン】月刊JPCOAR第3回研究データ管理・利活用とNII研究データ基盤(NII Research Data Cloud) <参加：係員2名>
【オンライン】大学図書館職員のための「デジタル教科書による授業運営の現状と課題」<参加：サービス課長、補佐、係員2名>
- 7 (火) ~ 13 (月) 保健科学図書室 第3回図書委員会(メール回議)
- 8 (水) 【オンライン】デジタルオンライン新機能追加についての説明会<参加：係員1名>
【オンライン】国際図書館協力セミナー <参加：係員1名>
- 9 (木) 【Zoom】サービス課連絡会議
オンライン読書ルーム担当者交流会(東京学芸大学、はこだて未来大学、徳島大学、神戸大学) <出席：係員2名>
【オンライン】EBSCOオンラインセミナー「Usage Consolidationについて」
<参加：係長1名>
- 9 (木) ~ 10 (金) 令和3年度図書館等職員著作権実務講習会
<於：京都烏丸コンベンションホール 受講：係員1名>
- 9 (木) ~ 16 (土) 第3回附属図書館運営委員会(メール回議)
- 10 (金) 全学防災訓練
【オンライン】国立大学図書館協会近畿地区図書系人事総会担当課長・事務長懇談会
【オンライン】国立大学図書館協会近畿地区協会事務連絡会
<参加：館長、部長、情報管理課長、情報サービス課長>
- 13 (月) ~ 27 (月) 【オンデマンド】図書館等職員著作権実務講習会オンデマンド配信
<受講：係員3名>
- 16 (木) 資金管理に関する内部監査 <於：総合・国際文化学図書館>
海事(井尻先生) オーダーガイド <於：海事科学分館学生自習室
説明：係員(海事)1名、リテラシー係1名>
【オンライン】(JMLA)診療ガイドライン文献検索ワークショップ <参加：係員1名>
- 17 (金) 「神戸大学における令和3年度の授業実施に係る基本方針について」(最終更新2021年10月1日)に基づき、同時入館者数および席数の見直しを行

い、最大で総席数の半分まで増やした。

オンテレビジョンと震災文庫に関する打合せ <於：人文学研究科C棟プレゼンテーションルーム 出席：情報管理課課長補佐、係長1名、係員1名>

- 21 (火) 【ZOOM】医学分館 第5回図書委員会
21 (火)～27 (月) 国際文化学図書館 第3回図書委員会(メール回議)
23 (木) 国際(工藤先生)オーダーカクダンス <於：総合国際文化学図書館2階LC
説明：リテラシー係>
【ZOOM】法学研究科・院生オーダーカクダンス <説明：情報リテラシー係>
資金管理に関する内部監査 <於：海事科学分館>
28 (火) 自衛消防・防火訓練 <於：海事科学分館>

<1月>

- 7 (金) 自衛消防・防火訓練 <於：経済経営研究所図書館>
11 (火)～17 (月) 経済経営研究所図書館 第5回図書委員会(メール回議)
13 (木) 【Zoom】サベス課連絡会議
14 (金) 自衛消防・防災訓練 <於：保健科学図書室>
センター試験に伴い13時で閉館(保健科学図書室)
センター試験に伴い17時で閉館(社会系図書館)
16 (土) センター試験に伴い休館(社会科学系図書館)
18 (火) 「神戸大学の活動制限指針」において一部レベル2への引き上げが発表された
自衛消防・防災訓練 <於：大学文書史料室>
19 (水) 令和5年度概算要求、令和4年度事業計画ヒアリング <於：本部大会議室>
什器検討のためのショールーム見学 <参加：係長1名、係員3名>
20 (木) 資金管理に関する内部監査 <於：人文科学図書館、大学文書史料室>
24 (月) 【Zoom】第4回館長・副館長・分館長懇談会
25 (火) 【Zoom】第4回附属図書館運営委員会
【オンライン】月刊JPCOAR 第4回学術コミュニティセミナー
<参加：係長1名>
27 (木)～2月20日 兵庫県にまん延防止等重点措置が適用される
31 (月) 部局年次計画等に関するヒアリング<於：本部大会議室>
第一種衛生管理者試験の受験 <於：近畿安全衛生技術センター
受験：係員1名>

<2月>

- 1 (火) 【オンライン】デジタル資料の長期保存に関するインタビュー
<対応：係長2名>
7 (月)～14 (月) 人間科学図書館 第4回図書委員会(メール回議)
資金管理に関する内部監査 <於：社会科学系図書館>
10 (木) 【Zoom】サベス課連絡会議
【オンライン】国大図協北海道地区協会「魅せるオンライン教材 デジタル時代のリテラシー教育」<参加：係長1名、係員1名>
14 (月) 【オンライン開催】第11回被災地の図書館と震災資料の収集・公開に係る
情報交換会 <挨拶：館長 出席：部長、管理課長、管理課課長補佐、
震災文庫担当係2名>

	＜出席：係長 1 名＞
	後期入学試験に伴い 13 時で閉館（保健科学図書室）
	後期入学試験に伴い 17 時で閉館（社会科学系図書館）
1 1（金）～1 6（水）	人文科学図書館 第 4 回図書委員会（メール回議）
1 3（土）	後期入学試験に伴い休館（社会科学系図書館）
1 6（水）	神戸大学ガイバーシティフォーラム
	＜オンライン参加：部長、ワンデマンド参加：補佐 1 名、係長 1 名＞
	2021 年度オープンアクセスポジトリ推進協会総会
1 7（木）	第 2 回情報リテラシー教育支援 WG
1 8（金）	カンテレビジョンと震災文庫に関する打合せ ＜於：社会科学系図書館会議室＞
	出席：情報管理課課長補佐、震災担当係長、係員 1 名＞
2 2（月）	【Zoom】第 5 回館長・副館長・分館長懇談会
	【Zoom】第 2 回附属図書館評価委員会
	【オンライン】第 6 回学術フェスティバル（月刊 JPCOAR） ＜係長 1 名＞
2 2（月）～2 3（火）	入退館管理システム設置作業 ＜於：海事科学分館＞
2 4（木）	神戸大学博士学位記授与式 ＜於：神戸大学出光佐三記念六甲台講堂＞
	【オンライン】医中誌バージョンアップミニ質問会 ＜参加：情報リテラシー係＞
2 5（金）	神戸大学学位記授与式 ＜於：神戸ポートアイランドホール＞
	【オンライン】研究開発室教育支援部会懇談会
3 0（木）	【Zoom 開催】第 2 回附属図書館運営委員会